

「仙台市基本計画」 中間案に寄せられたご意見と本市の考え方

※聴取手法のパブリックコメントは「パブコメ」と簡略して表記

1 計画全般に関するご意見（567件）

①はじめに（6件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
1	仙台市の人口自然減が加速している。昨年はマイナスに転じた平成29年以降最大の▲1,331人である。急激な変化を折込み済なのか。自然減を抑制し、就職時の市外流出・社会減に歯止めをかける内容は見当たらない。どの都市にも当てはまる内容ではなく、ここ仙台の「未来予測」に変化を動機付ける強く、熱いメッセージの発信を望む。100万人割れも加速している。	将来人口推計にお示ししているとおり、仙台市の人口は近い将来にピークを迎え、その後緩やかに減少していくと予測しております。近年、出生数を死亡数が上回る「自然減」が続いていることに加え、その減少数は拡大しており、そのような人口動態は地域によって様々でありますことから、地域特性に応じたきめ細かな対応が必要だと考えております。また、増加が続いている「社会移動」の視点からは、コロナ禍を経て、リスク分散や働き方の多様化に伴う地方への意識が高まる中、仙台市の拠点性を高め、人の流れを引き寄せる取り組みが重要であると考えており、それらの視点を踏まえ、総合計画審議会において人口減少が著しい東北の中での仙台の役割や活力を生み出すために必要な取り組みについて議論を重ねていただきました。	パブコメ
2	「人口減少対策」をもう少し戦略的にコンセプトとして出して欲しかった。	中間案では、テクノロジーの活用などにより、社会の変化への対応力向上の視点を織り込むとともに、次世代放射光施設の設置などによる産業集積や起業の促進などにより、東北発のイノベーションの創出を目指す「TOHOKU未来プロジェクト」や、多くの人が集う仙台の交流の要所として、ビジネスや交流基盤を整備する「都心創生プロジェクト」を掲げました。また、子育てしやすい環境づくりを盛り込んだ「笑顔咲くプロジェクト」の推進など、総合的な視点から、人口減少局面においても市全体が活力に満ちたまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
3	150万人を目指すのは可能と考えてチャレンジを。	総合計画審議会からは、安全安心であることが選ばれるまちへの第一歩であるというご意見もいただいております。安全安心を確保しながら、良好な環境のもとで、選ばれるまちを目指したいという趣旨でございます。8つのチャレンジプロジェクトのいずれにも、暮らしに直結した内容を盛り込んでおり、市民の皆様が安心して暮らし、仙台を誇りに思うことができるようなまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
4	この基本計画を立てるにあたって、人口を何万人に想定するのか。財政面でも非常に、コアな部分だと思う。100万人が200万人になるとは思わないが、100万人ぐらいの規模で、この基本計画が作られるのか。	令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間を計画期間としております。	説明会
5	基本計画には、1・4・10ページに選ばれることを目標とする記述が目立つ。まちづくりの目標は、そこに住んでいる仙台市民が安心して幸せに暮らしていけることを目標にするべき。選ばれるかどうかはまちづくりの結果である。選ばれるという外部の視線評価を気にするのは施政者やリーダーの上から目線であって、市民の立場に立った発想とは感じられない。選ばれるという目標は撤回して欲しい。		パブコメ
6	10年計画はいつからいつまでの期間なのかわからない。		説明会
②新たな杜の都に向けて（33件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
7	「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」というタイトルは、とても良いと思う。「目指す都市の姿」の都市個性に様々な取り組みがあるが、ここに「平和都市宣言」を加えて欲しい。仙台には75年前米軍による空襲があり1,400名近い方々が亡くなっており、戦後、苦労された方も多くいらっしゃる中で、その記憶もあと少しで消えていく運命である。「平和都市宣言」をすることで、過去の歴史から学び未来に生かしていく姿勢により、市民が誇りを持ち、他市へのアピールにもつながり、仙台らしさがより出るのではないか。	今回の中間案では、都市個性の中で歴史を振り返り、戦災で失われた都市部の緑を再生し、市民の皆さまの力で杜の都をつくりあげてきた姿勢にも着目しながら、目指す都市の姿をお示ししております。平和の大切さやジェンダー平等の意識を広めていくことは重要な視点と認識しており、チャレンジプロジェクトの「心の伴走プロジェクト」において、多様性が尊重される環境をつくることを盛り込むなど、今回の計画の策定にあたって、これらの視点も踏まえて作成しております。	パブコメ
8	今回の基本計画は、日本国憲法に照らしてどうなのか。日本国憲法にある平和理念、平和ということを仙台市としてどのように進めていくのか、それをもっと明確にしたい。それから同じように、ジェンダー平等という視点、LGBT。多様な人たちの人権を大事にしていく、その視点もぜひお願いしたい。		説明会
9	本文の「世界からも選ばれるまち」とか、「常に高みを目指す姿勢の象徴として、最上級を表す『est』」というフレーズの根底には、この社会や都市、コミュニティを蝕んできた競争・成長指向がある。この「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」というキャッチフレーズは、永遠に競争し成長し続けようということなのか。「挑戦」には失敗も付き物であるが…。	総合計画審議会では、変化の激しい時代においては、失敗することも織り込みながらチャレンジをしていくことが大切であるといった議論がございました。コロナ禍にあって、安全安心な基盤を守ることの重要性についても改めて認識しているところであり、そうした点も強みとしながら、選ばれるまち目指してまいりたいと考えております。	パブコメ
10	基本計画では、都市の個性について環境、共生、学び、活力の4つに集約しているが、「活力」そのものは個性ではない。その中味である「広域拠点」「広域的な都市基盤」「東北の中核」「都市機能の集積」は、住民の生活の必須条件でもない。環境、共生、学び、活力に描かれている内容は、「いいとこ取り」のみで、行政主導により蓄積されてきた問題、課題等には全くふれられていない。従って全体として「皮相上滑り」で、何をどのように取組もうとしているのか判然としない。	仙台は東北唯一の政令指定都市であり、経済、交流などの面で高度な都市機能を有しており、そうした資源を活かして、東北の発展に貢献することも、本市の重要な役割の一つであると認識しております。お示した4つの都市個性は、本市の強みとして記載したものであり、8つのチャレンジプロジェクトの推進にあたっては、それらを活かしながら、課題解決や魅力の創出を図ってまいりたいと考えております。	パブコメ
11	上位概念として「安全で安心して暮らせるまちづくり」を掲げて欲しい。この10年間は津波や地震、洪水、新型コロナウイルス感染症等の地球温暖化の問題とも関連して、市民等にとって脅威な事象が相次いで発生し、今後も拡大が懸念される。また、少子高齢化が進行し、高齢者が安心して暮らせる社会が喫緊の課題であり、市政運営としても、子どもからお年寄りまでが「安全で安心して暮らせるまち・社会」が大前提と考えるからである。	安全で安心して暮らせるまちづくりの視点につきましては、審議会においても様々な議論をいただくなど、その重要性を認識しており、「目指す都市の姿」において、災害対応関係は「杜の恵と共に暮らすまちへ」において、自然と人の力を活かした災害対応力を備えることを明記しており、また、高齢者の方々への視点は「多様性が社会を動かす共生のまちへ」において、多様性が尊重され、包摂される、誰もが安心して暮らすことができるまちを掲げております。併せて、具体的取り組みにつきましても、「チャレンジプロジェクト」や「未来をつくる市政運営」に盛り込んでいくところです。	パブコメ
12	コロナ禍の中で、保健所・医療・介護・障害者福祉・保育などが重要で脆弱な実情を改善することが急務であることが明確になり、その充実が市民の共通の願いになっていると思う。「選ばれるまち」「挑戦を続ける」方向性と目標に「暮らしを支える」ことを根幹に置いて欲しい。		説明会
13	「選ばれるまち、挑戦を続ける都市」を打ち出しているが、計画全体を通して、暮らしをイメージできるような記載がない。多くの人から選ばれるような仙台になっていくためには、暮らしの安心というものが根底にあり、市民の暮らしを支える役割を果たしていくことを根底に置くべき。		説明会

14	ネガティブや保守的なイメージから脱却し、東北の中心都市としての名に恥じない、未来志向の最先端技術を結集した都市への成長を目標に掲げたい。 まずは仙台市中心部の街並み整備。街中で、子連れでも休める、子どもを遊ばせられる施設の開設。IT産業の誘致、市街地のIT化整備。便利で、子育てしやすい優しいまちづくりこそ日本一魅力ある都市作りに繋がる。ぜひ次の目標にしたい。	まちづくりの理念として掲げている「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」は、課題立脚型ではなく、未来志向で国内外から選ばれる都市を目指す姿勢を示したものです。 「子育てしやすい優しいまちづくり」は重要な視点だと考えており、ご例示の中心部の街並み整備は「杜と水の都プロジェクト」、子どもや子育て家庭が楽しめる環境づくりとしては「笑顔咲く子どもプロジェクト」に盛り込んでおります。昨今は仙台においてもICT関連企業の誘致が進んでおり、現在もICTを活用して福祉や防災など様々な分野との掛け合わせる事業などを進めていますが、一般のコロナ禍も教訓に、より一層各分野における先端技術の導入を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
15	「未来と多様性」がテーマにあり、全体的に賛成である。	未来に杜の都をどのように引き継いでいくのかということは計画の大きなテーマであり、そのためにも多様性は重要であるという認識のもと、審議会においてもご議論いただきました。	パブコメ
16	“The Greenest City”と最上級を用いていることに強い違和感を覚える。定冠詞を付して最上級にしたということは、仙台市以外の他のすべての都市を凌駕するということである。それを目標にするなら、凌駕したことを証明できなければいけない。どのような尺度で測り、どのように達成できたと主張するのか。それを示すことができないのなら、安易に最上級を使うべきではない。一方、Greenが何を意味するのかもよくわからない。「私たちが大切にしていきたい様々な意味を含めた」とある。そこには、LivabilityやSustainability、Viability、Generosity、Flexibilityなど人々の暮らしや成長に大切な意味を持つ概念は含まれるのか。英語の語義的に含まれるようには思えないが、仮に含まれているとしてもそれらは単に並列ではない。具体の分野において実現すべき目標に照らして優先順位が変化するなど、異なる関係性が求められる。理念として掲げるのなら、市民が誰でも理解できる言葉で表して欲しい。	まちづくりの理念として、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」を掲げております。副題の「“The Greenest City” SENDAI」は、杜の都のイメージカラーでもある「Green」という言葉に「nature（自然）」「comfort（心地よさ）」「growth（成長）」「Green light（青信号の進め）」といった4つの目指す都市の姿と関連した意味を含め、世界を見据えて高みを目指すまちづくりの方向性を表したものでございます。数値目標を含めた具体の事業につきましては、概ね3年ごとに定める実施計画において示すとともに、計画策定後につきましても、このまちづくりの理念をはじめ、計画の共有に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
17	理念に掲げられている「The Greenest City」という言葉が、多くの方にとってイメージしづらいのではないかと。		パブコメ
18	サブタイトルの「"The Greenest City" Sendai」は、なぜ英語でなければならないのか。理由がわからない。昔の計画には「悠久の杜の都」とか美しい日本語が使われていた。なぜ、美しい日本語を捨てて英語にするのか、窓口の職員が英語を話せるようになる方が先ではないのか。基本計画は市の憲法のようなものだと聞く。そんなに大事なもののなら少なくとも表題に来るところくらい美しい日本語で書くべきだ。		パブコメ
19	“The Greenest City” SENDAI”サブタイトルはわかりにくい。「新しい杜の都へ」の方はわかりやすいのではないかと。		説明会
20	この“The Greenest City”という言葉とか、英語やカタカナなど非常に見栄えがする表現があるのだが、生活感や具体性に乏しくて、ピンとこない。100万都市で、こういう都市計画をつくるという点では、数十人の委員が審議会で議論して作ったとしても、庶民の感覚からかけ離れ、実感に乏しいものにならざるをえない。		説明会
21	まちづくりの理念については、整備すればするほど「緑と石の都市」になっていくと思う。		説明会
22	「挑戦を続ける」ということを前面に掲げており、ぜひ社会や地域の課題解決に向けた挑戦も掲げて欲しい。非常に前向きな内容がまとめられているが、これからの縮小時代にこの内容だけでよいのか、という点が気になる。	本計画は、人口減少社会においても持続可能なまちづくりを進め、活力を生み出していくという視点のもと作成しておりますが、そのためには市民の皆さまが安全に安心して暮らせることが前提になると考えており、人口減少などに伴い複雑化・多様化する地域課題の解決に向けても、多様な主体との協働により取り組んでまいりたいと考えております。	パブコメ
23	細やかな多方面への配慮があることは必要なのだろうが、仙台の魅力として「日本一」と誇れる目に見える施策とスローガンが必要であると考え。例えば、「教育日本一」「子育て日本一」「安全（交通・犯罪等）」など、仙台に住むことへの期待が持てるものにしていくべき。	今回の基本計画は、未曾有の危機である東日本大震災を乗り越えて初めて策定するものであり、また、新型コロナウイルス感染症という世界規模の危機の最中にあることから、大きな時代の変化を意識した計画とすべきものと考え、策定を進めてまいりました。	説明会
24	保守的な印象があるため、100年に1度の時代の大きな転換点にあるという大局観に立って、国の施策を先取りする、世界をリードする「大胆な変革」を期待する。	その中で、まちづくりの理念として「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」を掲げ、杜の都のイメージカラーでもある「Green」という言葉に	説明会
25	「グリーン」をキーワードにした都市づくりは素敵だと思う。	「nature（自然）」「comfort（心地よさ）」「growth（成長）」「Green light（青信号の進め）」といった4つの目指す都市の姿と関連した意味を含めており、「杜の都」の強みを活かしながら、世界からも選ばれるまちを目指してまいりたいと考えております。	説明会
26	このたびの我がまち仙台市基本計画に大いに期待する。3.11後の復興もほぼ終わりが見えてきた今、次世代に向けての近代都市構築に、仙台市全体を視野に入れた基本計画案が出されたことは誠に興味深い。市民への説明会を重ね、官民で知恵を出し練り上げてこそ最良の計画案となる。新たな杜の都を築こう！		説明会
27	説明会のタイミングとコロナ禍による問題が重なったが、このことへの言及がないと「絵に描いた餅」になってしまうのでは。	審議会においても、コロナの状況を踏まえた計画のあり方についての議論を行っており、社会変化への対応力やテクノロジーの活用などを盛り込むなど、コロナ禍を踏まえた内容としているところです。	説明会
28	コロナや5G等、現在の重要なキーワードが抜けているので、時代に合わせた記載を加えて欲しい。		説明会
29	10年間で課題が変化していることを感じる。	一般のコロナ禍のように先を見通すことが困難で、課題の多様化・複雑化が進む時代環境にあり、市全体として社会の変化への対応力を高めながら、まちづくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
30	仙台市としての特徴や魅力は何か。	中間案では、仙台の歴史を紐解きながら、「環境」「共生」「学び」「活力」の4つの都市個性をお示しし、それらの都市個性に立脚した、目指す都市の姿を定めました。	説明会
31	全体的に、仙台の歴史を大切にしている視点やそれを活用した方向性を示すべきではないか。	また、目指す都市の姿の実現に向けた「チャレンジプロジェクト」を掲げたところであり、都市個性ともいうべき、仙台の強みや魅力を活かす視点を持ってまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
32	まちづくり計画を推進するには、牽引者が必要なので、まちづくりの理念に向かって、政策企画課の職員の皆さんはリーダーシップを持って励んで欲しい。前に進むと必ず問題が出るが、信念を持って進んでください。きっと素晴らしい仙台“The Greenest City”ができると思う。	基本計画の所管課として、庁内において計画の共有を図り、各分野の個別計画への反映や具体の事業の検討に向けた調整を行っているところでございます。併せて、市民の皆様とも計画の共有を図りながら、まちづくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
33	国は地方創生と言うが、その動きは少ない。国に頼らず仙台だけで世界に出て欲しい。	国においては、東京一極集中是正に向け、地方創生を推進しているところであり、本市におきましても、地域経済の活性化や交流人口拡大に向けた事業に取り組んでいるところでございます。本市では、すでに出生数を死亡数が上回る「自然減」の状況となっており、高齢者の増加も踏まえると、近い将来には人口減少局面を迎えるものと見込	説明会
34	仙台市をもっと大きな都市にしていく、市民と一体となってグローバルな都市にしていきたい。		イベント

35	国際的に知名度が低いという話があったが、なにか1つ国外に伝わるものなどがあれば良いと思った。	しておりますが、計画の理念や各チャレンジプロジェクトに掲げたとおり、杜の都の自然環境や防災環境都市としての安全・安心の基盤、東北の活力を生み出す拠点性をさらに	イベント
36	もっと県外の人や外国の方に仙台の良さや「また来たい」そして「住んでみたい」と思ってもらえる杜の都になれば良いと思う。	磨き上げ、世界を見据えたまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	イベント
37	市でも歳入がそれほど見込めなくなる時代に入るため、やはり市民の協力も、本当にまさに協働で一緒になってつくり上げていこうというメッセージをもっと強く出さないと、どちらかという高齢者の方々は、行政に言えば何でもしてくれるのではないかという時代を過ごしてきた方が多いはずであり、そうではなく、一緒になってやろうよというメッセージを強くしないと多分駄目だろうと感じる。	中間案は、今後の10年を見越して、あらゆる方々の力をかけ合わせて行きたいという思いを込めてつくっております。これまで市民の皆さまの力というのが、仙台が誇るべき特色だと認識しており、協働によるまちづくりをさらに進め、まちの魅力づくりや地域課題の解決に取り組んでまいりたいと考えております。	説明会
38	仙台市の未来づくりを多種多様な形でつくり上げ、仙台市をより良く成長していくよう、市民一人一人が力を合わせることで、コミュニティを発展させていくことが大事であると改めて理解した。		イベント
39	「チャレンジ」がキーワードになっていて、市民の主体性がより重視されている計画だと理解した。市民の「チャレンジ」をサポートする体制をしっかり作って欲しい。		イベント

③チャレンジプロジェクト（186件）

(1)杜と水の都プロジェクト（28件）

①実施の方向性01 「杜の都」の象徴となる都心空間をつくる（6件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
40	仙台市は杜の都として謳っている以上、森林をなくしてマンションを建てている場所が多くなっていると思う。これ以上、緑をなくさないように建築計画等の制約を設けるような工夫をして欲しい。	中間案では、連続と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤として、まちづくりの理念や目指す都市の姿を掲げております。「杜と水の都プロジェクト」に掲げたとおり、みどり守り育む活動などを通じた市民の皆さまがみどりに親しむ環境づくりに	説明会
41	「杜の都」のブランドを大切にしたい（緑を守って欲しい）。	取り組むとともに、開発事業者をはじめとした関係する方々との連携を図りながら、豊かな自然や杜の都にふさわしい景観の維持・向上に努めてまいりたいと考えております。また、「都心創生プロジェクト」においては、都心全体に賑わいが広がる、魅力的なコンテンツづくりや歩いて巡りたくなる空間づくりについて盛り込んでおります。	説明会
42	杜の都仙台と言われているが、けやきの美しさ・清々しさの中、ゆっくり歩く空間を大切にしたいと思っている。通に座ってくつろげることができるスペースを定禅寺通だけでなく、青葉通や二番丁通りにも広げ、美術館・青葉城址・広瀬川まで足をのびして散策できる（食べたり飲んだりするお店も増えたら嬉しい）まちづくりを目指したい。	東北六魂祭の際は、人出の状況を踏まえて安全性を優先させたため、ご例示のお祭りをお見せすることができませんでしたが、定禅寺通には仙台・青葉まつり、定禅寺通ストリートジャズフェスティバルなど、市民の皆様の手によって多くのイベントが育まれてきたまちづくりの歴史があります。また現在、「杜の都」を象徴するエリアとして更なる魅力の向上を目指し、地元関係者を中心に構成された定禅寺通活性化検討会において、エリアの将来像やそれを実現するための仕組み、実施体制の構築等についての議論を重ねながら、公共空間等を活用した取り組みを展開しているところです。今後とも、	イベント
43	参加者の発言にもあったが、仙台の象徴である定禅寺通をいかに魅力的に再構築できるかが、杜の都・仙台の存在価値を高める鍵になると思う。自由にお店を乱立させるのではなく、テクノロジーを駆使した大型商業施設と伝統的な仙台ならではの店のバランスを取りながら、景観に配慮したコンセプトある出店・建築計画を進めていくべきだと思う。例えば、定禅寺通に東北六県のアンテナショップを設置するなど、東北を牽引する立場としてストリートの有効活用を考えることも、政令指定都市・仙台の責務なのではないか。限られた予算の中で、選択と集中が必要だと思うので、ぜひ定禅寺通への企業出店誘致や補助金制度の導入の含め、前向きに検討して欲しい。10年後、仙台市民はもちろんのこと、日本中、世界中の人が足を運びたくなる定禅寺通そして杜の都・仙台になっていることを切に願う。	民間連携のもと、多くの方が足を運び、滞在したくなるような魅力的なコンテンツの創出や良好な景観の維持・形成など、引き続き、より一層の魅力の向上に取り組んでまいりたいと考えております。	イベント
44	定禅寺通にあまり頼らない方がいい。六魂祭のときは、杜の都のシンボルである定禅寺通りのケヤキの木があったために、青森のねぶたや秋田の竿灯が中止となり、非常に残念だった。		説明会
45	景観法に則った都市づくりとして、宮城野通を「見どころ」として紹介するのはどうか。	宮城野通につきましては、仙台都心を代表する通りの一つであるとの認識のもと、市民も来訪者も楽しめる空間づくりや空間を活用した多様なアイデアを実践できる機会づくりに取り組んでまいりたいと考えております。いただいたご意見は、具体的な施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。	説明会

②実施の方向性02 みどりを楽しめる生活空間をつくる（5件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
46	杜の都、広瀬川など仙台には緑と自然をアピールできる環境があると思うので、住みやすく県外の人や外国の人が居住を考えるまち、観光客も増えるまちづくりを期待する。	「杜と水の都プロジェクト」は、市民の皆様や観光客の皆様がイメージする「杜の都」の象徴である定禅寺通や青葉通などの都心空間づくりなどに加え、広瀬川をはじめとする水辺や、東部沿岸地域にも賑わいを取り戻したいという考えのもと、「水辺を楽しめる親水空間をつくる」を盛り込んでおり、それら全体の魅力を高めることで、市民の皆様が快適に住むことができ、観光客をはじめ市外の方々にとっても魅力あるまちとなるよう努めてまいりたいと考えております。	パブコメ
47	近隣の自然を生かした徒歩旅行路や、中高年が野遊び可能な公園の整備を。	チャレンジプロジェクトの「杜と水の都プロジェクト」を掲げたとおり、市民の皆さまがみどりに親しみ、楽しむことができる環境づくりや、利用者のニーズを踏まえた魅力ある公園づくりを進めてまいりたいと考えております。具体的な施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。	パブコメ
48	街路樹が沢山あり好きだが、伸びて道路標識が隠れて見えず危ないので管理をしっかりとお願いします。	「杜と水の都プロジェクト」に掲げたとおり、街路樹のきめ細かな管理を進めることに加え、日常生活における安全・安心な交通環境の確保についても進めてまいりたいと考えております。	イベント
49	清水沼公園来園者の至福のひとつの満足感を持続させるため、公衆トイレ・東屋の定期的修繕と照明設備の更新が必要。公園樹木の剪定と不要樹木の伐採は、予算に関わらず毎年実施して欲しい。清水沼公園周辺の道路のアスファルト舗装の補修工事と並行して、伊達政宗オブジェ等を国道45号線より公園入口まで設置の検討を願いたい。	清水沼公園については、定期的な点検及び計画的な維持管理により、安全性と利用サービスの安定的な提供の確保に努めてまいります。周辺道路のアスファルト舗装の補修についても、日常の道路パトロール等により損傷箇所を把握に努めるとともに、計画的な補修を行い、安全な交通の確保に努めてまいります。	パブコメ
50	清水沼の命名は、伊達政宗が岩切城攻めの際にこの沼のほとりで軍容をと整えた際に、水鏡に写った勇ましい甲冑姿を見て感激のあまり「澄沼（スズ沼）」と名付けたと言いつづけているからである。湧き出てきた清水の沼であったので、後世で「清水沼」と称え、沼周辺を清水沼と呼ぶようになる。歴史的価値がある清水沼を大々的にアピールしてはどうか。	宮城野区は「地元学」発祥の地と言われており、自分たちが住む地域を調べてまちの物語を探る活動が盛んに行われています。「清水沼」の歴史的背景なども大変興味深いものであり、地元を大切にし、歴史を未来につないでいく区民の方々の主体的な行動を活かす視点を踏まえて、地域づくりを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ

③実施の方向性03 水辺を楽しめる親水空間をつくる (17件)			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
51	広瀬川や東部の海岸公園等の資源に依存した内容になっており、いわゆる実施の方向性01「『杜の都』の象徴となる都心空間をつくる」の「杜の都」として、仙台市民のみならず来仙する観光客がイメージする地域とは切り離されたエリアではないかと思う。「杜と水の都」というのであれば、杜と水は同一の空間で体感できるべきではないか。	「杜と水の都プロジェクト」は、市民の皆様や観光客の皆様がイメージする「杜の都」の象徴である定禅寺通や青葉通などの都心空間づくりなどに加え、海辺の資源や広瀬川をはじめとする水辺をより活用したいという考えのもと、「水辺を楽しめる親水空間をつくる」という項目を立てたものであり、それら全体の魅力を高めることで、杜の都としての可能性を広げてまいりたいと考えております。	パブコメ
52	チャレンジプロジェクトの第一に「杜と水の都プロジェクト」を位置づけ、水の都を目指すことを高く評価する。		パブコメ
53	上愛子や落合を除く愛子には広瀬川におりる道すらない。	現在、広瀬川においては、上流域において親子で水辺に触れ合える機会の創出などに取り組んでおります。市民の皆様に親しまれる広瀬川の環境づくりを進めてまいります。	説明会
54	水の都と銘打っているが、仙台市には川が2本しかない。昔は水の都であったが50年前に小さな川はなくなってしまった。	水の都は、広瀬川や名取川、七北田川という川のエリアと東部沿岸地域の海のエリア、それぞれに賑わいの空間をつくってまいりたいという考えのもと、盛り込んでおります。	説明会
55	広瀬川ばかりでなく、名取川、貞山運河、七北田川、梅田川で囲まれていることを明確にするため、計画の中で「広瀬川など」としないで、これらの河川も明記して欲しい。特に排水路機能以外に活用されていない貞山運河をもっと活用して欲しい。また、六郷堀、七郷堀とその下流、大沼や網の目に流れる用水群を評価して欲しい。	中間案では、森・川・海が一体的につながり、自然資源が循環されることにより、市民生活に自然の恩恵をもたらしてきた歴史的背景をしっかりと受け止める必要があると認識しております。これを踏まえ、豊かな自然環境と高度な都市機能が調和した都市環境を本市の強みとして都市個性の一つに位置付けているとともに、チャレンジプロジェクトにおいては、森林や農地、河川などを広い概念で捉えた「みどり」という表現を用いております。	パブコメ
56	杜の都の風土と文化を考えるなら、江戸時代や明治時代から仙台市民に対し仙台西部地区(秋保・宮城地区・泉西部地区)里山の住民は、コメや薪、炭の供給地となってきた歴史があり、里山の緑を大事に育ててきたことが、仙台市民の生活と、森のダム、田畑なダムなどといわれる、森の水源として大切に守ってきている認識が必要だと思う。大切な命の水も、森によって守られている。特に仙台西部地区の舟形山系の山々と名取川、広瀬川、七北田川を外すわけにはいかないと思われる。広瀬川だけでなく、名取川上流地区、広瀬川、七北田川の水辺も市民にとっては大事な憩いの場であると思う。	「杜と水の都プロジェクト」を掲げたとおり、みどりを守り育てる活動などを通じて、市民の皆さまがみどりに親しみ、楽しむことができる環境づくりを進めてまいりたいと考えております。また、広瀬川を代表的な例に挙げておりますが、名取川や七北田川など、市民の皆さまに愛され、親しまれている水辺における親水性の向上に関係する方々とともに取り組んでまいりたいと考えております。具体の施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。	パブコメ
57	「広瀬川をはじめとする水辺において」とあるが、水辺としては、比較的な大きな河川の他に、街や田園地帯の中を通る用水路も貴重な水辺空間だと思う。関わり方については考える必要があると思うが、そうした提起のためにも、ここでまず「広瀬川から用水路まで多様な水辺において」といった記載にすることを提案する。		パブコメ
58	親水公園(安全に広瀬川に入れる)を作って欲しい。		イベント
59	仙台には、非常に貴重な歴史遺産として四ツ谷用水があるが、これまでも市民レベルで何度も四ツ谷用水を市中心部に復活させようと活動が行われてきたと伺っている。現在暗渠化している四ツ谷用水すべては無理としても、杜の都の中心部に部分的にでも、親水空間の形で復元することを盛り込んでどうか。他の政令指定都市との差別化を図るためにも、特徴的な都市景観を作り出していくことが付加価値向上のため重要ではないかと考えている。柔軟に検討して欲しい。	杜の都の礎として重要な四ツ谷用水の記憶を将来の世代に継承し、仙台の水環境について考えてもらうきっかけとするため、環境NPO等と連携した、様々な啓発イベント等を実施しており、今後とも、こうした取り組みを通じて四ツ谷用水の魅力や歴史を発信してまいりたいと考えております。それ以外にも様々な水資源があるものと認識しており、具体の施策の検討にあたり、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	パブコメ
60	2022年度より高等学校で歴史総合、地理総合が新設(必修)される。近代史の理解が国際社会において大切な要件であり、地理総合では防災と持続可能な社会の構築も主要な内容になっている。仙台の歴史的遺産として四ツ谷用水があるが、これは仙台市民の誇りとする杜の都、そして水の都の創造の原点といえ、地理要件も大きく作用している。これからのまちづくりを担う若者たちの傾注に値するこの遺産の明記を希望する。		パブコメ
61	かつて街中には用水があり杜を養っていたわけで、杜の都すなわち水の都であり好感が持てる。ただ、川や海などの水辺を楽しめる親水空間をつくとあるが広瀬川と東部の海岸公園やレクリエーション施設以外が見えてこない。四ツ谷用水の復活や六郷堀・七郷堀の利活用(河原町駅から若林区役所まで親水緑道を作るなど)、東部沿岸地帯の賑わいの中に貞山堀を水路として活用するなど提案したい。		パブコメ
62	沿岸部に野外フェスができる施設やアリーナ、ドームなどあれば地下鉄利用者が増えると思う。	現在、沿岸部にはご例示の施設の建設は予定されておませんが、防災集団移転跡地などに様々な民間施設の立地が予定されております。そういった民間施設や自然環境などの海辺の資源を活かし、東部地域一帯に賑わいを創出してまいりたいと考えております。	パブコメ
63	七北田川から名取川間の海岸は、全国的にも貴重になった自然海岸である。それを楽しむ仕掛けづくりが必要。市民が海辺を楽しもうと思っても、ほとんどが立ち入り禁止になっている。市民が気軽に海辺を楽しめるようにして欲しい。自然観察や波打際での楽しみ、海水浴、サーフィン、ヨット、ランニングなど、海辺全体を海岸公園と位置付けて、市民が沿岸を周遊して楽しめるようにして欲しい。	深沼海水浴場のあり方については、地域をはじめとする様々な方々のご意見を踏まえながら整理してまいりたいと考えております。	パブコメ
64	荒浜海浜公園の整備によって、市唯一の海水浴場を賑やかな場所に取り戻したい。		パブコメ
65	海岸公園を茨城県の「ひたちなか海浜公園」のように観光化する。		説明会
66	深沼海水浴場は、いつ開場するのか。そこに対しての、市内外からの海水浴客やそれに付随する様々な観光コンテンツはどうしていくのか。		説明会
67	深沼海水浴場のオープンは、情性ではなく「このまちが大好き」という情熱がある若者を市には発掘して欲しい。		説明会
(2)防災環境都市プロジェクト (23件)			
①実施の方向性01 防災・減災の備えを日常生活に織り込む (8件)			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
68	3.11教訓が生かされているかが課題であり、忘れ去った頃に災害はやってくる。防災訓練をやらないマンションとやるマンションの差や、管理事務所の対応の差もある。	東日本大震災の経験と教訓を継承していく視点は重要であると認識しており、「防災環境都市プロジェクト」の中に、防災・減災の備えを日常生活に織り込む取り組みを盛り込んでおります。	パブコメ
69	東日本大震災の経験をした人が教訓として若い世代に伝えることはとても良いと感じた。	現在、分譲マンションにおいて、専門家の派遣や認定制度の導入による、住民の方々の防災活動や建物の防災力を向上させるための支援などを行っており、引き続き、マンションにおける防災やSBLの視点も踏まえながら、地域の防災力を高める取り組みを進めてまいります。	イベント
70	SBL(仙台防災リーダー)だが、地元で活かしたい。(SBLのネットワークがない)		イベント
71	防災については、より細かい説明が市として必要ではないか。	防災力向上の視点としては、「防災環境都市プロジェクト」において、危機への対応力の向上や防災・減災の取り組みを通じて地域のつながりを深めていくことについて盛り込んでいただいております。	説明会
72	防災マニュアルの作成等は、単位町内会では人材不足のため作る人がいない。	具体の取り組みとして、すべての避難所において運営マニュアルの作成を進めている	説明会

73	8つのチャレンジプロジェクトはそれぞれ大切だと思う。願わくば世界情勢や天災などを考えて、防災都市仙台を創って欲しい。忘れがちだが、2018ミサイルアラート等もあったので。	ところですが、地震のほか、水害や今般のコロナ禍への対応など、地域、学校、行政の協議の中でも課題認識をすり合わせながら、一緒に対応を検討してまいりたいと考えております。	イベント
74	12ページ、SDGsをかなり押していただいたこのチャレンジプロジェクトに対する思い、そして、各チャレンジプロジェクトの一番最後のところには17の開発目標に対しての目標設定のアイコンが掲載されている。仙台市がSDGs未来都市になられたようだが、こちらの国連に対する考え方は、この企画に沿ったものだったのか。それとも、このたびの状況に合わせて、新たに取られるものなのか。	仙台市としても、SDGsの取り組みをより進めていきたいとの思いがあり、今回の計画に記載することとしました。SDGs未来都市への応募にあたっては、特に防災環境都市という本市ならではのテーマとしたところであり、今回の計画でも、防災環境都市プロジェクトの切り口を中心にSDGsの取り組みを進めたいと考えております。	説明会
75	東日本大震災の節目として、復興のアピールや防災の重要性を改めて示せば良いと思う。	東日本大震災の経験と教訓の発信につきましては「防災環境都市プロジェクト」に位置付けております。震災の経験と教訓を継承し、防災と減災の推進に貢献していくことは本市の責務であると考えており、今年度は、本市が毎年度開催している「仙台防災未来フォーラム」について、震災10年の総括を踏まえた内容で実施するほか、「防災環境都市・仙台」のウェブサイトにも東日本大震災から10年の復旧・復興やまちづくりに係る様々な活動のあゆみ・思いを伝える特設ページを掲載しています。	イベント
②実施の方向性02 環境負荷の低い生活・ビジネススタイルを定着させる（6件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
76	12ページSDGsのゴール7に関連して、再生可能エネルギー自体は歓迎すべきでそうなるべきだが、例えばメガソーラーを建設するために森林を伐採してそこから土砂の流出など環境破壊例がある。これでは本末転倒である。再生可能エネルギー施設をつくるにも環境を破壊しないための規制・ルールが必要。そのことも基本計画に明記して欲しい。	持続可能な都市づくりに向けては、杜の都の良好な自然環境の保全とともに、太陽光発電など再生可能エネルギーの導入拡大も重要と考えており、基本計画中間案には双方の方向性について明記したところです。土地利用については、土地の所有者など多様な方々が係わり合いながら形成されていくものであることから、環境影響評価制度や杜の都の風土を守る土地利用調整条例の適正な運用など、様々なツールを活用しながら、本市の持つ緑豊かな自然環境の保全・継承に努めてまいります。	パブコメ
77	再生可能エネルギーの導入としてソーラー発電は仙台の地域では盛んに取り入れられている。仙台泉区西部地区の福岡地域などは、今まで農地である田や畑がソーラー畑化としている。また、耕作放棄地もソーラー発電に変えてきている。福岡の杉の埤地区では山の木々をなぎたおし、ソーラー発電に切り替えている。二酸化炭素を吸収してくれる、田畑や山を倒してのソーラー化は、防災につながるか心配である。森のダムの減少は、河川等、都市の温暖化防止にとって役に立つのか疑問である。良い方法はないか。		パブコメ
78	環境・エネルギー分野では、脱原発・脱化石燃料を明確にし、再生可能エネルギーの大幅な拡大による小規模・分散型エネルギーシステムを実現するとともに、生態系・生物多様性の維持を保障する循環型社会を築く。	原子力を含むエネルギー政策は、これまで国策として取り組まれてきたものであり、まずは国がエネルギー資源の状況等を勘案しつつ、安全性の確保を大前提としたうえで、安定供給や経済性、環境配慮などの観点から判断すべきであると考えております。「防災環境都市プロジェクト」に再生可能エネルギーの導入や消費エネルギーの削減、環境性能の高いネット・ゼロ・エネルギー・ビルディングの導入などを織り込んでおり、脱炭素を目指す取り組みを推進してまいりたいと考えております。	パブコメ
79	グリーンに「サーキュラーエコノミー」を取り入れて欲しい。	「サーキュラーエコノミー（廃棄を出さない循環型経済）」は、自然環境への配慮や経済活力の創出にもつながるもので、今回の計画の理念にも通ずるものと考えており、今後の具体の施策の検討にあたり、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	説明会
80	「グリーン」が中心であれば、ぜひ「脱炭素」を推進して欲しい。	「防災環境都市プロジェクト」では、再生可能エネルギーの導入や消費エネルギーの削減、ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディングの導入などの環境性能の高い建築物の導入を盛り込んでおり、脱炭素に向けた取り組みを推進してまいりたいと考えております。	説明会
81	市政だよりで家庭ゴミに紙が混在しているのを見た。レジ袋の有料化も始まったが、施策でもこういったものを含めてないのであれば取り入れた方がいい。	本市はこれまで、リサイクルの推進を通じた資源の有効活用や環境負荷の低減の取り組みを進めてきており、今後も、市民への周知啓発も含めたこれらの取り組みをより一層推進してまいります。	イベント
③実施の方向性03 持続可能な都市インフラをつくる（9件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
82	災害拠点としてのJR貨物駅跡地、陸上自衛隊、仙台新港、仙台空港までの道路整備が必要。仙台の軸線となりうる。	宮城野原に計画されている広域防災拠点や自衛隊基地・駐屯地、仙台塩釜港、仙台国際空港といった主要な拠点にアクセスする道路につきましては、国により物流上重要な道路輸送網である重要物流道路に指定されておりますことから、関係機関と連携しながら、平常時・災害時を問わず安定的な輸送が確保できるよう努めてまいります。	パブコメ
83	仙台は、伊達政宗時代より水を利用した土木事業を展開してきたが、代表的な事業として、四ツ谷用水と貞山運河が挙げられる。四ツ谷用水は2016年度の選奨土木遺産に認定されている。仙台には、伊達政宗の時代より、安全で住みやすいまちづくりを長い年月をかけて、すべての階層（武士・商人・農民）の人達の協力で完成に至った遺産事業がある。この遺産事業の経験の活用こそ、次期総合計画に生かされるべきと考える。すなわち、インフラストラクチャーをいかに整備するかである。1時間50mm程度の降水量で下水道が逆流し、床下浸水が発生するような下水棒設備の存在こそが問題視されなければならない。異常気象に対応するインフラの整備として、安定的な電力と水の供給、逆流現象が発生しない下水道本管形状の見直しも挙げられる。生活の根本を支えている基盤の強化こそが、まちづくりに必要不可欠な要因ではないか。	災害の多発に対応するため、チャレンジプロジェクトの一つに「防災環境都市プロジェクト」を位置付け、持続可能でしなやかな都市環境の形成を目指し、自然と人の力を生かした災害対応力の強化に努めてまいります。なお、浸水対策については、段階的、暫定的な対策を含め、浸水地域ごとの特性に応じた効果的な手法を検討してまいります。その内、下水道による内水対策につきましては、10年確率降雨(52mm/時)を施設整備水準とし、浸水リスクの高い地区を優先的に整備を進めるとともに、段階的な整備手法の導入や浸水地域ごとの特性に応じた対策を図ることとしております。	パブコメ
84	環境にやさしいまち"Green City"を標榜するなら、公共交通中心の交通システムの確立は避けられない。フィーダーバスのアイデアは間違いではない。また、自転車利用の推進のために市が行ってきた施策も私は評価している。もう一歩前に踏み出して、年次を区切って機関分担率の目標を定め、それを実現する具体的な施策を結びつけて欲しい。周辺市町と連携し、「環境首都」と呼ばれて注目された南ドイツのフライブルクで発行されたすべての公共交通機関に有効な無記名の共通バスである「レギオカルテ」の仙台版も考えてみてはどうか。	本市においては、近い将来に迎える人口減少社会を見据え、持続可能な都市構造の実現に向け、機能集約型都市構造の形成と過度に自家用車に依存しない、環境に優しい公共交通を中心とした交通体系の構築を一体的に進めると同時に、みどりのネットワークや健全な水循環の形成を図る、自然と調和した持続可能な都市づくりを進めております。その実現に向けては、多様な交通事業者や道路交通法に基づく交通規制を所管する警察など、多様な主体と連携しながら進めていく必要があることから、貴重なご意見として、今後の施策の検討にあたり、参考にさせていただきたいと考えております。	パブコメ

85	津波の多重防御に特化したため、特に毎年の雨水排水に問題がある。大津波は300～500年前後であり、毎年の大雨の被害で住めなくなる、大規模な排水設備の構築が必要である。	近年多発する大雨などの災害については、都市インフラの防災力の向上を図ると同時に、温室効果ガスの排出削減など環境負荷の低減や、自然や生態系の機能を活かす取り組みを進めるなど、近い将来に迎える人口減少社会を見据え、持続可能性を高める視点を持ちながら対応していく必要があると考えております。 中間案では、「防災環境都市プロジェクト」を位置付け、グリーンインフラの充実を通じた防災・減災の取り組みや建築物の環境性能の向上、環境に優しい公共交通機関の利用促進を盛り込んでおり、ハード・ソフト両面から検討してまいりたいと考えております。	パブコメ
86	温暖化に伴う大雨による雨水内外氾濫で甚大な被害頻発。例えば、梅田・七北田川が氾濫の危険性があり、地域の内濫雨水を梅田・七北田川に排水できなくなり、地域は内濫雨水で水没し、生活・経済に甚大な被害が発生する。解決策は、海に近い場合、海まで排水溝を構築、排水施設で海に直接排水する。海にはいつでも随時排水できる。	排水設備については、段階的、暫定的な対策を含め、浸水地域ごとの特性に応じた効果的な手法を検討してまいります。	パブコメ
87	仙台は冬に雪が降る地域でもあるので、歩道やバス停周辺の安全性について考えて欲しい。災害に適應できる安全な都市を目指して欲しい。	災害への適應につきましては、チャレンジプロジェクトにおいて、杜の都の環境に防災への配慮の視点を織り込んだ「防災環境都市プロジェクト」を掲げました。具体的施策の推進に当たっては、ご指摘の視点到留意してまいります。	説明会
88	防災については、水害についてもこれから事業として取り組んで欲しい。	「防災環境都市プロジェクト」において、自然災害などあらゆる危機への対応力の向上を盛り込んでおり、ハザードマップの効果的な周知やインフラ面の浸水対策などの水害対策についても引き続き進めてまいりたいと考えております。	説明会
89	七北田川の洪水対策を。		説明会
90	交通インフラの抜本的改修が必要である。車のためだけでなく（都心部の車中心からの脱却）、歩行者・自転車等の交通弱者の安全なインフラ整備は絶対に必要である。	「防災環境都市プロジェクト」に記載のとおり、過度に自家用車に依存しない、公共交通を中心とした都市交通の充実に取り組むとともに、都心部において、居心地が良く歩きたくなる歩行者空間の創出や、公共交通や自転車などを利用した快適で安全・安心な移動環境の整備などに取り組んでまいります。	説明会

(3)心の伴走プロジェクト（11件）

①実施の方向性01 多様性が尊重される環境をつくる（4件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
91	仙台は地域のつながりが強い分、他者への寛容性が低いと思う。商売や観光地にしても、決して“Welcome”な雰囲気が感じられない。急に変わることは難しいが、そこが解決すれば黙っていてもリピーターは増える。「Welcomeなづくり」として、多様性の尊重を育む心を育てたい。	「心の伴走プロジェクト」において、人々が互いに多様性を尊重して支えあい、つながる仕組みをつくることで、あらゆる人が孤立せず、安心して暮らすことができる地域をつくることを盛り込んでおります。	パブコメ
92	見張り合っつぶし合う関係になる人間関係は避けたい。寛容さ・寛大さのある社会であって欲しい。住みやすくなると思う。		イベント
93	ウイルスと同じで0にはできないが、デマやうわさ、根拠のないウソの少ないまちであって欲しい。		イベント
94	障害のある方や妊婦の方に配慮したまちづくり、特に災害時における対応の整備を希望する。	「心の伴走プロジェクト」において、障害の有無などに関わらず、多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をつくるユニバーサルデザインや合理的配慮の推進などについて盛り込んでおります。災害時におきましては、障害のある方や要介護認定を受けている方など安否確認や避難支援などを必要とする方々に、「災害時要援護者」として事前に登録の申し込みをしていただき、その情報を町内会などの地域団体に提供する「災害時要援護者情報登録制度」を実施するなど、住民の方々同士の支え合いの環境づくりを進めております。「自助」「共助」「公助」の取り組みを通じて、妊婦の方や外国人などへの対応を含め、顔の見える関係をつくることで、安心して暮らすことができる地域づくりを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ

②実施の方向性02 孤立しない、つながる仕組みをつくる（4件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
95	挑戦することが前面に出ており、困難な状況にある人への目線が少ない。挑戦の視点だけではなく、社会的包摂（公助）の視点を計画に入れるべきではないか。	チャレンジプロジェクトの中には、「心の伴走プロジェクト」として、ひきこもりや貧困などの支援を必要とする家庭の社会的自立を後押しする環境づくり、いじめや児童虐待への対応、メンタルヘルス対策などの心を支える環境づくりなどを盛り込んでおります。このほか、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧」にも、様々な困難を抱えている方々への支援について盛り込んでおり、社会的に困難を抱える方々が安心して暮らせる環境づくりにも留意しながら、各般の取り組みを進めてまいりたいと考えております。 また、少人数学級の実現について、本市では2018年度より35人以下学級を拡充いたしました。余裕を持って教室を利用することは、教育環境の向上とともに、コロナ対策にも寄与するものと考えております。「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 8教育」に記載のとおり、今後とも、教職員の多忙化の解消と併せて、教員が生徒一人ひとりと向き合える環境づくり、子どもたちのより良い学びの環境づくりを進めてまいります。 ひきこもり問題は当初若者に固有の課題と認識されていましたが、最近の調査では、ひきこもり者の高齢化やひきこもり期間の長期化の傾向が明らかとなり、中高年齢層に至る幅の広い問題に変化しています。ひきこもりに至る背景には、精神疾患や発達障害、思春期心性からの精神的発達の不十分さなどを基礎に、取り巻く環境などの影響が大きく関与しているものと考えられ、その解決に向けては、一貫した方針による継続的な関わりを提供することが必要です。ひきこもりが恥の感情や自己責任論と結びつきやすい問題であるために、ひきこもり者やその家族からの援助希求は強くない（助けを求めてくるのが少ない）という特徴を踏まえて、積極的にアウトリーチ行うことや、状態像に合わせた様々な社会参加の場（就労や就学、復学などにこだわらない）や機会を設けていく必要があると認識しています。	パブコメ
96	コロナで分断されていて孤立している人が多い中、相互理解・相互信頼の大切さを感じている。一方で、どうやって築くのかという思いもある。		イベント
97	確固たる公共サービスを守り、セキュリティーネットの充実で「再分配」を促進する。福祉、医療、教育などの分野、震災復興における被災者の生活再建支援でも、国の制度の網の目から漏れ落ちる人たちを市独自の制度で救済する仕組みを作る。その場合、申請主義に陥ることなく、「災害ケースマネジメント」の経験を踏まえ、行政の縦割りの制約を超えて、社会的弱者にアウトリーチすることを重視する。教員の加重負担を解消し、少人数教育を実現することは、貧困化から子どもたちを守る鍵となる。		パブコメ
98	今年、大人の引きこもり女性の居場所を立ち上げた。	イベント	

③実施の方向性03 心を支える環境をつくる（3件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
99	いじめ問題解決が、現市長の第一公約だった。その構造的な問題、過去の教訓は、まともになっているのか。それを、これからの教育現場にどう活かすのか。これに触れるべき。	いじめ防止等対策を市政の最重要課題の一つとして掲げ、24時間いじめ相談専用電話の運用やいじめ対策専任教諭・児童支援教諭の配置など学校の体制強化、いじめ防止のキャンペーンなど各般の取り組みを進めてきました。令和2年6月には、「仙台市いじめ等相談支援室S-KET」を新たに設置し、相談者に寄り添った対応を行っているところであり、「心の伴走プロジェクト」に掲げたとおり、引き続き、学校、保護者、地域住民等と連携を図り、社会全体でいじめの防止等に取り組む環境づくりを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ

100	いじめ対象者・引きこもり者・貧困者等が「自己責任論」から開放され、自ら発信できるよう交流の場を。	「心の伴走プロジェクト」のとおり、ひきこもりや貧困などの問題を抱えている方々の社会的自立支援やいじめの早期発見・早期対応などの取り組みを進めることを通じて、悩みを抱えたままにするのではなく、誰かにつながり心の拠り所をつくることのできる環境づくりを進めてまいりたいと考えております。なお、中高年のひきこもり者の社会（再）参加の場を令和2年10月より設置運営しております。	パブコメ
101	どの子どもも孤立を予防する目に見えない苦しさに寄り添える場づくりの必要性を感じている。	子どもたちが健やかに育つ環境づくりは重要であると考えており、ご指摘の「心の伴走プロジェクト」や「笑顔咲く子どもプロジェクト」を掲げております。いじめ防止等のための教職員の配置拡充や、各相談窓口における支援、不登校児童生徒の居場所づくり、心身の不調を訴える児童生徒に対するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる学校・家庭と連携した心のケアなど、悩みを抱える子どもに寄り添える環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。	説明会

(4)地域協働プロジェクト (23件)

①実施の方向性01 多様な協働が生まれる基盤をつくる (4件)

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
102	「町内会や商店街、NPOなどの市民参画による『せんだいプラットフォーム』を立ち上げ、地域ごとの課題を次期基本計画に反映させます」と、3年前の市長の選挙公約にあった。市民力・地域力を高めるには、地域ごとに市民が入った検討会を作り、住民の声を反映させないと本当の問題解決には繋がらない。実施計画策定まで区ごとの地域間で検討委員会（秋保町であれば、観光・農業・福祉・交通・教育の分科会を設ける）を作り、作業を進めるべきだ。代替策を講じなければ、公約違反と言わざるを得ない。市長が失敗を恐れず理想を掲げ、チャレンジを続けると言うのであれば、厳しいが市民と結んだ公約も忘れず挑戦して欲しい。	市民力・地域力を高めていくといった観点につきましては、住民の皆様身近な区役所において、地域づくりに関する組織体制の強化を図ってまいりました。また、市民協働への理解を深めるための人材育成や様々な活動団体への支援、協働事業などを推進するとともに、今年度は、若者にもフォーカスを当て、若者が自分事としてまちづくりに関わることをテーマとした実践的なプログラム「仙台まちづくり若者ラボ」を立ち上げたところでございます。中間案では、住民の皆様や市民活動団体、企業など多くの方々の知見や強みなどを課題解決などに活かしていく地域を目指し「地域協働プロジェクト」を掲げたところであり、今後とも、地域の皆様の声を伺いながら、政策形成や具体の取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
103	町内会・商店会・NPOなどの市民参画の仙台プラットフォームを立ち上げ、地域ごとの課題を次期基本計画に反映させていくという公約があったため、この地域ごとに住民を交えて検討委員会をつくるなど、10年を目指して、ここ3年間何をやっていくかを検討する場が必要だと思う。		説明会
104	地域協働プロジェクトに関連するプロジェクトを立ち上げて実施する場合は、コストについての助成はあるのか。また、そのプロジェクトについての審査はあるのか。	現在も様々な助成制度があり、ホームページでもご紹介しております。例えば、仙台市と協働で取り組む事業提案を募集する「市民協働事業提案制度」や、各区において、町内会や市民団体等による地域課題解決や地域の自治力向上に向けた活動を助成する「まちづくり活動助成事業」などがあり、いずれも書面やプレゼン等の審査がございます。	説明会
105	各種活動のエントリーレベルを下げて、気軽に参加できるようにして欲しい。対面だけでなく、リモート・チャットなど手段も増やす、増やしていく。（コロナ禍でせっかくみんなに知れ渡ったので、使わないもったいない！）	本計画では、地域づくりにおいては住民や市民活動団体、企業などの多様な力を結集することが重要であり、そうした多様な協働が生まれる基盤づくりを進めるため、コミュニケーションをはじめ様々な分野においてテクノロジーを活用することを盛り込んでおります。	イベント

②実施の方向性02 多様な主体の力を地域に活かす (15件)

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
106	「⑦TOHOKU未来プロジェクト 01東北を舞台にイノベーションを生み出す (P26)」の中で、地元中小企業に関する記述が見られるが、地元中小企業は経済だけでなく今後の地域社会においても重要な存在であると考え。例えば「④地域協働プロジェクト」にて、「市民や地元中小企業と共に地域社会におけるインパクトを生み出す、そのための環境や仕組みを構築する」というような内容が記述してあると良い。	ご指摘の通り、地元中小企業は経済の活性化のみならず、地域貢献の意味合いでも重要な担い手だと考えており、「地域協働プロジェクト」においても、協働しやすい仕組みづくりの主体の一つに、地元中小企業も含めて企業として明記しております。当該プロジェクトは、協働していく環境づくりに重きを置いたプロジェクトであり、ビジネスとしてインパクトを生み出していく視点は「TOHOKU未来プロジェクト」に位置付けてまいりたいと考えております。	パブコメ
107	自動の無人運転を実現させたい。	本市では、荒浜地域において自動走行の実証実験を実施いたしました。また、自動走行のような近未来技術の実証実験を促進するため、「近未来技術実証ワンストップセンター事業」を実施しております。計画では「地域協働プロジェクト」において、テクノロジーの活用や公民連携の取り組みの促進を掲げており、今後ともこうした取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
108	AIの自動運転に大変興味を持っている。市営バスや地下鉄の社会実験に仙台は率先して取り組んで欲しい。		イベント
109	今までは人を集めることでの活動が多かったように思うが、コロナ禍もあったので、新たな視点による活動方式が必要だと思う。	コロナ禍も踏まえ、「地域協働プロジェクト」には、コミュニケーションなど様々な分野においてテクノロジーを活用することについて盛り込んでいるところです。令和2年10月4日の基本計画イベント「みんなのせんだい未来づくり」はWEBも併用しながら開催しており、今後とも、様々な手法を使った活動・イベントについて検討してまいりたいと考えております。	説明会
110	地下鉄東西線開通に伴い、八木山駅までのバスが減便しており、三神峯公園から西の平、八木山へのバスが午前7時台の通勤時に1本も走っていないという異常事態が発生している。少子高齢化で子どもを抱えた若夫婦も引越して来ており、このままではますます衰退町内となるおそれがある。ながまちくんのような小型のバスでも良いので、運行をお願いしたい。	市バスを含む路線バス事業者の経営環境は、かねてより厳しい状況にありましたが、コロナ禍によるテレワークやオンライン授業等の普及により、コロナ禍以前の状態までの回復が難しいところがございます。こうした状況を踏まえ、運行本数や運行エリアを現状のまま維持していくことが難しいことから、今後は、路線バスと地域交通などを組み合わせ新たな公共交通ネットワークを確保することが重要であると考えており、「地域協働プロジェクト」において、移動手段の確保をはじめとした暮らしの改善に向けて、多様な主体が協働しやすい仕組みづくりを盛り込んでいるところでございます。現在、燕沢地区や坪沼地区をはじめとして、様々な地域で地域交通の導入に向けた検討を進めており、今後とも住民の皆さまが主体となった移動手段の確保に向けた取り組みを支援してまいりたいと考えております。	説明会
111	地域交通や買い物機会の確保を。		説明会
112	高齢化が進んでいる地域に住んでいることもあり、高齢者の交通手段の今後に関して関心がある。		説明会
113	人口の少なく公共交通の便が悪いところがいくつかある。自家用車を使わないとなると、特に市営バスは日中は1日に数本しかなく不便なため、検討して欲しい。		説明会
114	市の施策のあり方については、住民参加のまちづくり、地域課題の解決をどう進めていくのかが、いまいちはっきりしないという印象を持った。	「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 5地域生活」に記載のとおり、住民が主体となった取り組みを含め、多様な協働を推進する取り組みを盛り込んでおります。これから、さらに詳しい施策については実施計画で、数値目標などを掲げてお示ししてまいりたいと考えております。	説明会
115	地域交通、バスをつくる上で、特に朝夕のラッシュ時の運行を充実させていくということについてもお願いしたい。	朝夕の通勤・通学等の需要に適した運行を検討してまいります。	説明会

116	燕沢の「のりあい・つばめ」の事業について。この事業に限らずにだが、地域の住民がこの課題に解決したいという意欲を持って、研究者の方の助言を求めるなどのアプローチを市にしたときに、地域課題解決のために研究者を紹介する、事業予算をつけるなど、メニューを増やしていただいて、住民参加型の課題解決の道をつくっていただけないか。住区協議会のような制度的な保障についても、今度の仙台の住民参加のまちづくりを進めていくものとして、検討の範囲に入れていただけないかということも思っている。	地域課題について、内容に応じて、専門家の派遣制度を仙台市で行っておりますので、地域の方でいろいろご相談がある場合には、区役所などを通じて、お問い合わせをいただければ、対応が可能です。 燕沢の「のりあい・つばめ」事業もそのような経緯で始まっておりますので、専門家派遣の制度等もご活用いただければと思います。	説明会
117	学生の意見は勉強になった。地域のことを知らない、教えて欲しいと聞くことが大事。高齢化も気になっている。	高齢化が進む中、今後のまちづくりにおきましては、より一層、大学生をはじめとする若者の力が重要になると考えており、「地域協働プロジェクト」に掲げたとおり、若者がまちづくりについて考え、実践する機会をつくり、地域づくりにやりがいを持って取り組めるような取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
118	大学生は地域に興味はなく、興味を示しても打算的なことが多い。		説明会
119	若者たちがこれからのまちづくりを担っていくのであり、若者たちの参加を増やしていく方策をもっと革命的に考えるべきである。		説明会
120	学都の現状と詳しい分析、それをどうしていくかがない。	本市は都市個性に記載しているとおり、教育機関の集積などにより、若者をはじめとした多くの市民にとって多彩な学びの機会があったことで「学都」と呼ばれるようになったと言われており、現在も大学生等の割合は他政令指定都市と比較しても高い水準にあります。そうしたことから、「地域協働プロジェクト」において若者や教育機関の力を地域づくり活かせる機会や、「都心創生プロジェクト」において産学官金の連携によるイノベーションの創出について盛り込んでおり、学都の資源を活かしたまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ

③実施の方向性03 地域の交流を活発化させる (4件)

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
121	「地域の交流を活発化させる」について、乳幼児や未就学児は、小学生から加入することができる「こども会」という組織がないこともあり、地域と交流する機会、地域を知る機会というのはほとんどないと感じている。特にコロナ禍において、地域の祭りなども中止が相次いでいるため、その機会もさらに激減している。また、小学生になっても「こども会」加入というのは地域によってはほんのわずかしかないという現状もある。(転勤族は特に活動参加が難しいタイミングが多いようで、入会には積極的にはなれないようだ)	子育て世代の交流は重要な視点であると認識しており、乳幼児や未就学児の子を持つ家庭の交流機会としては、のびすくをはじめ、各区役所及び総合支所などにおいて、様々な交流イベントを実施しております。このほか、サークル活動や乳幼児向けイベントなどを行う子育て支援活動団体の活動状況もホームページ等において広報しているところでございます。 ご例示のあった子ども会や地域の祭りも有用な地域交流・学び・体験の機会であり、感染症対策の徹底やオンラインによるコミュニケーションも積極的に取り入れながら、コロナ禍などの状況下でも可能な限り人と人が関わり合うことができる場づくりに取り組んでまいりたいと考えております。	パブコメ
122	計画案には「自由でオープンな交流の場づくり」と記載があるが、誰が、どのような場所を使って、そのような場づくりを行っていくのだろうか、と疑問に思った。また、こども会なども従来の組織の在り方でよいのか、を見直していく必要があるのではないかと感じているため、意見を提案する。		パブコメ
123	住民参加のまちづくりと住民自治を進めることを柱の中にしっかり入れて、専門家の派遣など政策ツールを増やして欲しい。各区に住民協議会を設置するなど、その制度化を図って欲しい。	「地域協働プロジェクト」は、住民や地縁団体を中心に、多様な主体の協働により進めるプロジェクトと位置付けております。住民の皆様の活動内容に沿った専門家の方を派遣する「まちづくり支援専門家派遣制度」のほか、各区においても住民の皆様が主体の取り組みを支援する制度を設けており、そういった制度の活用を促進しながら、ともにまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
124	地域の交流を活発化させる場をつくりたいと考えている。子どもから大人まですべての人が楽しめる場所。外国人も障害を持った人も。	「地域協働プロジェクト」は、ご意見のような方向性としており、年齢・性別・国籍・障害の有無などに関わらず、交流が促進させるような環境づくりを進めてまいりたいと考えております。	イベント

(5)笑顔咲く子どもプロジェクト (24件)

①実施の方向性01 意欲を引き出し、伸ばす教育環境をつくる (8件)

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
125	学習能力の低下・引きこもり・不登校・運動不足・肥満メタボ・・・。全部つながっている。オンライン授業を早期実現し、在宅でも勉強できる環境を整えたい。また、全国テストなどの成績をあげるために、不登校児童へ受験しないよう声かけするのをやめるべき。 子育てにどうしたらよいかわからない親が多い。学校だけではもう解決できない。お節介なほど親への家庭訪問など「親の相談窓口の充実」をするべきである。	ご例示の問題につきましては、本市としても重要な課題であると認識しており、不登校の児童生徒を含めた教育環境の充実を含めた「笑顔咲く子どもプロジェクト」や、子どもを含めてライフステージに合わせた健康づくりの視点を盛り込んだ「ライフデザインプロジェクト」を掲げております。 一般のコロナ禍においても、オンラインの教育環境の重要性は認識しており、国が掲げる「GIGAスクール構想」も踏まえながら、学校のICT環境を整備してまいります。また、教育・子育てに関する課題は複雑化しており、学校・地域・家庭の連携を一層深めるとともに、親自身が子育てや教育について学び考える機会をつくるなど、各般の取り組みを進めてまいります。	パブコメ
126	郷土の振興には地元の歴史教育が欠かせないものと思う。特に、近現代の仙台市の歴史教育を強化することにより、戊辰戦争以降に活躍した多くの偉人を知り、地元を愛し、振興しようとする気持ちが芽生え、結果、次世代の担い手になるものと思う。歴史教育を行い、手段として「(仮称)戊辰記念館」を建設し、広く子供たちに見学してもらうことが重要。「笑顔咲く子どもプロジェクト」として記述することを提言する。	郷土愛を深める上でも、このまちの歴史を学べる機会は重要であると考えており、ご提案のような歴史を学べる新たな施設の整備は予定しておりませんが、学校教育の中で歴史に関する学びを着実に進めるとともに、地域の歴史資産などを活かした多様な学びの機会の創出に努めてまいりたいと考えております。	パブコメ
127	子どもに歴史をもっと教えるべき。今は共稼ぎが多くなって子どもを教育するということが家庭でなくなったのではないかと感じているので、是非子どもの教育を兼ねた、歴史の勉強の機会を確保して欲しい。	学校教育の中で歴史に関する学びを着実に進めるとともに、「ライフデザインプロジェクト」に盛り込んだとおり、地域の歴史資産などを活かした多様な学びの機会の創出に努めてまいりたいと考えております。	説明会
128	P69で、キャリア教育についておざなりに書いてあるが、この部分の理解は余りにも不足であり、誤っている。世界、日本の経済・社会状況への理解とその中で生きていくために、多くの仕事・職業への関心と広い知識を持たせ、個々人の適性と能力をよく把握させ、何にどう取り組んでいけばいいのかわかると、総合的に教える、考える力を蓄えさせるのが、本来の、本当のキャリア教育である。学力向上などよりもはるかに大切な分野であり、一層重視するべき。	キャリア教育をはじめ子どもたちの社会性を育む視点は重要であると認識しており、現在は、児童生徒が自ら学ぶ意欲をもち、人や社会との関わりを大切にしながら、将来の社会的、職業的自立に必要な態度や能力を育むことをねらいとして、「子ども体験プラザ」における職業体験や社会人を招いて講演いただく「夢教室」の開催をはじめとした、仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」を推進しております。計画には、「笑顔咲く子どもプロジェクト」において、地域や社会への興味関心を広げる機会づくりを盛り込むとともに、ご例示の部分のほか、「施策一覧 8教育」に前述の「仙台自分づくり教育」を盛り込んでおり、引き続き、各般の取り組みを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
129	今年度コロナ禍により、スチューデントシティでの学習が中止になった。キャリア教育として、中止ではなく必須くらいの取り入れ方をしたい。		イベント
130	文教地区(学都仙台)も重点的に子ども・学生たちの学習環境・生活環境を充実させて欲しい。	「笑顔咲く子どもプロジェクト」に、子どもたちの意欲を伸ばす環境づくりや子連れで安心して出かけて楽しめる環境づくりなどを盛り込むとともに、「地域協働プロジェクト」には学都として教育機関や学生の力を活かした地域づくりなどを盛り込んでおり、子どもたちや学生がいきいきと暮らせるまちを目指してまいりたいと考えております。	説明会

131	コロナの環境の中での小学校・中学校のクラス定員について。IT化という方向になっているが、教育は本来対面のサービスであり、人格的な交流、接触による交流も必要と考える。教育に関連するページである中間案59ページには、定員に関することは一切触れられていない。具体的なイメージで、どこかに方向性として示されているのが正しいのではないか。	<p>今般のコロナ禍においても、オンラインの教育環境の重要性は認識しており、国が掲げる「GIGAスクール構想」も踏まえながら、学校のICT環境を整備しているところがございます。ご意見のとおり、子どもたちへの教育は、対面により教員や児童生徒との直接的な触れあいの中から様々なことを学ぶことの重要性について認識しており、「笑顔咲く子どもプロジェクト」においては、オンラインと対面を最適に組み合わせた学びの確保について盛り込み、双方のメリットを活かした教育環境を整備してまいりたいと考えております。</p> <p>少人数学級につきまして、2018年度より35人以下学級を拡充いたしました。余裕を持って教室を利用することは、教育環境の向上とともに、コロナ対策にも寄与するものと考えており、「施策一覧 8教育」に盛り込んでおります。今後とも、教職員の多忙化の解消と併せて、少人数学級の実施や専科指導教員の配置、教職員の資質・能力向上に向けた取り組みを進めるなど、教員が生徒一人ひとりと向き合える環境づくりを進めてまいりたいと考えております。</p>	説明会
132	コロナ禍で子どもたちの環境が大きく変わっている。核家族増加はもちろん、人とのコミュニケーションを図る環境が少なくなっており、多様な価値観を知る機会をもっと増やしていけたらと考えている。学生のオンライン授業での孤立なども対策・ケアがあることが望ましい。	<p>今般のコロナ禍や国が掲げる「GIGAスクール構想」も踏まえながら、「笑顔咲く子どもプロジェクト」において、オンラインと対面を最適に組み合わせた学びの確保について盛り込み、双方のメリットを活かした教育環境を整備してまいりたいと考えております。あわせて、子どもたちの探究意欲やコミュニケーション能力を伸ばす環境づくりや、異なる立場にある人との対話の機会づくりなどについて盛り込んでおり、多様性への理解を深める取り組みを進めてまいりたいと考えております。学生のオンライン授業の状況につきましては、対面授業の再開の動きもあり、コロナ禍の動向の一つとして今後留意してまいりたいと考えております。</p>	イベント
②実施の方向性02 個性に合わせた成長の機会をつくる（5件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
133	教育はみな平等に、教育に裕福も貧困もない。	<p>貧困家庭への支援と教育の平等という視点は重要であると認識しており、「笑顔咲く子どもプロジェクト」において教育環境の充実について盛り込むとともに、「心の伴走プロジェクト」においても貧困などの問題を抱えている家庭の社会的自立を後押しする環境づくりを盛り込んでおります。また、「未来をつくる市政運営」の施策一覧の中には、子どもの貧困対策として学習支援や居場所づくりを盛り込んでおり、関係団体と連携を図りながら、取り組みを進めてまいります。</p>	パブコメ
134	いじめ・不登校対策については、これまでとは異なる思い切った策を講じる必要があるのではないか。	<p>いじめ防止対策を市政の最重要課題の一つとして掲げ、平成31年4月に「仙台市いじめの防止等に関する条例」を施行し、学校において適切に対応がなされるよう、教職員の意識改革の徹底を図るとともに、子どもたちの主体的な活動に向けた環境づくりや社会全体で子どもたちをいじめから守るといった意識の醸成に向けた広報啓発に取り組んでおります。また、令和2年6月には、新たな相談窓口である「仙台市いじめ等相談支援室 S-KET（エスケット）」を開設し、児童生徒やその保護者に寄り添った対応を行っているところです。今後も、いじめ対策については、時代の変化を捉え、不断の見直しを行いながら、効果的に推進してまいります。</p> <p>不登校対策については、適応指導センター「児遊の杜」と適応指導教室「杜のひろば」において、個別・小集団・訪問・相談等の支援などを行っているところです。「笑顔咲く子どもプロジェクト」に掲げたとおり、今後とも不登校の児童生徒をはじめ、子どもの状況に応じた選択肢のある学びの場づくりに努めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
135	発達の不安など配慮が必要な児童生徒数が、この5年間で診断のある子どもの人数が微増なのに比べて、保護者から支援の申し出はないが、配慮を必要とする人数がかなり増えている。アーチルに予約したが、なかなか相談に行けないなどの声はよく耳にする。親が、子どもの発達に対して悩んでいるときになるべく早くに、適切な支援が受けられる体制づくりがあることが、その後の親子の関係にも影響するのではないか。	<p>「笑顔咲く子どもプロジェクト」の現状データにお示ししているとおり、配慮を要する児童生徒は増加傾向にあり、アーチルと市内11カ所の児童発達支援センターが連携して、区保健福祉センターや地域の子育て支援機関、学校等との連携体制を強化するとともに、関係機関等に対する研修等人材育成に関する取組をさらに進めるなど、身近な地域で相談支援が受けられるよう相談支援体制の強化・拡充を図ってまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
136	子どもの学ぶ環境の充実を図って欲しい。特に不登校児童・生徒が学べるフリースクール等を。	<p>「笑顔咲く子どもプロジェクト」に掲げたとおり、探究意欲やコミュニケーション能力を伸ばす環境づくり、情報化社会・グローバル社会に適応した成長の機会づくりなどを盛り込むほか、「ライフデザインプロジェクト」や「施策一覧 10学び」には社会教育施設などをはじめとした学びの環境づくりを盛り込んでおります。</p> <p>不登校対策については、適応指導センター「児遊の杜」と適応指導教室「杜のひろば」において、個別・小集団・訪問・相談等の支援などを行っているところです。「笑顔咲く子どもプロジェクト」に掲げたとおり、今後とも不登校の児童生徒をはじめ、子どもの状況に応じた選択肢のある学びの場づくりに努めてまいりたいと考えております。</p>	説明会
137	平成25年に障害者差別解消が法令化され、仙台市では、平成28年に全国に先駆けて条例を制定したが、まだ認知度が低い。障害者の差別を解消するためにはいろいろな障壁があるが、あまり大人に呼びかけても、効果がないようなので、子どものうちから教育することが大切ではないか。	<p>性別、年齢、国籍、障害の有無など多様性の理解を子どもの頃から進め、ともに暮らす中で、それぞれを知ることとはとても重要であると考えております。これまで以上に、異なる立場にある人たちとの対話の機会を設けるなど、多様性が尊重される環境をつくってまいります。</p>	説明会
③実施の方向性03 子育てを楽しめる環境をつくる（11件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
138	「子育てを楽しめる環境をつくる」より「子育てに心からの幸せを感じることでできる環境をつくる」ことが大事なのではないか。	<p>いずれの視点も大事だと考えており、「笑顔咲く子どもプロジェクト」に掲げたとおり、相談体制の充実や子育て家庭を応援していく機運の向上、子連れで安心して出かけて楽しめる環境づくりなどを進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
139	「子育てを楽しめる環境をつくる」ために必要な情報にアクセスしやすい環境や、オンラインなどで相談できるなどの環境を整備していくと記載してあるが、現在、「仙台子育て」などのキーワードで検索して上位にあがってくる情報は、果たしてその役割を果たしているのだろうか、と疑問に感じている。例えばスマートフォン対応になっていないこともその理由の一つである。	<p>計画には、新たな展開やこれからさらに充実させるべきものを盛り込んでおり、今後、子育て世帯のニーズなどを踏まえながら、子育てに関する専用ホームページやスマートフォン向けアプリ等の開発等により、子育てに関する情報発信の充実を図り、必要とする方に効果的に届けることができるよう検討してまいりたいと考えております。</p>	パブコメ

140	健診や助成金などの必要最低限の情報は掲載されているが、足りない部分が多いと感じている。「子どもを育てる」ことに寄り添った情報、ママたちが知りたいと思える情報、仙台に転勤や引っ越しする予定の方たちの不安や疑問解消のための情報、仙台に来ることに期待感を持てる情報などが不足していると感じている。もっと多方面から「子育てを楽しめる環境都市」になれるような情報提供をしていくべきなのではないか、それも読みやすさや利便性を考えた上での情報提供をしていくべきではないかと思うので、官民一体となってそのような環境作りをしていくとよいのではないかと。		パブコメ
141	4か月健診など同じ月齢の子どもと親が集まれるせつかくの機会をもっと活かすべきではないか。例えば、東京都の品川区では、区の保健センター主催で同じ誕生日の集まり会や健診のタイミングでの交流会があった。近所のママ友ができ、孤育てにならずに済むこともあると思う。「つながり合うきっかけ」があるだけで救われるママや子どもはたくさんいる。SNSで情報をキャッチし、活動に参加してくるママたちはまだいいが、それがなかなかできないママたちもいると思う。コロナ禍という状況もあるが、もっと「子育てを楽しめるきっかけ」を提供するという視点をもって、施策などを考えて欲しい。	ご指摘のとおり、子育て世代の交流は重要な視点であると認識しており、のびすくをはじめ、各区役所及び総合支所などにおいて、様々な交流イベントを実施しております。このほか、サークル活動や乳幼児向けイベントなどを行う子育て支援活動団体の活動状況もホームページ等において広報しているところがございます。今後とも、様々な交流機会の創出に取り組んでまいりたいと考えており、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	パブコメ
142	みどりを守り育てることと同様、子どもが虫取りなどで遊びの中でみどりと触れ合いことが大事になってくると思う。子どもが身近な自然と遊び触れ合う、といったシーンも想定できるような表現にしてはどうか。	子どもの自然と触れ合える機会に関連する取り組みにつきまして、本市の持つ自然資源を活かした都市空間づくりを主眼とした「杜と水の都プロジェクト」に掲げたとおり、子どもをはじめとして、たくさんの方が集い、楽しめる都心空間、生活空間及び親水空間づくりに努めてまいりたいと考えております。併せて、本プロジェクトにおきましても、ご意見を踏まえて内容を充実させ、子どもが自然との触れあいを始め、様々な体験ができる機会について盛り込むことといたします。	パブコメ
143	マリンアクティビティのようなものが連想されるレクリエーションという言葉だけでなく、子どもが生き物をとったりしながら遊び自然と触れ合う、といったシーンが想定できるようなものにしてはどうか。		パブコメ
144	「様々な遊びに触れることができる環境づくりを進めます」という方向は良いと思う。仙台市は、街のすぐ近くに自然がある恵まれた環境。「自然豊かな身近な環境を見直し自然とふれあいながら遊ぶ」といった記述を入れてはいかがか。コロナ禍のようなこともある。少し上の世代の方が経験してきたように、身近な環境で遊ぶ知恵を身につけることが大切だと思う。		パブコメ
145	子どもたちがゲームに熱中しすぎて、遊びの知らない大人となって大変かと思う。IT教育の重点を置くより、子どもたちが身体を動かすことや書道、民謡、かるた、大縄跳び等の伝統的な遊びを復活させて欲しい。	「笑顔咲く子どもプロジェクト」において、子どもたちが様々な遊びに触れられる機会の充実について盛り込んでおります。また、「ライフデザインプロジェクト」においても、子どもを含めライフステージに応じたスポーツ・運動の機会の確保について盛り込んでおり、今後の具体的な施策の検討にあたり、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	説明会
146	「これらの情報を効果的に発信することにより」については、「発信する」一方向だけより、「世代を超えて共に考え合う」といったことが大切だと思う。取り囲む大人がどのような価値観を持っているかで、子どもが遊べる環境は大きく変わる。特に、祖母世代などは豊かな遊び経験があるので、その知恵を次世代に伝えていただければ意義は大きいと思う。	子どもと大人が関わりを持つことはそれぞれにおいて重要だと考えており、現在、地域の方々が効果的な学校支援を行う「学校支援地域本部事業」を進めております。これは子どもたちへの豊かな学びの機会を提供とともに、多世代交流を通じた地域の活性化にも資するものです。「笑顔咲く子どもプロジェクト」において、学校・地域・家庭の協働による子どもたちの豊かな学びの場の確保などを盛り込むほか、「施策一覧 8教育」に地域全体を学びの場と捉えて子どもたちの成長と地域の活性化の両立を図る「地域学校協働活動」の取り組みを盛り込んでおり、今後とも、多世代交流を通じた学びの場づくりを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
147	子どもを育てやすいまちであれば人は集まるし、人が集まればまちは栄えると思う。	ご意見のとおりと認識しており、「笑顔咲く子どもプロジェクト」を掲げ、教育環境の充実や子育てを楽しめるまちとなるための取り組みを進めるとともに、切れ目のない子育て支援の充実を図ることを通じて子育てしやすいまちを目指し、若者世代を惹きつけ、ひいては経済活力の創出につなげる好循環を生み出したいと考えております。	説明会
148	少子化が進んでいて、コロナ禍もある今、妊婦や乳児を控えた母親は不安な毎日を送っている。一部の行政でもあるように、病院へ行くための無料タクシーやワクチンの無償化、国でも提言している不妊治療費の免除を先がけて行うなど、母子が安心して生活できる環境づくりを行って欲しい。	感染症対策を十分に講じながら、妊産婦からの相談への対応や訪問指導、健康診査に取り組むなど、コロナ禍においても安心して子を産み育てる環境づくりに取り組んでいるところがございます。不妊に関しましては、「不妊・不育専門相談センター」において相談支援を行うとともに、高額な医療費がかかる配偶者間の特定の不妊治療に要する費用の一部を助成する取り組みを行っております。ご例示の取り組みにつきましては、今後の具体的な施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。	イベント
(6)ライフデザインプロジェクト (9件)			
①実施の方向性01 まちの至る所で学びと実践の機会がある環境をつくる (4件)			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
149	3.11ボランティアを奮い立たせたのは歌。杜と歌のようなライフデザインが乏しい。	総合計画審議会においては、音楽など文化芸術の視点も含め、まちづくりについて議論し、「ライフデザインプロジェクト」において、音楽や芸術などの創作活動がまちの魅力となる環境づくりなどを盛り込んだところです。市民の皆さまとともに「楽都」としてのまちづくりをさらに広げる取り組みを検討してまいりたいと考えております。	パブコメ
150	学都仙台としてのうるおいとやすらぎをもたらす都市として、「文化・芸術」の視点が必要だと思う。チャレンジプロジェクトに「文化・芸術」の文言が不足しているように感じている。		説明会
151	日本一元気な地方都市を目指し、特に若い世代と外国人観光客に魅力的な都市づくりを進めるべきで、仙台城復元や国際センター駅周辺を金沢兼六園付近の様な歴史を感じさせるまちづくりへ。	「TOHOKU未来プロジェクト」及び「都心創生プロジェクト」において、仙台・東北の豊かな自然・歴史等の活用や、多彩な体験プログラムの創出や地域の特性を活かした魅力的なコンテンツづくりなどを盛り込んでいるほか、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 10学び」に記載のとおり、日本遺産である「伊達」な文化を感じることができ環境づくりなど、歴史資産の活用を図ってまいりたいと考えております。また、ご意見を踏まえ、「ライフデザインプロジェクト」にも多彩な学びの機会の一つとして、歴史の視点を盛り込んでおります。	パブコメ
152	キーワード等に「城下町」が出ていないのが少し残念である。		説明会
②実施の方向性02 誰もが活躍できる環境をつくる (3件)			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
153	高齢者で元気な人が活動できる環境整備(スポーツサークル等ではなく生きがいを感じられるもの)を充実させて欲しい。市民学級やシルバーセンターのようなものでは不適當。	ご例示の活動のほか、市民活動サポートセンターにおいては様々なNPO活動、福祉プラザではボランティアに関する情報を紹介しております。また、高齢者の方々の就労促進に向けた支援も行っており、「ライフデザインプロジェクト」に掲げたとおり、様々な学びの機会や、ライフスタイルに合わせた多様な働き方・社会参加ができる環境の充実を図ってまいりたいと考えております。	説明会
154	人生100年時代なのに、活かせていない。		イベント

155	<p>今回のイベントに関連して、同じ障害者でもコロナ対策、そして歩行が難しい方でも安心して取り組める機会があればと思った。</p> <p>さらに掛け合わせというのもあったように、就職活動において仙台は求人率が東京より低いと言われており、仙台としての経済をもより良い環境・発展できれば、県外へ人口流出が少なくできると思う。</p>	<p>令和2年10月4日のイベントにおいては、受付時の消毒やソーシャルディスタンスを意識した座席配置などの感染症対策とともに、WEB参加を導入するなど、コロナ対策を実施しながら開催いたしました。また、手話通訳・要約筆記を行うなど、障害のある方に配慮した対応も行っていったところであり、今後のイベント開催などにおきましても、コロナ対策はもとより、歩行が困難な方への配慮を含め、障害のある方が安心して参加できるよう意識してまいりたいと考えております。</p> <p>県外への人口流出の視点につきましては、「TOHOKU未来プロジェクト」に掲げたとおり、各般の視点から地域経済の活性化に取り組み、コロナの影響による地方への意識の高まりを機に、人や企業の流れを引き寄せてまいりたいと考えております。</p>	イベント	
③実施の方向性03 ライフステージに合わせた健康を支える（2件）				
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法	
156	<p>食事摂取基準は病気・感染症等の予防の決め手である。国の科学的な食事摂取基準があるにもかかわらず、市民は食事摂取基準を知らされず、グルメ志向の非科学的な栄養摂取（食事）で病気・感染症等の多発に気付いていない。</p>	<p>健康づくりは、人々の生活の基本となるものと認識しており、「ライフデザインプロジェクト」に掲げた通り、スポーツ・運動機会の確保、食生活の改善、効果的な介護予防などを通じて、ライフステージに合わせた健康づくりを支えてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ	
157	<p>600世帯（会員外も含めると800世帯）のうち、70歳以上は2～3割の超高齢地域となっている町内会がある。要援護者リストにも多くの人が登録されており、健康への不安や物忘れが進行した人も多くいる。町内会の事業として令和2年から「老人会」はやめて「健康サロン」を立ち上げ、健康相談会の実施や介護、物忘れ防止の講座等で健康寿命の延伸を図る取り組みを行うことにした。市として、この高齢者の安心・安全な健康増進を具体的に立案し、町内会単位に提示し指導して欲しい。高齢者医療費の抑制につながるものである。地域包括支援センターでは対応できないため、市直轄でご指導願いたい。</p>	<p>町内会の状況把握や要援護者リストの登録を進めていただくとともに、地域の実情に応じて健康サロンを立ち上げるなど、日ごろから地域活動にご尽力いただき、ありがとうございます。地域包括支援センターにおいては、一人ひとりの生活や心身の状況に応じた生活支援の計画づくりや介護予防サービス利用のための調整に加え、介護予防のサロンを開催するなど、地域に密着した幅広く活動を行っております。「ライフデザインプロジェクト」に掲げたとおり、今後とも、地域包括支援センターとの連携も図りながら、運動機会の確保、食生活の改善、介護予防などに取り組んでまいりたいと考えております。</p>	説明会	
(7)TOHOKU未来プロジェクト（30件）				
①実施の方向性01 東北を舞台にイノベーションを生み出す（7件）				
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法	
158	<p>閉塞感のある東北の中での仙台の存在役割、リードしていく位置付けや考え方をもっと出しても良いのでは。</p>	<p>「TOHOKU未来プロジェクト」では、人口減少などの課題を抱える東北の現状を新たなイノベーションを生むチャンスと捉える視点で構成しており、仙台市としても次世代放射光施設の設置を契機とした研究開発拠点や関連産業の集積による新たな技術が生まれる環境づくりや東北を舞台としたソーシャルイノベーションの創出など、世界を見据えつつ、東北に波及効果をもたらす取り組みを盛り込んでおります。また、今般のコロナ禍により、東京一極集中に対する企業のリスク分散やリモートワークの進展など、地方への追い風となる新たな動きも見られており、そうした企業や人の流れを引き寄せることができるよう、魅力的なビジネスや交流基盤の構築をはじめ、仙台の特性を活かす取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ	
159	<p>東北の雄である仙台市が行うべき目標が設定されていることは、これからの東北にとって非常に重要なことである。</p>		パブコメ	
160	<p>仙台市、そして東北が日の目を浴びるために考えることは何か。</p>		説明会	
161	<p>「TOHOKU未来プロジェクト」含め、閉塞感のある東北に活気を取り戻すための仙台の位置付けも、もう少し「減少対策」も絡めた夢のあるコンセプトを出して欲しかった。</p>		説明会	
162	<p>NPOなどサードセクターや、市民活動団体は「地域の活力を生む」だけの存在ではないだろう。むしろ彼・彼女らは、SDGsに関連するような社会課題に向けてもアクションを起こし、イノベーションを生み出していくような存在だと思う。中間案では「④地域協働プロジェクト」以外の箇所での記述が薄い印象を受ける。例えば「⑦TOHOKU未来プロジェクト」においても、NPOなどのサードセクターや、市民活動団体についての記述（位置付け）がなされているのが自然であると考えている。</p>		パブコメ	
163	<p>何からどういうステップでやるのか書いてない。これをやろうとすれば、相当の歳入がないとできない。歳入をふやすためにどうするかといえば、産業振興等を行わなければならない。記載内容はその通りだが、具体的にどうするのかというのが見えて来ない。</p> <p>仙台は若者のまちだと言っているが、地元で定着して、世界に名だたる産業を起こしているというのは私は聞いたことない。インキュベーション、支援する、下支えするのが行政の役割だろうと思っている。</p>		<p>今般新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況が続いておりますが、地域経済の活性化による税源涵養や市税・保険料などの収入率向上など様々な視点から歳入の確保を進める必要があると認識しております。その中で、税源確保に向けては、企業誘致のほか、若者の働く場ともなる地元企業への成長支援や産学官金連携によるイノベーションの創出、交流人口拡大に向けた取り組みが必要であり、「TOHOKU未来プロジェクト」や「都心創生プロジェクト」などにそれらの実施の方向性を盛り込んでいるところでございます。</p>	説明会
164	<p>せっかく学都仙台で学んできた人が、就職するといなくなってしまう。新しく起業したいという若い人たちに、場所の提供をお願いしたい。やる気のある若い人たちが、仙台で一生懸命仕事をできる環境をつくって欲しい。</p>		<p>東日本大震災の後、本市は起業マインドが高まり、様々な社会課題の解決のために、起業する若い人たちも増えております。「TOHOKU未来プロジェクト」や「都心創生プロジェクト」に掲げたとおり、そういった人たちをさらに応援していく環境づくりとともに、この地域を牽引する企業に育てていただくためにも、若い人たちの働く場や自分たちの創業の意欲を高められる取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>	説明会
②実施の方向性02 仙台・東北の産業の成長を支える（5件）				
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法	
165	<p>東北の中心というだけで、これまでの支店経済、工業集積の欠如などを、どのように改変していくのかという視点もない。放射光施設、駅周辺の再開発…位しか、発想がないのか。</p>	<p>本市は、政令指定都市の中でも支所の割合が多く、今後もその傾向は大きく変わらないものと考えております。一方、本市経済の中核を担う中小企業の成長や、東日本大震災以降、高まった起業の機運を活かした取り組みも重要であると考え、それらの視点を「TOHOKU未来プロジェクト」や「都心創生プロジェクト」などに盛り込んだところでございます。今後とも、次世代放射光施設の活用や都心部の再開発を通じた企業誘致を含め、本市の環境を活かしながら、地域経済の活性化に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ	
166	<p>東部地区の農業の発展と仙台西部地区の農業の維持や活性化も同時に必要な事業だと思う。仙台市では、耕作放棄地の減少の推移や、農業の人口の減少は、まだ明確に示していないが、確実に高齢化とともに減少している。仙台西部地区の里山は離散農家とともに農業をあきらめて行く人々は、今後の10年間で農業人口は半分にまで減少していくように思われる。足元の仙台の農業をあきらめて、政令都市として、周りの地域の産業の成長を支えることもすごく大事なことだが、本末転倒で、仙台西部地区の農業の発展は見込めない状況に至っている。本気で、地産地消と、里山の環境を考えていかなければいけない。ご協力願いたい。今、里山の崩壊が目前に来ている。未来が見えず創造できない。</p>	<p>「TOHOKU未来プロジェクト」や「施策一覧 11経済」においては、農業の活性化や地場の食に関するビジネスへの取り組みについて盛り込んでおり、6次産業化等の推進による生産性・収益性向上に向けた支援や、担い手不足への対応のため、認定農業者の育成や事業承継に向けた取り組みなどを進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ	
167	<p>地産地消や地場商品、食品の消費をすすめた。安い外国産の食品に押されているように感じる。</p>		イベント	

168	農業をはじめとする一次産業分野も軽視することなく、地産地消の拡大を重視する。企業の経営の導入や六次産業化の推進においては家族経営を圧迫せずに両立できるように農業者の要求に応じて市が役割を果たす。生産活動の面だけでなく、一次産業が果たす環境、防災への貢献を軽視せず、農地や森林の保全・維持に努める。	農業の重要性につきましては同様の認識を持っており、「防災環境都市プロジェクト」において、「グリーンインフラ」の充実について盛り込み、農の多機能性にも着目し、農地等を活用した保水・浸透機能の向上を図ってまいりたいと考えております。また、「TOHOKU未来プロジェクト」や「施策一覧 11経済」においては、農業の活性化や地場の食に関するビジネスへの取り組みについて盛り込んでおり、6次産業化等の推進による生産性・収益性向上に向けた支援や、担い手不足への対応のため、認定農業者の育成や事業承継に向けた取り組みなどを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
169	仙台市の発展は、自動車産業や製造業ではなく、アイデアで勝負できるデジタル産業と観光業しかない。「スーパーシティ」の旗の元①「マイナンバーはMy Dataである」を中心に据え②「マイナンバーカード」の普及促進を図りながら③市民中心の先進的な活用方法のプロジェクトを実行し④他の地方都市の手本となる施策を展開し⑤それを支えるデジタル産業を育成し⑥次世代放射光施設から産み出される新技术を徹底的に活用し⑦市民が参加した「My Data」のガバナンス体制を確立することを到達目標として「TOHOKU未来プロジェクト」「都心創生プロジェクト」に記述すべきと考える。	マイナンバーカードについては、マイナポイント制度開始などを踏まえたマイナンバーカード交付体制の強化の一環として、令和2年10月29日にアエルに予約制の交付窓口「マイナンバーカード特設センター」を設置するなど、本市としても普及促進に取り組んでいるところでございます。マイナンバーの具体の活用策につきましても、ご指摘の個人情報保護の観点も踏まえつつ、検討してまいりたいと考えております。デジタル化に対応する視点は、すべてのプロジェクトに通じるものであり、ご指摘のプロジェクトにおいても、産業振興や観光振興にあたりましては、新たな技術によるサービス・商品開発など、その活用を図ってまいりたいと考えております。	パブコメ

③実施の方向性03 仙台・東北に世界中から人を呼び込む（18件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
170	インバウンドが解禁した暁には、ソイスープ（味噌汁）や味噌焼きおにぎりの源でもある伊達政宗の仙台味噌造り方法・笹かまぼこ造りの製法、ずんだ餅の作り方等のカルチャー教室を作り、日本人の長生きの要因となっている発酵食品の体験学習として、秋保温泉につながる場所やまちの中の買い物や飲食のできる近くに教室の併設を考えてみるのも良い。	「TOHOKU未来プロジェクト」において、仙台・東北の豊かな自然・歴史・文化、祭り、スポーツイベントなどの活用や、来訪者のニーズに合わせた多彩な体験プログラムの創出に取り組むこととしており、ご提案の内容についても、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	パブコメ
171	仙台-halfマラソンやジャズフェス、青葉まつり、せんくら等のイベントは、仙台らしさを大いに感じる事ができて大好きである。		イベント
172	「#スケート都市仙台構想」は、国際的な知名度を上げるためにも必要。		イベント
173	他県の方の案内で、牛タンや本丸がない青葉城址、仙台市外の松島が浮かぶくらい。魅力ある都市を行政がしっかり取り組んで欲しい。		イベント
174	観光は実に弱い地域だと思う。		イベント
175	観光としてのループル仙台のガイドパスや仙台城、伊達武将隊の活躍も引き続き、さらに視野を広げた展開が欲しい。		イベント
176	多くの外国人や多国籍の方々の往来が激しく行き来し活気に満ち溢れたまちづくりになると確信している。それらをバックにツアーを組み、映像・写真を抱き合わせた旅行案内の強化を世界に発信することが得策。	「TOHOKU未来プロジェクト」において、情報技術の進展や多様化する旅行者のニーズに沿った戦略的なプロモーションを進めることとしており、SNS等の活用など、国内外に向けた効果的な情報発信に努めてまいりたいと考えております。	パブコメ
177	国際化への流れとして、「Japan Times」「New York Times」へのまち情報を可能な限り行ってはどうか。		イベント
178	長期的な視点に立ってブランディングしていかなければ、魅力のある土地にはならない。緑やおいしい食材は他県でもあるので。		イベント
179	他県によるアピール度は非常に強い面があり、外国によれば広告や映像等のストーリーを加えた世界へのアピールが必要となることを望む。		イベント
180	東京圏からの移住促進や、東京圏と仙台市の2拠点居住促進に関する記述を盛り込んでいかかがか。	「TOHOKU未来プロジェクト」は、本市から東京圏への転出数が多い現状等を踏まえた上で、構成しているプロジェクトであり、東京圏も念頭に置きながら企業や人の流れを引き寄せる視点を盛り込んでおります。東京圏との2拠点居住促進につきましては、具体の施策の検討にあたり、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	パブコメ
181	日本の主幹都市からのアクセス、気候や風土などのメリットを利用し、企業の誘致や誘客を進めて欲しい。技術系として働いているが、仙台市内になかなか活躍の場を見い出せない。優れた企業や技術者、消費者の誘致が最終的な「都市の繁栄」につながると思う。		イベント
182	仙台は観光名所が点在しているが、そこに至るまでの道中が弱いと思う。例えば、ディズニーランドに行くために舞浜駅に降り立った瞬間から、パーク内に入るまでの道中も楽しめる空間になっているような、名所や施設に行くまでの道中にもテーマを持たせて整備して欲しい。	「TOHOKU未来プロジェクト」において、来訪者が安心・快適に旅行できる環境づくりを進める視点を盛り込んでおり、ご提示のあった手法も含め、具体の施策の検討にあたり貴重なご意見として参考にさせていただきます。	イベント
183	仙台市郊外にある観光資源（秋保・蔵王・水族館など）へのアクセス向上のために、MaaSの実証や民間交通との連携、その他世界に注目されるような取り組みが行われると良いと考える。（「Whim」など）		イベント
184	生産年齢人口を増やすために、仙台は東北における商業の中心であるため、東北を紹介していくというような、東北の発展を仙台が中心になって担っていくことが、私たちのまちの誇りということにもつながり、来た人が住み続けたいものではないか。	「TOHOKU未来プロジェクト」のとおり、東北・仙台を舞台に、地域の特性を活かしたイノベーションを生み出すための取り組みを進めるとともに、東北各都市との連携体制構築や豊かな自然、歴史・文化、祭りなどの資源の幅広い発信などを通じて誘客を牽引することで、東北の活力創出に貢献し、ひいては仙台への誇りの醸成につながるよう努めてまいりたいと考えております。	説明会
185	本丸も良いが、刀や日本刀も売ってほしい。	「TOHOKU未来プロジェクト」及び「都心創生プロジェクト」において、仙台・東北	イベント
186	日本一元気な地方都市を目指し、特に若い世代と外国人観光客に魅力的な都市づくりを進めるべきで、東部道路西側荒井南部エリアを若者が訪れたいまちづくりへ。開閉式の多目的ドーム球場やマークイズの様な商業施設、ナガシマスパーランドの様な絶叫系コースターもある大型レジャー施設を中心としたエンターテインメント性のあるまちづくりを。	の豊かな自然・歴史等の活用のほか、多彩な体験プログラムの創出や地域の特性を活かした魅力的なコンテンツづくりなどを盛り込んでおり、民間施設等の活用を含め、ニーズに沿った観光資源の充実・発信を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
187	忘れがちだが、来年の東京オリンピック・パラリンピックの市としての動きはどうか。	本市は現在、2021年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックの成功に向け、事前キャンプの受入れや市民の機運醸成などに取り組んでいるところであり、引き続きこれらの事業に取り組んでまいります。	イベント

(8)都心創生プロジェクト（17件）

①実施の方向性01 投資を呼び込むまちをつくる（10件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
188	次の10年を見据えた施策「旧さくら野百貨店ビルに東北PR施設設立」を考えた。課題：東北訪問する外国人が少ないこと 解決：旧さくら野百貨店ビルに東北各県への人の流れを生み出す。外国人だけでなく、他地方の日本人もターゲット。	旧さくら野百貨店ビルにつきましては、権利者の方々が事業の検討を行っているところでございます。仙台駅周辺は、仙台ひいては東北の玄関口でありますことから、新たな魅力や賑わいを創出する都心のまちづくりを進める上で重要なエリアと認識しており、現在、本市では「せんだい都心再構築プロジェクト」を打ち出し、都心の老朽建築	パブコメ

189	仙台駅前、さくら野の跡地が、いま何とか整備されつつあるが、地権者の意見がなかなか統一されず、苦労されてると伺っている。あの場所は仙台市のまさしく顔であると考えたときに、仙台市のさくら野跡地を含めた仙台駅前をどのように再開発していくのか。	物の更新等に向け具体の支援策を講じているところでございます。今後も民間開発の動向を注視しつつ、仙台に投資や活力を呼び込むことができるよう取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
190	仙台駅前の活性化を。		説明会
191	最も懸念するのは、「都心創生プロジェクト」である。「施策の一覧」の中に記載はあるが、具体的に、容積率はどう定められ、どんな手法で、どのような規模、用途の建築物が誰の資本で作られるのか。それらが、市民の目に触れないところで着々と準備され、突如、基本計画でオーソライズされた実施計画として提示されることになるのか。仙台は32ページで大都市としての責任を果たすと主張している。一方、仙台の「活力」の源は中枢機能と広域性だと誇っている。仙台市が、都市再生緊急整備地域の巨大開発を「成功」させ、中枢機能と商業機能をさらに集積させるなら、仙台圏以外の市町を荒廃させるのではないかと懸念させる。大都市の責任を果たすというなら、自らの都心開発が、周囲の市町に何をもたらすのか、それを検討できる具体的な中身を示した上で、基本計画の是非を問うべきだ。	仙台の活力は、仙台都市圏ならびに東北地方との深い結びつきの中から生み出されていると認識しており、県内市町村ならびに東北地方においては、人口減少の落ち込みが激しいと予測されていることに加え、それぞれの自治体だけでは解決が困難な課題を抱えていると認識しております。このため、今後は県内各市町村や東北地方がこれまで以上に緊密に連携して、課題解決に向けて取り組んでいく必要があり、本市が東北の活力のエンジンとなってけん引していく役割を果たすことが一層重要になると考えております。空港や港湾、仙台駅など東北のゲートウェイ機能を効果的に活かし、東北全体の活力につなげていくためにも、東北の顔であり、経済活動や交流の中心的舞台である都心の魅力を高めていく必要があると考えております。 具体の取り組みにつきましては、実施計画等においてお示しし、取り組んでまいりたいと考えております。	パブコメ
192	核となるのはオフィス需要の受け入れであると考えて。一方でコロナ禍によりテレワークが進み、オフィス需要は減少する可能性もあると思う。現在見込んでいるオフィス需要より少ない場合の代替案（例：大規模商業施設の誘致の検討等）はあるのか。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、テレワークが急速に進展することで、オフィスを縮小または解約する事例がある一方で、テレワークの導入が困難な業種では、ソーシャルディスタンスの確保の観点からオフィスを増床する動きも見られるように、オフィスニーズに変化が生じていると認識しております。本市としましては、市場の動向を注視しながら、今後の施策の展開を検討してまいります。	説明会
193	市は都市計画や開発が遅れてしまっている。巻き返しの策はあるのか。	現在、本市で進めております「せんだい都心再構築プロジェクト」において、都心における喫緊の課題に対処するため、老朽建築物の更新等に向けた支援策などを講じているところでございます。中間案におきましても、働く場、楽しむ場として魅力的な都心を目指す「都心創生プロジェクト」を掲げたところであり、仙台駅前を含めた都心全体の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。	説明会
194	老朽建築物の建替えには、行政は具体的にどのようにコミットしていくのか。	老朽建築物の建替えにつきましては、令和元年7月に始動した「せんだい都心再構築プロジェクト」において、高機能オフィスの整備に着目した容積率の緩和や「仙台市市街地再開発事業補助金制度」の拡充などの建替え支援施策とともに、新たに生み出される高機能なオフィスに入居する企業の立地に向け、企業立地促進助成制度の拡充を打ち出しているところです。新しい高機能なオフィスや、内外からの様々な企業の立地など、働きやすく魅力的なビジネス環境が整うことは、若者や起業家の方々に働く場として選んでいただくことにつながり、このまちに経済活力と大きなイノベーションが生まれると考えております。また、杜の都・仙台の都市個性である豊かな緑や、通りごとの特性を活かした様々な魅力を楽しめるまちづくりを進めることにより、多くの人々が集い、何度も訪れていただくことで、まちに賑わいと交流が生み出されると考えておりますことから、今後も本市の持続的な活力創出に向け、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。	説明会
195	市内の建物の建築方法として「CLT（直交集成板）」を使ったビル・マンションに補助金を与えてはどうか。	いただいたご意見につきましては、今後の検討にあたり、参考にさせていただきます。	イベント
196	杜の都をもっと発展させるため、駅前の建物を高層化し、代わりにノックバックして建物の前を植樹あるいは公園にして、まちの緑を増やしていく。	「都心創生プロジェクト」において、多くの人々が集い、交流が生まれる魅力的な市街地の環境づくりを盛り込んでいることに加え、「杜と水の都プロジェクト」において、みどりを育む活動を通じた、みどりを楽しむことができる機会づくりを盛り込んだところです。まちづくりは土地所有者やビルオーナーなど多様な方々の係わりのもと進められますことから、いただいたご意見につきましては、今後の検討にあたり参考にさせていただきます。	イベント
197	仙台市の老朽化施設のリノベーションに期待している。生まれも育ちも仙台だが、緑が多く、栄えている仙台駅周辺がとてもキレイなところも好きである。閉店したままの店やボロボロのままの建物があるのもったいないし寂しい気がするので、何か素敵な楽しい場所として活用できたら、もっと自慢できる仙台になると思う。	都心におきましては、建築物の老朽化の進行に伴う機能面や安全面などの課題を持つ一方で、横丁など仙台ならではの風情ある街並み景観が維持されているなどの強みも有していると認識しております。「都心創生プロジェクト」に掲げておりますとおり、民間の遊休不動産などの利活用を通じたまちのリノベーションや地域ごとの特性を活かした魅力的なコンテンツの創出など、既存資源を活用して新たな魅力を生み出す取り組みを進めてまいりたいと考えております。	イベント
②実施の方向性02 イノベーションが生まれる都心をつくる（3件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
198	仙台市の基本計画なので、大きな問題とも言えないが、チャレンジするにあたってのビジネス性が足りないように見えた。TOHOKU_UNIVERSITY_VISION2030。重点戦略⑩_東北大学発ベンチャーとのリンク。うまく運べれば『2020年までに世界で最もGreenest Cityを目指すというバンクーバー』を超える仙台市になるかもしれない。	「都心創生プロジェクト」において、企業・起業家・教育機関などが集まり、新たな事業を生み出すスタートアップ・エコシステムの構築や、それぞれが持つ技術やノウハウを活かしたイノベーションの創出を図ることとしており、東北大学発ベンチャー企業をはじめとした地元企業や大学との連携・交流を促進するなど、イノベーションが生まれる環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。	イベント
199	大学と産業と行政と一体化する方向性を大切にしたい。チームを組んで。	「TOHOKU未来プロジェクト」においては次世代放射光施設の活用、「都心創生プロジェクト」には産学官金の持つ技術やノウハウを活かしたイノベーションの創出などを盛り込んでおり、産学官の連携をより一層促進してまいりたいと考えております。	説明会
200	「東北大学」のブランドを活用すべき。	チャレンジプロジェクトは、教育機関を含めた多様な主体の知恵や技術を持ち寄りながら、進めるプロジェクトと位置付けております。「TOHOKUチャレンジプロジェクト」では、東北大学が中心となって検討を進めている次世代放射光施設の設置を契機とした、新しい技術が生まれる環境づくりを盛り込むとともに、「都心創生プロジェクト」においても、産学官金の技術やノウハウを活かしたイノベーションの創出を盛り込んでおり、大学をはじめとした教育機関との連携を図りながら、まちづくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
③実施の方向性03 まちの回遊性を向上する（4件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
201	移転と言われている宮城県美術館を仙台市で買い取るべき。今時、音楽ホールや美術館は、県内市内に複数あるのは珍しいことではない。	宮城県美術館につきましては、宮城県において現地存続の方針を示しております。また、本市におきましては、音楽ホールの整備検討を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ

202	東北や仙台の企業や商店が、他地域や海外の大型資本に負けることのないよう、企業同士でイノベーションを生み出し、研鑽しあえる仕組みや、人の流れが大型商業施設だけに集中しないようにするために回遊性が高く、より快適に過ごせる都心づくりが必要。近年は地元の企業が倒産、より大きな企業に吸収合併されるような事態が相次いでいるが、地元で根付く企業が主となって経済活動を行ってこそ、地域の力の源になるのではないか。	「都心創生プロジェクト」に掲げたとおり、地元企業をはじめとした多様な主体が集い、技術やノウハウを持ち寄ることでイノベーションが生まれる環境づくりや、地域ごとの特性を活かした魅力的なコンテンツを生み出し、それらを面的につなげることで都心全体の魅力を高める取り組みなど、ビジネスと交流の双方の視点から人が集まる場所としての拠点性を高めてまいりたいと考えております。また「TOHOKU未来プロジェクト」におきましては、グローバルな戦略的提携などを通じて、地域経済を牽引する企業の輩出や、地消地産の社会づくりを進めるなど、経済活動の地域内循環や地域経済の成長を支える取り組みを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
203	若者や女性、酒を飲まない方も楽しめる国分町があれば良い。昼にもできることは少ない。城下町と市内エリアとしてもっと良いコンテンツやPRができれば。		イベント
204	青葉通りを広場化し、中心部への車両を規制して公共交通利用者の増加を目指して欲しい。仙台セントラルパークの早期実現を。	青葉通の一部広場化につきましては、関係機関との連携を図り、交通に及ぼす影響等についての調査などを行いながら、検討を進めてまいりたいと考えております。	説明会
(9)その他チャレンジプロジェクト (21件)			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
205	中間案の内容で、8つのプロジェクトが縦割りになっているように感じた。多様なライフスタイルを考えた場合に、健常者と障がい者、各年代において、一緒に平行して具体案を検討していく必要もあると思う。互いに理解し合い、交流を深めて、バランスを検討していくこと(チーム)も必要だと思う。各年齢層や障がい者、各区などの交流機会をつくるのがとても重要なことではないか。	多様性が尊重される環境づくりは、これからの社会においてより一層重要になるものと考えており、「心の伴走プロジェクト」や「ライフデザインプロジェクト」などにおいて、年齢、性別、国籍、障害の有無などの多様性への理解が広がる機会や交流の場づくり、活躍できる環境づくりなどを盛り込んでおります。その他のプロジェクトにおいても、それらの視点を踏まえながら、各般の取り組みを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
206	そこそこ生活できる仙台市は、県外、東京、海外という意識が低いと思う。子どもも大人も外国人などと交流できる機会を増やして欲しい。 また、仙台は震災も、大規模小規模合わせ「まつり」という宝があったからこそ乗り越えてきた。上から言われると動かないが、市民にはまつりの熱がある。他県や海外との交流にも活かしていきたい。	海外や住民を含め外国人の方との交流は、コロナ禍を経てもなお重要となるものと認識しており、「心の伴走プロジェクト」に多様性を理解し、交流ができる場をつくる視点を盛り込んでおります。また、同様の視点は子どもたちを対象とした「笑顔咲く子どもプロジェクト」にも、グローバル化に対応した成長機会や多様性への理解を深める機会といった視点を盛り込んでおります。ご指摘のとおり、祭りの文化も重要と考えており、例えば、お祭りの際に留学生の方に声をかけて交流を深めているといった地域もございませぬ。また、本市は国内外に姉妹都市を持ち、定期的な交流も図っているところであり、引き続き、域内外との交流に意を用いながら、具体の取り組みを検討してまいります。	パブコメ
207	SDGsとプロジェクトの関係性について、SDGsの17の目標・169ターゲットを理解した上での記載と、「17の目標」と大まかに紐付けているだけの記載が混在しているように見える。例えば「②防災環境都市プロジェクト」に「5.ジェンダー平等を実現しよう」が入っているのは、前者の印象を受ける。その一方で、例えば「⑦TOHOKU未来プロジェクト」には「5.ジェンダー平等を実現しよう」のマークが記載されていないが、「起業家」は男性のアイコンではないだろう。SDGsに準拠するなら、表面的でなく、より深い結びつきを意識して記載をして欲しい。	ご例示の「ジェンダーの平等」の視点はどの取り組みにも通ずるものであり、「TOHOKU未来プロジェクト」における起業に関しては、男性に限定するものとは考えておりませんが、今般のチャレンジプロジェクトにおきましては、SDGsを共通言語として協働を進める上での一つの目印として記したものであり、SDGsの17の目標・169ターゲットを踏まえた上で、特に関連が深い主なSDGsのゴールを明記することといたしました。	パブコメ
208	IT技術をどうまちづくりに生かすのか。積極的に活用すべき。	IT技術は様々な分野に活用できるものであるため、「都心創生プロジェクト」において、産学官金の持つ技術やノウハウを活かしながら、地域産業の強みや課題を新たな価値の創出につなげる経済分野はもとより、「地域協働プロジェクト」においては、コミュニケーションや医療、交通など様々な分野にIT技術をはじめテクノロジーを活用していくことを目指してまいります。	説明会
209	国際化や国際性については、どのように取り組むのか。	子どもから大人まで、国籍を含め、多様性への理解が広がる機会づくり(心の伴走プロジェクト、笑顔咲く子どもプロジェクト)に取り組むほか、国際的な防災の取組指針である「仙台防災枠組」を踏まえた安全で安心なまちづくりの世界への発信(防災環境都市プロジェクト)、仙台・東北の豊かな自然や歴史文化等を活かした国内外からの誘客(TOHOKU未来プロジェクト)などにより、国際社会を見据えた取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
210	若者が魅力を感じる施策はあるのか。	若者がまちづくりに関して考え、実践できる機会づくりを盛り込んだ「地域協働プロジェクト」、子育てを楽しめる環境づくりなどの「笑顔咲く子どもプロジェクト」、魅力的な働く場の確保につながる「TOHOKU未来プロジェクト」などを重点的に取り組むチャレンジプロジェクトに位置付けており、暮らし、就労、子育てなど様々な分野において若者に魅力的なまちづくりを総合的に進めてまいりたいと考えております。	説明会
211	西部地区の開発をお願いしたい。特に作並温泉の活性化をして欲しい。	「地域協働プロジェクト」に豊かな自然資源や地域特有の生活文化などを活かした交流環境づくりについて盛り込むとともに、「TOHOKU未来プロジェクト」に自然・歴史・文化などを活かした域内観光の活性化について盛り込んでおります。作並温泉を含む西部地域におきましても、本計画の方向性を踏まえ、地元関係者の方々と協働し、地域資源を活用した交流人口拡大に向けた取り組みを進めてまいります。	説明会
212	学力向上による新産業の創成をすべき。	「TOHOKU未来プロジェクト」や「都心創生プロジェクト」を掲げたとおり、起業家などが挑戦しやすい環境づくりや産学官金の連携などにより、様々な分野において新たな事業が生まれるような環境づくりを進めてまいります。	説明会
213	SDGsへの取り組みが記載されているのも評価できる。	SDGsは2030年までの国際目標で、本市においても留意すべきものと認識しており、SDGsを共通言語として、同じ目的意識を持った方々との協働を重ね、プロジェクトを推進してまいりたいと考えております。	説明会
214	「人口減少対策」に対するマクロ(東北的)、ミクロ(仙台市)のきちんとした方向性やイメージが描かれていない点が不足に感じた。(多分に全国的に取り上げられている点かと)	現在、増加を維持している「社会移動」は東北5県ならびに県内市町村からの転入に支えられている現状を踏まえると、コロナ禍を経て、リスク分散や働き方の多様化に伴う地方への意識が高まる中、仙台市の拠点性を高め、首都圏等からの人の流れを引き寄せる取り組みが重要であると考えており、それらの視点を踏まえ、総合計画審議会において人口減少が著しい東北の中での仙台の役割や活力を生み出すために必要な取り組みについて議論を重ねていただきました。 中間案では、次世代放射光施設の設置などによる産業集積や起業の促進などにより、東北発のイノベーションの創出を目指す「TOHOKU未来プロジェクト」や、多くの人が集う仙台の交流の要所として、ビジネスや交流基盤を整備する「都心創生プロジェクト」、子育てしやすい環境づくりを盛り込んだ「笑顔咲く子どもプロジェクト」を掲げるなど、マクロ、ミクロの双方の視点から、人口減少局面においても市全体が活力に満ちたまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会

215	泉ヶ岳のリゾートなどの活用を。	「地域協働プロジェクト」や「TOHOKU未来プロジェクト」に掲げたとおり、市民の皆様暮らしや観光振興に自然資源を活かしてまいりたいと考えております。	説明会
216	チャレンジプロジェクトが8つもあって、多すぎてやや消化不良の感じがする。	チャレンジプロジェクトは、4つの目指す都市の姿の実現に向けて重点的に取り組むプロジェクトと位置付けており、仙台の強みや現状を踏まえ、いずれも必要なプロジェクトであると認識しております。	説明会
217	「目指す都市の姿」と「チャレンジプロジェクト」の内容について、関連を明確にした方がわかりやすいと思う。例えば、目指す都市の姿の「自然」は、どのチャレンジプロジェクトに関連するのか説明が必要である。	「目指す都市の姿」と「チャレンジプロジェクト」の関係性につきまして、例えば、目指す都市の姿「杜の恵みと共に暮らすまちへ」であれば、チャレンジプロジェクトの「杜と水の都プロジェクト」と「防災環境都市プロジェクト」との関連が深いものと認識しておりますが、それらのプロジェクトの中でも、「自然」以外に、「心地よさ」や「成長」、「進め！」など他の要素も掛け合わせてより良いプロジェクトにしていきたいと考えており、総合計画審議会のご議論も踏まえ、固定的な関連付けは行わないこととしております。	説明会
218	チャレンジプロジェクトの項目の基本的方向性は、一人一人の市民が安心して暮らせるまちということだと思う。雇用の安定も含め、しっかり取り組んで欲しい。	安心して暮らせる地域を目標とする「心の伴走プロジェクト」や雇用の確保・拡大にもつながる「TOHOKU未来プロジェクト」など、それぞれのプロジェクトの中には安心して暮らしを営む視点が盛り込まれており、その視点を踏まえながら、具体的な取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
219	若者や子育て世代の声を汲み取る努力を引き続きお願いしたい（住みやすさ・暮らしやすさの観点は大事）。	若者がまちづくりについて考え、実践できる機会づくりを盛り込んだ「地域協働プロジェクト」、子育てを楽しめる環境づくりなどの「笑顔咲く子どもプロジェクト」、魅力的な働く場づくりにつながる「TOHOKU未来プロジェクト」などを重点的に取り組むチャレンジプロジェクトに位置付けており、当事者の声を踏まえながら、暮らし、就労、子育てなど様々な分野において若者に魅力的なまちづくりを総合的に進めてまいりたいと考えております。	説明会
220	杜の都を目指すのであれば、自然豊かな市を構築するための産業を起業する企業の支援や誘致、若い人の労働力を確保する。また、電力・ガス・水道等の改革により、新しいクリーン生活ができるよう支援する等の明るい未来を構築して欲しい。	「TOHOKU未来プロジェクト」や「都心創生プロジェクト」に起業環境づくりや企業誘致、「防災環境都市プロジェクト」には、再生可能エネルギーなど環境負荷の低い生活・ビジネススタイルの定着を盛り込んでおり、杜の都にふさわしい、都市環境やビジネス環境を構築してまいりたいと考えております。	説明会
221	都心への投資に傾斜するのではなく、地域分散型のまちづくりを。	都心は仙台ひいては東北の経済活動や交流の中核的な役割を持つ都市機能が集積しておりますことから、都心の機能と魅力を充実させることで国内外の企業や投資家の方々からこのまちの可能性に注目していただき、持続的な活力の創出につなげられるよう取り組んでまいりたいと考えております。 地域づくりにつきましては、地域によって人口構成が様々であるなど、地域の実情に沿った対応が必要との認識のもと、チャレンジプロジェクトにおいて、住民の皆様や市民活動団体、企業など多くの方々の知見や強みなどを課題解決などに活かしていく地域を目指し「地域協働プロジェクト」を掲げております。また、区ごとの地域づくりの方向性も作成しており、各区においても地域の実情を踏まえた対応を図ってまいりたいと考えております。	説明会
222	この10年間で、仙台市として、何を最優先に進めて行くのか。	チャレンジプロジェクトは、いずれも今後10年間で重点的に取り組んでいくプロジェクトと位置付けております。本市においては、概ね3年ごとに策定する実施計画や毎年度の予算編成において、社会情勢を踏まえた優先度なども考慮しながら、具体的な事業の組成を進めてまいりたいと考えております。	説明会
223	8つのチャレンジプロジェクトについて方向性は良いと思う。具体性に欠けると感じていたが、これからみんなで創り上げるものという点で理解した。一方、そういう内容にしては意見交換の機会が少ないようにも思う。これからその点は期待したい。	今回の計画は、多様な主体による協働を掛け合わせて挑戦を重ねるとの理念のもと、計画の策定段階から、区ごとのワークショップをはじめ、様々な市民参画イベント等を実施し、市民の皆様のご意見を踏まえながら検討を進めてまいりました。「計画の推進」に掲げたとおり、計画策定後においても、基本計画の共有や進捗状況の情報発信を行いながら、市民の皆様のご意見を伺うよう努めてまいりたいと考えております。	イベント
224	町内会や学校とのつながりが無い。地域住民や子どもたちをもっと巻き込んでいく方法を考えたい。	「地域協働プロジェクト」に掲げたとおり、地域づくりを進める上では、町内会や学校を含む教育機関を含め、地域の様々な主体との協働が重要であると考えており、こうした多様な方々の参画を得られる機会づくりに努めてまいります。	イベント
225	仙台市をより良くしたいという想いはそれぞれあるにしても、一個人として、もしくは企業人としての立場で考えるかどうかによって捉え方が変わってくるように感じた。いずれにしても、8つのチャレンジプロジェクトすべてが良い計画だと思ったので、機会があれば自分も参加しながら達成したいと思った。	今回の計画では、まちづくりの理念として「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」を掲げるとともに、行政のみならず、仙台に関わる多くの方々とともに進める「チャレンジプロジェクト」をお示ししております。仙台の強みを最大限に活かし、多様な主体の方々の知恵や技術を持ち寄りながら、魅力的なまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	イベント

④地域づくりの方向性（0件）

⑤未来をつくる市政運営（169件）

(1)市政運営の基本姿勢（39件）

①持続可能な都市経営の基盤を構築する（12件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
226	開示可能な行政文書や公文書の適切な保管と公開を。	行政文書については、文書ごとに保存期間を定め、收受・作成時点で保存期間を明示の上保管するなど、適正な管理に努めております。今後とも職員間での周知徹底を図り、適正文書管理に基づく文書の保管と公開を行ってまいります。	パブコメ
227	これからの時代において、市は「何をするのか」だけでなく、「何をやめるのか」ということも考え、決めていかなければならないと推測する。前向きな話だけでなく、縮小する時代に適応するためのビジョンも打ち出して欲しい。また、「何をやめるのか」を決めるには、社会課題・地域課題に対して優先順位を付けなければならない。これは果たして市だけで行うべきなのか、という点も議論が必要である。縮小する時代に対応するためのビジョンと併せて、縮小する時代の市（公共）のあり方も検討して欲しい。	ご指摘は、財政制約がより一層強まることが予想されるこれからの時代において重要な視点であり、地域経済の活性化による税源涵養や市税・保険料などの収入率向上などを図るほか、公共施設の管理に関する事業費の平準化、事業等のコスト縮減など、歳入歳出両面における様々な取り組みを講じていくことが必要だと認識しております。その上で、限られた経営資源を効果的に配分していくため、社会情勢や事業の効果検証なども踏まえながら、目指す都市の姿の実現に向け特に効果がある事業への重点配分と併せて、既存事業の見直しによるコスト縮減を図るなど、選択と集中の徹底を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
228	今後の人口減少を見込んだものであると、評価している。予算は減少していくので、施策を民間の資金でやるような意気込みで、民間投資を他分野に取り入れられるようにしてはどうか。また、人員と資金を民間から持って来れるように加えてはどうか。	財源の確保は施策の推進に不可欠な視点であり、「未来をつくる市政運営」の「市政運営の基本姿勢」において、民間活力の導入について盛り込んでおります。施策の検討・推進に当たって民間の知見を活かすとともに、様々な資金調達の方法につきましても検討を進めてまいります。	説明会

229	「自助・共助・公助」は逆だと思っている。自助ができるなら政治も行政も不要なのは。	「自助・共助・公助」すべての取り組みが重要だと考えており、住民の皆様一人ひとりでできること、地域などのコミュニティにおける協働、行政サービスなどを効果的に展開していくことで、安心・安全に暮らせる地域づくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
230	受益と負担の関係はしっかり認識してもらおうべき。	健全な都市経営を行う上では、受益と負担の関係性を意識することは重要であり、市民の皆さまにわかりやすい説明を行いながら、必要に応じて適正化を進めてまいりたいと考えております。	説明会
231	経済合理性に流されない検討をお願いしたい。	いただいたご意見を参考にし、社会情勢や財源、市民の皆さまのご意見などまちづくりに関する様々な要素を踏まえながら、行財政運営を行ってまいります。	説明会
232	今回、地域チケットがついた3割増商品券が、とても盛況だった。地域の事業者の方々と協力体制を活用し、ガバメントクラウドファンドをしていただいて、ふるさと納税と同じような税金対策でいろんな協力を得られるのではないかと考える。	どのような事業を行うにあたって、財源は重要な問題であり、歳入歳出の確保に向けて様々な取り組みを行うことで持続可能な都市経営基盤を構築してまいりたいと考えております。いただいたご提案は、今後の歳入確保に向け、参考にさせていただきます。	説明会
233	コロナ禍で税込減や経済の落ち込みの中、この計画が計画倒れになってしまうのではないかと心配している。	ご指摘のとおり、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、さらなる財政需要が見込まれる一方、市税等の収入も大きく減少することも想定されます。今後もコロナ禍の影響に注視していく必要があると考えておりますが、財政運営がより一層厳しくなるという前提のもと、事業の不断の見直しや国の交付金の活用などにより、積極的に財源の確保に取り組んでまいりたいと考えております。	説明会
234	宮城県によって水道民営化が進められている。これにも、市としての考えを早急に明らかにするべき。	宮城県が導入を進めている宮城県上工下水一体官民連携運営事業（みやぎ型管理運営方式）は、全国の水道事業体を取り巻く経営環境が厳しさを増している中、最終的な給水責任を地方公共団体に残した上でコンセッション方式の導入が可能となった改正水道法を踏まえた事業手法です。 水道事業へのコンセッション方式の導入は我が国で初めてとなるため、水道水の安定供給、災害時等のリスク管理、事業費削減が確実に実施され、受水市町（県から水道水の供給を受けている市町）への安定給水や経営基盤強化に繋がる取組みとなるよう、受水市町合同で県に要望を行ってきたところであり、引き続き機会をとらえ県に働きかけを行ってまいります。	パブコメ
235	ガス事業の民間への売却は、価格について多数の人が疑問を持っている。ガス民営化は一旦凍結して市民合意を問い直して欲しい。	電力・ガスの小売全面自由化により、事業や地域の垣根を越えた相互参入が進み、関東・関西圏では、電気とガスのセット販売などの新たなサービス提供が始まり、利用者の利便性が高まっています。このように、今後のガス事業者には、安全なガス供給を行いつつ、サービスの向上などをさらに図っていくことが求められています。一方で、公営事業者は、民間事業者と比べ、事業範囲や供給エリアの拡大などの点で制約があり、柔軟な対応をとりづらい環境にあります。ガス事業を永続的に発展していくことを考えた場合、より柔軟な事業運営が可能な民間事業者に経営を委ねることが必要であると考えます。	説明会
236	ガス民営化について。中間案58ページにはインフラの整備としてガス管にのみ言及があるが、ガス民営化については記載がない。ガス局を民営化するという事は、港工場。青葉区ガスサロン、宮城野区土地等の仙台市の不動産を売り渡すことになる。どれくらいの土地価格を持っているのか、それに依りて本当に売値が正しいのか。これらも含め、ライフラインは公的に管理するべきではないか。 新聞報道では、400億円で、全部を売り渡したいという意向が仙台市から出されているとあったが、土地の不動産価格が実質どれくらいであるかも一緒に教えて欲しい。	最低譲渡価格については、現在のガス局の資産をもとに算出したものではなく、民営化後のガス事業の経営に加え、新たな事業展開に伴う付加価値分を考慮するなど、複数の手法により企業価値を検討した上で、本市が最低ラインとして設定したものです。 現在、民営化の公募手続きを進めておりますが、今後、応募者との協議や民営化推進委員会での提案審査などを経て、市として優先交渉権者を決定し、令和4年度内に事業譲渡を行う予定です。ガス事業の民営化にあたりましては、ガスの安定供給や保安の確保はもとより、市民、関連する企業、仙台市にとって有益な民営化になるように取り組むとともに、進捗等について、ホームページやガス局広報誌「くらしの炎」等を活用し、周知、広報に努めてまいりたいと考えております。	説明会
237	市ガス事業の民営化においても、十分な情報開示を怠ったままにしており、市民の疑問・反発を招いている。これらの諸問題が総合計画に関係ない、ということはない！	（この欄は上記の回答と重複するため省略）	パブコメ

②協働によるまちづくりを加速させる（9件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
238	本基本計画のあらゆる部門で協働の追求が前提、目的であるかのような内容になっており、本計画が行政計画でなく、協働計画（意味不明の）であるかのような印象を受ける。特にこの「未来をつくる市政運営」のなかで「(2) 協働によるまちづくりを加速させる」としているが、前記の様な自助・共助の推進ということなのだろうか。この(2)の冒頭の「地域ニーズにきめ細かくに対応するためには」、コミュニティ分権を強力に推進するために区の権限の大幅な拡大と、自治基本条例（制定）に裏付けられた小学校又は中学校区単位の権限を有する協議組織を立ち上げていくことが不可欠だ。行政の下請化に直結している指定管理者制度や公共サービスの市場化を推進する公民連携は、住民自治の阻害要因ともなる。	本計画は、仙台が持つ強みを活かし、協働と挑戦を重ねながら、新しい価値を創造していく姿勢を大切にしていこうという考えのもと、まちづくりの理念やチャレンジプロジェクトなどを定めております。その上で、ご指摘の「協働によるまちづくりを加速させる」という項目につきましては、その実現に向けた市役所の姿勢として、市民の皆様とのコミュニケーションの活発化や政策形成への市民参画の促進、区役所における地域の状況にきめ細かくに対応できる体制づくりなどを盛り込んでおり、行政の役割をしっかりと果たしながら、協働によるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
239	地域に根付いた、まちづくりの市職人プロの指導を求めたい。泉区西部地区は50年なんの変化もない、反対に農業を守るため、農村振興法指定が農村地域の人口の増加ができず、実況小学校のように廃校の危機に瀕している。結果、子供たちが犠牲になってきている。（現在5名の児童タクシーで根白石小学校に通学）真剣に地域の発展を考えてくれる人はいなかった結果と思われる。	人口減少や少子高齢化が進展し、地域課題が多様化・複雑化する中では、市職員としても地域に入り、住民の皆様と課題を共有したうえで、NPOや企業などとも連携を図りながら地域づくりを進める必要があると考えております。人事異動や組織体制に変更が生じて、それまでの取り組みの継承・改善の視点を持ちながら進めることができるよう留意してまいりたいと考えております。	パブコメ
240	仙台市では、「仙台市市民公益活動の促進に関する条例」を制定した平成11年に「市民協働元年」を宣言し、これまで市民協働を展開してきた。市民協働を、地域の活力の創出の柱にとどまらず、市政運営や都市経営の基盤に位置付けていたのがこれまでの仙台市だと認識している。また、地域課題・社会課題が多様化・複雑化してきている今日において、行政や企業、地域が“単独”では課題に対応することが難しくなっている。市民協働や市民力は、これからの時代において更に重要になると考える。 一方で、基本計画中間案を拝見すると、「市民協働」「市民力」という言葉が見当たらない。市民目線での問題提起・課題解決を積み重ねてきたこれまでの市政運営や、「市民協働」「市民力」によりスポットを当てている現在の基本計画と、中間案の間には大きなギャップを感じるが、これは市が方針を転換したということか。	ご指摘のとおり、市民協働に関する本市の位置づけは重要なものだと考えており、本計画においてもその認識が変わるものではありません。中間案では、多様な主体の力をまちづくりに活かしていく「チャレンジプロジェクト」を掲げたところであり、行政と市民の皆様との「市民協働」に関わらず、様々な協働とイノベーションが生まれるよう、各般の取り組みを進めてまいりたいと考えております。また、「市政運営の基本姿勢」の協働によるまちづくりを加速させるため、市民協働を推進する職員が育つ環境づくりなどについて盛り込んでおります。	パブコメ
241	今後の市政運営において、市民一人一人の発意に対してはどのように受け止めようと考えているのか。市民の発意や市民の課題認識を行政が受け止め、または拾い上げ、市民・行政と一緒に考え行動する、ということがこれまでの仙台の都市個性を形成してきたと思うが、その点が薄まっている印象を受ける。	中間案では、まちづくりを進める上で「協働」は不可欠であるという認識のもと、まちづくりの理念にその趣旨を盛り込むとともに、多様な主体の力をまちづくりに活かしていく「チャレンジプロジェクト」を掲げたところであり、行政と市民の皆様との「市民協働」に関わらず、様々な協働とイノベーションが生まれるよう、各般の取り組みを	パブコメ

242	「市民協働」が薄い。協働という言葉あるが、市民協働がないのはなぜか。仙台市の政策の根っこではなかったのか。昔の市長が平成11年を「市民協働元年」と呼び、先進的な施策を打ち出してきたと聞いていたが、それはどこにあるのか。横浜市は新しい庁舎の1階に「市民協働推進センター」を置いた。各区に市民活動支援センターを設置して、市民の活動を応援し、その力を束ねて市民協働の推進力にしている。見習うべきではないか。	進めてまいりたいと考えております。行政といたしましては、「未来をつくる市政運営」の「市政運営の基本姿勢」に協働によるまちづくりを加速させるため、市民協働を推進する職員が育つ環境づくりや区役所の体制づくり、市民の皆さまと職員の間で対話や学びあいをまちづくりにつなげることなどについて盛り込んでおります。	パブコメ
243	自治会とNPOをまとめて同じような「市民活動」扱いしているが、役割も違うし、支援策も異なるのではないか。横浜市には自治会のための「地域の絆をはぐくむ条例」が市民協働条例とは別にある。「地域協働プロジェクト」は、そこが混同しているようだ。	中間案では、まちづくりを進める上で「協働」は不可欠であるという認識のもと、多様な主体の力をまちづくりに活かしていく「チャレンジプロジェクト」を立ち上げ、様々な主体が知恵や技術を持ち寄りながらチャレンジを続けていくことが重要であることを盛り込んでいます。	パブコメ
244	大都市における住民自治、コミュニティ分権・自治を徹底するためには、これまでの協働のあり方（特に議会の責任・役割が明確にされていない）を抜本的にあらため、自治基本条例に基づく、①市民及び②市議会（二元代表制の一翼になっていない）、③市長の協働に転換すべきである。	この実現に向けては、異なる様々な主体の役割が最大限発揮されることが必要なことから、今後も各主体の役割を意識した協働の取り組みを進めるとともに、必要に応じた支援を行ってまいります。	パブコメ
245	財政の裏付けはどうか。区には財源がない中で、どう実施するのか。	区役所においては、これまで人員体制を含めた組織の強化とともに予算の拡充を図ってまいりました。財政制約の強まる中ではありますが、地域づくりの frontline にある区役所の役割も重要性を増すものと考えており、区役所と本庁の連携機能の強化を図るなど、地域の状況にきめ細かく対応できる体制づくりを行いながら、効果的な施策の推進に努めてまいりたいと考えております。	説明会
246	地域の人間が1番その地域を知っているという意見があったが、全くその通りだと思う。アンケートや各分野・ステージの人達にリアルなニーズや課題、提案などを伺う（話を聞く）チャンスを作っていくことが、市民協働の一歩だと思っている。	基本計画の策定にあたり、ワークショップや全市民を対象としたアンケートなどの様々な市民参画事業を実施し、市民の皆さまの地域づくりへの考えなども受け止めながら、検討を進めてきました。計画の推進には、市民の皆さまとの協働が不可欠であり、今後とも各主体の皆さまの声を伺う機会を設けながら、施策の推進に当たってまいりたいと考えております。	説明会

③社会の変化にしなやかに対応する組織をつくる（4件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
247	行政システムの改革では、「高齢者」「生活困窮者」「母子家庭」などのカテゴリー別に施策対象を一括し、カテゴリー集団に対して施策を打つ旧来のあり方を打破し、個人の個別の事情に対応したきめ細かな支援が可能なシステムを築く。旧来のシステムに縛られていれば、申請主義を克服できず「誰一人取り残さない」は言葉だけのものになる。多様化する個々の事情に対応するには、一次生活圈レベルで、縦割りを廃した地域別総合行政の実現が不可欠である。市は直ちにその制度設計作業を開始する。	きめ細かな地域の実情に沿った対応を進めるためには、地域に寄り添いながら抱えている課題等をくみ上げ、取り組みに反映させていく必要があると認識しており、そのためにも局区間をはじめとして組織横断的な連携を強化してまいりたいと考えております。	パブコメ
248	総合行政本部として、各組織の頭脳を統合・集約し主な行政を司る。職員を組織的に教育。業績を適正に評価する組織を設ける。	「未来をつくる市政運営」の「市政運営の基本姿勢」において、前例にとらわれず、民間等の知見を取り入れながら、新たな発想の実現に挑戦しやすい組織風土づくりや、職員が意欲を持って能力を発揮できる環境づくりなどについて盛り込んでおります。そういった趣旨を踏まえ、職員研修や適切な人事評価などを行いながら、社会の変化にしなやかに対応できる組織づくり及び人材育成を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
249	今回の基本計画の推進するプロジェクト体制を構築する必要があると考える。縦割りだけではないプロジェクトリーダーのような組織を確立して欲しい。	8つのプロジェクトは、市民の皆様とともに進めていくプロジェクトと位置付けており、市においても組織横断的な連携を図るとともに、案件に応じて統括する課などを定めながら推進してまいります。	説明会
250	基本計画の推進役となる仙台市の職員がまず計画を全体的に理解し、自分の仕事と結びつけながら、仕事に励むことが一番大事ではないか。	ご指摘の視点は重要であると考えており、本項目においても職員一人ひとりが計画に掲げるまちづくりの理念への理解を深めていくことについて盛り込んでいるところでございます。今後とも、職員間において、計画の共有、理解が図られるよう取り組んでまいります。	説明会

④デジタル化により豊かな市民生活を実現させる（10件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
251	コロナ禍の中、政府はデジタル化により大きな変革を興す政策を進行中だが、このことも今後計画に反映されるものと思う。	コロナ禍を経てより一層デジタル化を含めたテクノロジーの進展が進むという認識のもと、各分野にそれらの活用の視点を織り込みながら、計画を策定しております。本市においては、令和2年11月に行政がすぐに取り組むべき項目を掲げた「デジタルファストチャレンジ」を打ち出したところであり、窓口手続きのデジタル化や市役所業務の改善に着手しているところです。そうした本市の取り組みや社会情勢、ご意見を踏まえ、「市政運営の基本姿勢」においてデジタル化の視点を項目出しすることとし、行政運営はもとより、市民生活や地域経済の活性化に向けてデジタル技術を活かしてまいりたいと考えております。	パブコメ
252	計画期間の2030年を見据えると、デジタル化した社会は当たり前になっているものとする。計画には多くのデジタル化に関わる文言が記述されているが、デジタル化によっておこる社会変革（地域DX（デジタルトランスフォーメーション）については全く記述がない。ぜひ、「地域DX（デジタルトランスフォーメーション）」という表現を入れることを提言する。		パブコメ
253	シリコンバレーは80年代後半、日本の半導体産業に席卷され衰退の一途を辿ったが、そこから復活した背景に市民の行動があったとのこと。NPOが電子コミュニティの実験都市として市民と企業・行政が協働する仕組みを作り上げ、その環境の中、現在のインターネット企業が誕生した。仙台市にはその土壌がある。多くのNPOが活躍している。「マイナンバーはMy Dataである」を徹底し市民全員参加の「仙台市丸ごとデジタル技術実験都市」を目指し、「産官学 金市民」でイノベーションを興しまししょう。『仙台でワクワク』しませんか。		パブコメ
254	法改正も含めたICT活用をもっと進めるべき。		説明会
255	デジタル活用について消極的な印象がある。社会の大きなトレンドについての認識・分析が薄い印象。		説明会
256	行政のICTは相当に進めておかないと、対応ができない。ただ、仙台市を見ると、ICTに対する取り組みが非常に遅れていると感じる。トップの方々が意識して、担当の方々に発信し、役所が変わるといようにして欲しい。 また、ICTやコンピューターに慣れないシニアに対するキャンペーンや支援を続けてやって欲しい。		説明会
257	「マイナンバー／マイナンバーカード」は、市民生活、行政改革、新ビジネス創造等、基本計画すべてに渡るキーワードである。このキーワードなくして基本計画はありえない。必ず基本計画書に記述し、市民、企業そして行政の方々に啓発できる表記を提言する。	マイナンバーカードについては、マイナポイント制度開始などを踏まえたマイナンバーカード交付体制の強化の一環として、アエルに予約制の交付窓口「マイナンバーカード特設センター」を設置するなど、本市としても普及促進に取り組んでいるところでございます。マイナンバー利活用については、国の動向に注視しながら検討を進める	パブコメ

258	「マイナンバー」は、決して行政効率化のためだけの番号ではない。私達市民自身が「My Data」の一つとして捉え、このデータを自らの生活のために活用する時代である。そして「My Data」は市民生活に密接に関係する新技術、新サービスを創造する最大の要素である。世界の巨大ICT企業が成長した最大の要因は、個人データの活用にあった。これからは（暗号化や仮名化・匿名化など）適切なプライバシー保護を行った上で「本人の承諾（停止を含む）」と「最小開示」の原則に基づいた個人のデータ「My Data」活用新ビジネス創造の視点を「07 TOHOKU未来プロジェクト」として記述することを提言する。	とともに、個別のキーワードの表記につきましては、基本計画が今後10年間にわたって続くという性質を踏まえて検討してまいりたいと考えております。	パブコメ
259	すべての計画に個人データ（マイナンバー）が関係する。スーパーシティ計画とリンクして国を動かして欲しい。規制を壊そう。仙台市を実験都市にしよう。マイナンバーを使って新ビジネス創造を。まずは行政イノベーションを起こそう。そんな市になって欲しい。10年後は「デジタル仙台」を目指そう。		イベント
260	マイナンバーで窓口の効率化も進めて欲しい。		イベント

⑤大都市としての責任を果たす（4件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
261	「大都市としてのスケールメリットを発揮」と言い切っているが、一方のデメリット、顕在化するリスクについてふれないのは、全くの片手落ちである。 東日本大震災であれだけの犠牲者が出た最大の理由は、大都市化の原動力となった産業・都市開発にある。例えば1960年代から本格化した新産業都市・仙台港建設（掘込港湾）開発が宮城野区蒲生北部の被災の拡大要因となり、300名の死者のうち半数が事業所関係者であると言われている。また、若林区荒浜の新市街地の場合も同様（新住民）である。	「防災環境都市プロジェクト」や「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 3防災・減災」に掲げたとおり、各施設の耐震化など都市インフラの防災力向上のほか、避難所運営体制の強化や要配慮者対応、防災教育などにより地域防災力の向上に向けた取り組みなどを通じて、市民の皆様が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
262	宮城県と仙台市は、若者の首都圏流出や子育て支援をはじめとして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や大規模・多様化する自然災害への対応、東北全体の発展にも貢献する経済の安定的成長など、共に取り組むべき様々な課題があるものと考えている。共に同じ方向性にある新たな総合計画を策定するものと思うので、引き続き、連携しながら取組を推進していければと考えている。	宮城県とは、様々な分野で連携を図ってきたところであり、今後とも、市民の皆様、県民の皆様の福祉向上を目指し、緊密な意思疎通を心がけ、県市の適切な役割分担の上に、より効率的で効果的な仙台・宮城のまちづくりの推進に努めてまいりたいと考えております。	パブコメ
263	国・県等との縦割り繋がりで思考停止気味の弊害を以前から発信してきた。まずできないことを強調し、前例踏襲・無難を旨とし、若い職員のやる気を削ぎ、組織を沈滞化させ、積極的な創造性は感じられない。縦割りの細分化で結果対応に終始し、総合行政に乏しく、職員の教育諸組織・業績を適正に評価する組織もなく、活性化に乏しく、今後の困難を極める持続可能な縮小社会構築のためには、総合行政に改革することが先決。	「未来をつくる市政運営」の「市政運営の基本姿勢」において、前例に捉われず、民間等の知見を取り入れながら、新たな発想の実現に挑戦しやすい組織風土づくりや、組織横断的な連携などについて盛り込んでおり、今後の変化の激しい時代においてもしなやかに対応できる組織づくり及び人材育成を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
264	「(4) 大都市としての責任を果たす」は、国の地方創生の動きに親和的な表現になっており問題である。これまで仙台への人、モノ、カネの集積は、東北からの人口流出のダム効果になると言われていたが最早通用しない。仙台市への集積促進は、県内外エリアとの連携、共生どころか同エリアの更なる疲弊に直結し、仙台市経済へのマイナス効果ともなる。 特に都心部における規制緩和と機能集積誘導（再投資誘導は、地価をつり上げる一方で、頑張っている地元企業を駆逐し、歴史的に積上げてきた多様性も壊滅する。 「(4) 大都市としての責任を果たす」というような根拠（法的にも）もどこにも示されていない（(4)の内容は、指定都市市長会提案の『特別自治市』の問題とも重なる点がある）。周知の様に政令指定都市自体が制度的にも不明確だ。いずれにしても、中央政府や大資本によるコントロール下の拠点型・拡大型ではない、市民一人ひとりの尊厳が大切にされ、いきいきと生活できるローカリズム（循環性と自律性）あふれる、地方自治の本旨を希求する都市運営こそが求められている。	今般のコロナ禍により、リスク分散や働き方の多様化による地方への意識の高まりを本市に引き寄せることが東京一極集中是正にもつながるものと考えております。その際、市民生活の安全の確保はもとより、地域経済の活性化を図り、仙台の拠点性を高めることが重要であり、現在「せんだい都心再構築プロジェクト」として、老朽建築物の更新等に向けた支援策などを打ち出しております。中間案には、「TOHOKU未来プロジェクト」や「都心創生プロジェクト」を掲げており、東北にも波及効果をもたらすことができるよう、経済活力の創出に取り組んでまいりたいと考えております。	パブコメ

(2)都市構造形成の方針（30件）

①基本的考え方（0件）

②自然と調和した都市構造の形成（19件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
265	貨物引き込み線に旅客線も走れるよう鉄道を循環化させる。	いただいたご意見につきましては、今後の検討にあたり、参考にさせていただきます。	パブコメ
266	P39に記載の土地利用方針図（案）によれば、愛子周辺地域までは市街化区域とし、それ以西は従来通り市街地調整区域として開発を抑制することのようだが、実態と合わないため早急に見直し、国道48号線沿いにJR仙山線白沢駅までを市街化区域とすることを要望する。	本市においては、近い将来に迎える人口減少社会を見据え、持続可能な都市構造の実現に向け、過度に自家用車に依存しない、環境に優しい鉄道を中心としたまとまりのある機能集約型の都市づくりを進めております。市街化区域の拡大については、先の考えを念頭に、今後の地域の情勢変化などを見極めながら、地域住民をはじめとした関係者の方々とともに検討してまいりたいと考えております。	パブコメ
267	P39に記載の土地利用方針図（案）によれば、この工業ゾーンは形状から見て、みやぎ広瀬総合運動場区域と推定されるが、ここに工業ゾーンを造成し、総合運動場を宮城総合支所周辺に計画されている土地区画整理事業区域に移転する計画だとすれば、以下の理由で反対する。 ①宮城総合支所庁舎とともに旧宮城町の二大モニュメントであり、聖域である。 ②地元住民が運動会を開くなどのようなコミュニティの場や、スポーツ公園として定着しており、移転の大義名分がない。 ③他の地域に移転するには地元住民の同意が必要 ④このようなスポーツ公園は、これより西には存在しない	宮城広瀬総合運動場を移転する計画はございません。	パブコメ
268	市は、農地をソーラー化し、それにより農家の所得を増やし、里山の風景を激変させ、緑の環境を守っている施策を現在行っている。それが今後も続くのかと疑問視している。数件の成功例をあげて満足をし、90%以上の農家を見捨てている現状を見て欲しい。	「TOHOKU未来プロジェクト」や「施策一覧 11経済」においては、農業の活性化や地場の食に関するビジネスへの取り組みについて盛り込んでおり、6次産業化等の推進による生産性・収益性向上に向けた支援や、担い手不足への対応のため、認定農業者の育成や事業承継に向けた取り組みなどを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
269	過去の農業に対する基本政策に鑑みても、農業の衰退は激しく、このままでは再生不可能の状態になるのは目に見えている。市政独自で農業の発展のプログラムの始動を始めなければならないと思う。もうマネージメントしなければ里山の農業は10年で崩壊し、農地はソーラー畑だらけとなる。農家の人々は農業をあきらめソーラーに頼るしか生活の手段がなくなっている。ソフトの活用しかない。	また、土地利用については、土地の所有者など多様な方々が係わり合いながら形成されていくものであることから、環境影響評価制度や杜の都の風土を守る土地利用調整条例の適正な運用、農業振興地域制度など、様々なツールを活用しながら、里山や田園環境の保全を最優先とした土地利用の誘導に努めてまいります。	パブコメ

270	<p>仙台西部地区の緑豊かな自然環境と、水資源は都市の温暖化防止や、水害対策にとってはとても大事なところである。しかし、緑の木々を大事に資源に活用し、再び植林を行い、山を守り続けるのは、人の手で行われている。七北田川の福岡浄水場は水道料として70億円以上の収益をあげている。大倉ダムなどの水源の森を守るのは地元の農家の人々、これらの地区の人々に対し、理解と感謝の念が市民に理解されていないので、里山を含めて、ほとんどリスペクトがない状況に疑問である。</p>	<p>本市の豊かな自然資源は、地元住民や地域団体を中心とした多くの方々により守られてきたことに鑑み、中間案では、連綿と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤として、まちづくりの理念や目指す都市の姿を掲げております。また、みどりをもたらす多様な効果について、より理解を深めていただけるよう「杜の都のグリーンインフラ」を盛り込んだところです。</p> <p>また、チャレンジプロジェクトの中に「杜と水の都プロジェクト」を掲げており、みどりをもたらす様々な効果を実感できるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
271	<p>奥山と里山のイラスト表現に重大な表現の違いがある。里山にカモシカしかいなくて、人の住む農家の集落の景色がなく、見る人に誤解を招くイラストなので直して欲しい。</p>	<p>「杜の都のグリーンインフラ」は、みどりをもたらす多様な効果について、より理解を深めていただくために視覚的に示したものでございます。</p> <p>図面は主な場所、機能を例示しているものであり、みどりをもたらす多様な効果の一部でございます。</p>	パブコメ
272	<p>写真は子供たちが森林を保全しているかのような写真はありえない。保全に努めているのは地元の住民たち。誤解のないようお願いしたい。このような表現に気が付かないのはやはり、この地域を重要視していないことがわかる。</p>	<p>また、子どもの写真につきましては、環境教育の場としての活用を事例として取り上げたものでございますが、森林の適正な保全、維持については、地域住民や団体を中心とした方々に担っていただいていることに加え、森林は水源涵養や土砂崩壊の抑止をはじめとした多様な機能を有しておりますことを認識しておりますことから、ご意見を踏まえながら、市民の皆さまにみどりの多機能性をご理解いただけるよう工夫してまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
273	<p>奥山・里山は市街地（都市部以外）よりもっと水害の軽減や水質浄化・水源の涵養に寄与している。その理念を貢献と表現してもいいのではないか。田園・海岸にも貢献と記入しており、西部地区の山々の緑には、何の貢献もないのか。</p>	<p>また、子ども写真につきましては、環境教育の場としての活用を事例として取り上げたものでございますが、森林の適正な保全、維持については、地域住民や団体を中心とした方々に担っていただいていることに加え、森林は水源涵養や土砂崩壊の抑止をはじめとした多様な機能を有しておりますことを認識しておりますことから、ご意見を踏まえながら、市民の皆さまにみどりの多機能性をご理解いただけるよう工夫してまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
274	<p>仙台西部地区（秋保・愛子・根白石）は里山の拠点である、地域の集落のよりどころとしての機能を持たせ、地域の活性化の拠点とする地域はより住民とのコミュニケーションエリアとして機能と役割を担うエリアとしての活用を図る。仙台の第2の流通基地の役割を持たせる地域として、農村保全地区の部分的な見直しを行い、地域の集落の維持を活性化を図る地域とする。もう農業だけでは生きていけない地域でもあり、市民農園に特化した地域の指定を行い、農業と市民の交流地域をクラインガルテンなどの仙台発の市民農園地帯になるのもマネジメントできる地域である。</p>	<p>本市においては、近い将来に迎える人口減少社会を見据え、持続可能な都市構造の実現に向け、過度に自家用車に依存しない、環境に優しい鉄道を中心としたまとまりのある機能集約型の都市づくりを進めております。仙台西部地区においては、地域ごとにそれぞれの課題が発生すると予想されることから、地域ごとの人口動態や、課題、資源などを踏まえながら、住民の方々とともに、地域づくりのあり方について検討してまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
275	<p>グリーンレストに関して、都心周辺の緑が失われつつあることに対策を講じて欲しい。かつて緑豊かだった台原は道路建設や宅地開発で森が削られ、名木一本杉も失われた。残された緑も、マンション敷地や空き家に残された古木が次から次へと切り倒されている状況にある。</p>	<p>緑豊かな自然環境と高度な都市機能が調和した杜の都の都市環境については、土地の所有者など多様な方々の係わり合いのもと形成されていくものであることから、環境影響評価制度や杜の都の風土を守る土地利用調整条例の適正な運用、杜の都の環境をつくる条例に基づく保存緑地とともに、事業所等の敷地内緑化の義務化など、様々なツールを活用しながら、緑の保全と創出に努めてまいります。</p>	パブコメ
276	<p>地下鉄南北・東西線、環状線網等の整備により、仙台市の骨格はできており、自然との共生を重視した人口減少に応じた持続可能な拠点コンパクトに再構築。</p>	<p>本市においては、近い将来に迎える人口減少社会を見据え、持続可能な都市構造の実現に向け、過度に自家用車に依存しない、環境に優しい鉄道を中心としたまとまりのある機能集約型の都市づくりを進めております。</p>	パブコメ
277	<p>人口80万人基準の拠点コンパクト化（縮小は困難を極めるが拡大は容易）</p>	<p>中間案では、連綿と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤として、まちづくりの理念や目指す都市の姿を掲げており、自然が持つ多様な機能の活用やエネルギー効率の高い自然環境と調和したまちづくりを進めることにより、杜の恵みとともに暮らすまちの実現を目指すこととしております。チャレンジプロジェクトの中には「杜と水の都プロジェクト」を掲げたところであり、仙台の歴史的な財産である杜の都の魅力をさらに磨き上げながら、魅力的で持続可能なまちづくりを進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
278	<p>各種都市機能の集積についても人口減少により維持コストの問題が表面化し、機能集約という新たな都市開発で乗り切ろうとしている。それはさらなる利便性の低下と空洞化、地域格差の拡大となり、コミュニティの持続可能性の否定に繋がる。</p> <p>改めて本計画の柱である「地域協働プロジェクト」が重要であるが、これまでの旧泉市や旧秋保町の合併や、行革による相次ぐ支所の廃止とは全く矛盾するものであり、これらの歴史的な経過の評価・検証と合わせての取り組みが求められる。</p>	<p>人口減少社会においては、税収減により財政制約が一層進むことで行政サービス水準の低下が懸念されますことから、これまで以上の効率的、計画的な都市経営が求められると認識しております。都市機能の分散は、例えば、不自由な生活を強いられる高齢者の増加や、上下水道、道路などのインフラ整備及び維持管理費用の増加、自動車による移動に伴う環境悪化など、様々な課題が生じると想定されますことから、引き続き、機能集約型都市づくりに向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
279	<p>ランドデザインを描くのは良いと思った。</p>	<p>図面につきましては、市民をはじめとした多くの方々に具体的なまちづくりのイメージを持っていただくために示しているものでございます。関係計画との整合性を図りながら、引き続き完成に向け検討を進めてまいります。</p>	説明会
280	<p>都心まちづくりの方向性の地図について、仙台市の平地の真ん中にあるのは楽天命パークであり、未だに仙台駅周辺が中心地とされているのはおかしいのではないかと。</p>	<p>「都心まちづくりの方向性」で示しております都心機能強化ゾーンにつきましては、政宗公以来の、まちの中心地として仙台の発展を支えてきた地域であることに加え、戦後からこの間、多くの方々の係わりの中でまちづくりが進められ、現在の仙台ひいては東北の中核的な都市機能が高密度に集積した地域となっております。このため、仙台駅周辺を中心に都心まちづくりの方向性を示しております。</p>	説明会
281	<p>既存の宅地には空き地が増えてきていることなどを踏まえれば、これ以上肥沃地を破壊して商業施設をつくることなど全く不要。何百年もかけてつくられ営まれてきた農地を一瞬にして破壊するのではなく、既存の基礎地を有効に利用する方策に力を入れるべきであるため、「周辺環境と調和しない」という条件をなくして、そもそも土地利用の転換を抑制するという方針にしてもらいたい。</p>	<p>本市といたしましても、良好な都市環境を守ることの重要性、農地の多面的な保水力も含めた役割の重要性は認識しておりますが、土地利用につきましては、土地の所有者など多様な方々が係わり合いながら形成されていくものでありますことから、いただいたご意見につきましては、今後の土地利用の検討にあたり、参考にさせていただきます。</p>	説明会
282	<p>都心部の方にばかり目が向いてしまって、素晴らしい里山のある中山間部に目が向いていない。都心部と中山間部の調和の取れた市政運営をぜひお願いしたい。</p>	<p>里山や奥山といった豊かな自然は、仙台が杜の都たる象徴でもございます。将来にわたって、都市機能と自然が調和したまちを維持、発展させていくためにも、農地や森林の保全や利活用に取り組んでまいりたいと考えております。</p>	説明会
283	<p>「自然や生きものへの愛着をはぐくむ」ことは、震災被災者、いじめ等により自死を選択されてしまう方々、その環境に触れる事により良好な影響をもたらすと考える。動物等の保護を行う事も大切で、無意味な住宅開発拡大を止める事や、野生動物を一方向的に射殺することで結論づける事を止め、共存共栄、その方向性も取り入れるべきだと思う。それらの方々が活力を再生するようなランドデザインがあれば、更に良いと思う。</p>	<p>自然や生き物の大切さを学ぶ視点は重要であると考えており、チャレンジプロジェクトの「杜と水の都プロジェクト」をはじめ、未来をつくる市政運営の「施策一覧」においても、動物との共生や生物多様性の視点を盛り込んでおります。また、ランドデザインのひとつとして、自然の持つ多様な機能を示す「杜の都のグリーンインフラ」も作成しているところでございます。</p>	パブコメ
③公共交通を中心とした交通体系の構築（11件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
284	<p>高齢化が進み、経営が厳しく仙台駅西口に集約している現行のバス路線を見直して、JR原町駅周辺からのバス路線（旭ヶ丘・燕沢方面・薬師堂～河原町方面・卸町・うみの杜の水族館・高砂方面等）への路線の構築やトラムなどの新交通システムの導入などで原町駅周辺の活性化整備を要望する。</p>	<p>将来においても市民の皆様が安心して暮らしていけるよう、路線バスと地域交通などを組み合わせた公共交通ネットワークの検討を進めてまいります。また、新交通システムにつきましては、今後の検討にあたり、参考にさせていただきます。</p>	パブコメ

285	バス運転手の高齢化や担い手不足から公共交通を中心とした交通体系は、限界があると思う。実際に要望してもバスの増便に応じてくれない。	市バスを含む路線バス事業者の経営環境は厳しい状況にあり、運行本数の増加や維持が難しい地域がありますことから、現在、地域の方が主体となった移動手段の確保に取り組む団体に技術的・財政的な支援を行っているところでございます。「地域協働プロジェクト」においても、生活に必要な移動手段の確保に向け、多様な主体が協働しやすい仕組みづくりを盛り込んでおります。路線バスと地域交通などを組み合わせた新たな交通体系の構築など、利便性の高い公共交通を中心とした交通体系の充実を図ってまいりたいと考えております。	パブコメ
286	鉄道とバスの結節強化だけでなくバスとバスの乗り継ぎ拠点強化（中心部入口付近に設置）を図っていただきたい。	バスとバスの乗継拠点を強化につきましては、現在の市バスを含めた路線バス事業者の厳しい経営環境下において、乗り継ぎ拠点として必要となる利用者の待合場所や複数台のバスの乗降所の整備が難しい状況となっております。いただいたご意見につきましては、今後の検討にあたり、参考にさせていただきます。	パブコメ
287	自動運転時代を迎えるにあたって道路空間を再編し、また、自動運転対応用の専用レーンを設けるなど道路整備を強化して欲しい。	自動走行につきましては、大学や民間事業者等とともに、一定のエリアにおいて実証実験を始めているところであり、今後も技術的な検証や社会受容性を高める取り組みを中心に実証を行いながら、社会実装に向けた課題等について整理を行ってまいりたいと考えております。	パブコメ
288	高速道路や新幹線開業とともに物流システムが充実化され、人の流れとともに経済の活性化につながるように、交通手段が重要課題なのは。	「未来をつくる市政運営」の「都市構造形成の方針」などに盛り込んでおり、都市経済や広域的な交流を支える主要な幹線道路の整備など、多様な都市活動を支える交通政策を推進してまいります。	パブコメ
289	①仙台西部地区 外環状線構想：10年後はより以上の市街地への車両の進入の増加が見込まれる。現在でも通行量が多大である。このことに鑑みて、根白石地区から市街地の計画的な都市道路の拡張が必要になると確信している。②仙台西部 観光道路構想：定義から根白石までの観光道路の整備の必要性については、国道45号線の渋滞緩和対策の重要性、3地区を直接つなぐ路線と観光による発展を目指す。③みやぎふるさと緑の道整備構想	本市の都市計画道路網は、高度経済成長期の人口増加に伴う市街地拡大に対応した整備などを進めてきたものの、今後のさらなる財政制約の強まりや、長期的には人口減少に伴う自動車交通量減少が想定されること等を踏まえ、これまでの拡大型の市街地形成ではなく、新たな郊外開発を抑制し、公共交通が利用しやすい、まとまりのある市街地形成への転換を図るべく、平成23年に、都市計画道路の見直しを行ったところでございます。 このようなことから、ご要望の道路を新たに整備する計画はございませんが、既に都市計画決定されている都市計画道路網を基本に、多様な都市活動を支える主要な幹線道路の整備に取り組んでまいります。 観光による地域活性化については、「地域協働プロジェクト」において、豊かな自然資源や地域特有の生活文化などを活かした交流環境づくりについて盛り込むとともに、「TOHOKU未来プロジェクト」に自然・歴史・文化などを活かした域内観光の活性化について盛り込んでおり、地元関係者の方々とともに、様々な地域資源を活用した交流人口拡大に向けた取り組みに関するアイデアを出し合いながら、検討を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
290	2次及び3次救急医療施設への道路アクセス強化をぜひ盛り込んで欲しい。実際の経験で、仙台西部地区から救急車で朝の7～8時の時間帯において、最短の2次緊急医療施設まで渋滞していたことがあり、50分もかかった。ぜひ、西部地区から救急医療施設までの道路のアクセス強化を盛り込んで欲しい。	救命救急や物資輸送などの活動を支えていくため、引き続き本市の骨格的な幹線道路網を形成する都市計画道路や国道・県道の整備を進めるとともに、主要な渋滞箇所における交差点改良等のハード面の対策や、渋滞解消につながる公共交通利用への転換を促すソフト施策などにより、円滑な交通の確保に努めてまいります。	パブコメ
291	公共交通体系の構築については、10年の枠に限らず、鉄道駅広場構想をより具体的に詰めて抜本的に見直して欲しい。	公共交通を中心とした交通体系の充実を図るため、鉄道とバスの結節に加え、鉄道への乗り継ぎ利便性を高める交通結節機能強化等の取り組みを進めてまいります。	説明会
292	フィーダーバスの強化ということでバスのイメージ図があるが、現実味がなくて、絵空事にしか感じない。東西線が開通したとき、多くのバス利用者が切り捨てられた。今、高齢の方や障害のある方は、タクシーを利用し、外にでかけるのも、とどまっているような状態で、皆さんもう外に出られない。目の前にバス停があればと皆さん思っているが、このフィーダーバスというのが現実的なことなのか、非常に疑問。	速達性と定時性が高い鉄道ネットワークを最大限に活用していくために、鉄道と結節するフィーダーバスの利便性向上に引き続き取り組んでいくとともに、路線バスや地域交通などの適切な役割分担を図りながら、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて取り組んでまいります。	説明会
293	平成7年頃に、茂庭台に地下鉄が通るということを聞いて、茂庭台に引っ越した。そのあと、地下鉄東西線が開通したが、動物園までだったのもっと延長するという計画などがあるのか伺いたい。	以前は、東西交通軸の検討において、仙石線の地下化に合わせ、仙台駅から西公園までを地下鉄で結ぶ計画があり、西公園から茂庭団地に至る南西方面へモノレールとする構想も検討していましたが、事業の採算性などに問題があったため、計画を断念し、その後、現在の地下鉄東西線の区間やルート等を決定し、整備を進めてきたところです。 地下鉄東西線の延伸につきましては、多額の事業費を要することに加え、需要や採算性が不透明であるなど課題が多く、その可能性を見出すことが困難でございます。	説明会
294	将来的には地下鉄を富谷や吉岡の方まで延ばしたいという要望が、主に富谷市から出ていると思うがどう考えているか。	明石台～泉中央間の新たな公共交通軸の導入につきましては、富谷市がとりまとめた「富谷市都市・地域総合交通戦略（基本計画）」の案の中で、長期的施策として示されたものでございます。 地下鉄の整備は、一般的に財政面や採算性など多くの課題を有する事業であり、本市としては、地下鉄を延伸する計画はございませんが、今後、富谷市において実現に向けた十分な議論、検討がなされるものと考えており、その状況を踏まえたうえで適切に対応してまいります。	説明会
(3)施策の体系（0件）			
(4)施策の一覧（100件）※再掲含め延べ101件			
①みどり（5件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
295	大きい立派な公園より、小さな公園を大切にしたい。（地域・町内会で集える広場を）	「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 1みどり」に記載のとおり、それぞれの公園に求められる機能や特徴を踏まえながら、適切に整備・維持管理を行い、価値や魅力の向上に努めてまいりたいと考えております。	説明会
296	西公園の北側や錦町公園、榴岡公園等の公園内で土がむき出しになっているところに芝生を植えて欲しい。	各公園について適正な維持管理に努めるとともに、再整備などを実施する際には参考にさせていただきます。	パブコメ

297	<p>仙台の「杜の都」は、政宗公は侍屋敷に木を植えさせたことがはじまりである。今、仙台で新築の家を見ると家の周りはコンクリートで固め、木は全くないか少々ある程度。個人が家に木を植えるための助成や仕組みが欲しい。</p>	<p>個人宅への助成や仕組みについては、これまで結婚や誕生などの人生の節目での記念樹の交付、道路に面した部分の生け垣づくりやブロック塀の撤去費用の一部助成などを行っており、多くの市民に活用いただいているところです。また地区計画で生け垣づくりを盛り込むなど、良好な緑化の普及に努めているところです。中間案では、連続と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤として、まちづくりの理念や目指す都市の姿を掲げております。チャレンジプロジェクトの中には「杜と水の都プロジェクト」を掲げたところであり、みどり守り育む活動などを通じて、市民の皆さまがみどりに親しみ、楽しむことができる環境づくりを進めてまいりたいと考えております。</p>	説明会
298	<p>道路に木を植えるだけでは真の「杜の都」とはならないと思う。花壇についても、10㎡以上の公的な場所でないと補助は出ないので、検討して欲しい。</p>	<p>花壇づくり助成については、花やみどりによる潤いのあるまちづくりの推進はもとより、地域のコミュニティづくりに寄与することを目的としておりますことから、一定程度の面積を要件として設定しているところです。</p> <p>中間案では、連続と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤として、まちづくりの理念や目指す都市の姿を掲げております。チャレンジプロジェクトの中には「杜と水の都プロジェクト」を掲げたところであり、みどり守り育む活動などを通じて、市民の皆さまがみどりに親しみ、楽しむことができる環境づくりを進めてまいりたいと考えております。</p>	説明会
299	<p>青葉区はもう土地が詰まっているため、宮城野区の仙台港や後背地の有効な活用について計画を練って欲しい。</p>	<p>本市東部の仙台港や後背地については、現在、非常に賑わい、人の流れなども出てきているところがございますので、住民や企業の皆さま方と一体となって、仙台市全体のまちづくりの中で、検討を進めてまいります。</p>	説明会

②環境（4件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
300	<p>12ページSDGsのゴール7に関連して、市は仙台パワーステーションを認めたが、これはSDGsとは全く逆行したもので、深刻な反省に立って二度とこうした過ちを繰り返さない計画にして欲しい。言うまでもなく仙台パワーステーションは世界で批判されている二酸化炭素排出の多い石炭を使っていること、しかも旧式の亜臨界の方式の発電であることで、時代に逆行したとんでもない発電所である。市はこれからも仙台パワーステーションには改善を求める、場合によっては操業停止を求めるなどの対策をお願いしたい。</p>	<p>石炭火力発電所については、二酸化炭素による環境負荷が高く、排出ガス等による周辺環境への影響が懸念されることから、平成29年12月には、今後、本市域への立地については自粛を強く求めることを基本とする独自の指導方針を策定したところでございます。</p> <p>また、仙台パワーステーションについては、環境負荷を低減するため、公害防止協定に基づき、国の規制値より厳しい基準を課すとともに、稼働前後のモニタリングの実施と速やかな公表を指導してきたところであり、今後とも、関係法令等に基づき、適切に対応してまいります。</p>	パブコメ
301	<p>仙台PSは年間CO2の排出量が1世帯当たりの38%にもなり、操業を止めさせるべき。</p>		パブコメ
302	<p>12ページSDGsのゴール7に関連して、仙台港付近には再生可能エネルギーによる発電としてバイオマス発電所が計画されている。市は「発電燃料である木質バイオマスを主に海外から輸入する計画であることから、燃料の調達にあたっては、調達先の森林保全の観点から、燃料の生産地における適正な森林管理や合法的な伐採であることを確認すること」と一応輸入先の環境破壊をしないよう配慮した意見書を出している。しかし、これだけでは不足だと思う。もし、輸入先で環境破壊の徴候があったり、破壊があった場合は操業を停止するなどの一文も盛り込むべき。そもそも、バイオマス発電などは地産地消とすべき。</p>	<p>ご指摘の木質バイオマス発電事業については、燃料を主に海外から輸入する計画であることから、条例に基づく環境影響評価の手続きを通して、できる限り東北地域の未利用材を活用するとともに、調達先の森林保全に配慮するよう求めてきたところであり、今後とも環境影響評価手続きの中で、有識者による環境影響評価審査会の意見も踏まえながら、適切に対応してまいります。</p>	パブコメ
303	<p>十数年前、ドイツの環境都市で有名なフライブルグに4週間ほど住んでいたが、仙台市はフライブルグよりもきれいな街であると感じた。吸殻のポイ捨てや紙、ゴミの放置を少なくしていきたいと思うが、大切なことは市民一人ひとりの心のあり方、マナーをグレードアップしていくことだと思う。一つ一つのいろいろな角度からの市民力のアップに力を入れたい。</p>	<p>仙台市では、これまで、平成11（1999）年に「ごみの散乱のない快適なまちづくりに関する条例」を制定し、環境美化活動に力を入れて取り組んでまいりました。関係団体等との協働により、街中や河川などの様々な地域における美化活動に取り組むほか、今年度はコロナ禍の影響により中止しましたが「アレマキャンペーン」などの「ポイ捨て」ごみの清掃・啓発イベントなどを行っております。また、外国人住民の方に対しても、ごみの出し方なども含めた仙台で暮らす上で必要な情報について伝達する取り組みのほか、相談対応を行っております。ごみの問題への対応につきましては、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧」にも盛り込んでいるところであり、今後とも、一人ひとりのマナーアップにつながるよう各般の取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>	説明会

③防災・減災（3件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
304	<p>現在の指定避難所に避難が原則。避難所・経路の水没が顕在化しており、二階等近場の緊急避難と引水後の長期避難の明確化と現場指導等で町内会を積極的に活用する。</p>	<p>近年増加する大雨や台風に伴う水害・土砂災害へ対応するため、平成28年度に避難所運営マニュアル別冊として、大雨時避難・開設編を策定し、様々な災害の避難行動を記載するなどこれまで修正を重ねてまいりました。マニュアル内においては、避難所までの避難経路に危険がある場合、近隣の堅牢な建物の2階以上へ避難することや避難所開設にあたっての町内会等地域団体の役割も記載しており、長期避難については、避難所運営マニュアル活動編にて長期化対策等示しております。</p>	パブコメ
305	<p>温暖化により雨水内外氾濫で大浸水が頻発し、住めなくなる。住宅を拠点的に集約し、高床（駐車場付）の中高層集合住宅・高床の二階以上を多用。</p>	<p>本市においては、近い将来に迎える人口減少社会を見据え、持続可能な都市構造の実現に向け、過度に自家用車に依存しない、環境に優しい鉄道を中心としたまとまりのある機能集約型の都市づくりを進めております。</p> <p>安全・安心な住宅の確保については、土地所有者や事業者など多様な方々と連携しながら進めていくものであることから、いただいたご意見につきましては、今後の検討にあたり参考にさせていただきます。</p>	パブコメ
306	<p>避難所の評価をしっかりとって欲しい。個々の避難所には課題があるはず。小学校・中学校だからではなく、本当に使えるのかチェックを。</p>	<p>「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 3 防災・減災」に記載のとおり、定期的に、地域、学校、行政で避難所運営に関する協議を行っており、今後もそうした取り組みを通じて課題の解決を図ってまいりたいと考えております。</p>	説明会

④人権（10件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
307	<p>今年は特に新型コロナウイルスにより、普段隠れていた問題が表面化していることを実感している。</p> <p>提案の一つとして、家庭内DVについてどういった行為が暴力にあたるかの出前講座等を町内会単位で行って欲しい。ドメスティックバイオレンスは個人の問題ではなく「人権と多様性、地域生活」に関わる問題と捉えることもできる。なぜ、町内会かという、町内会活動は中心執行部役員として活動を担っている多くが、しっかりと社会に関わっている人当たりの良い人格者が選ばれているからである。町内会という組織は、町内の様々な事案を把握しているようなので、「人権と多様性、地域生活」の学びを行う場に適していると考えた。</p>	<p>今般の新型コロナウイルス感染症の影響について、総合計画審議会においても議論いただいております。ご指摘のとおり本質的な問題は変わらないといったご意見も出されており、そのような認識も踏まえながら、今般の基本計画中間案を作成いたしました。現在、コロナを踏まえた具体の取り組みとしては、「仙台市新型コロナウイルス感染症緊急対策プラン」のもと、DV防止・被害者支援や人権配慮に関する啓発を位置づけ、取り組みを進めております。日々の暮らしの中で、様々な情報を持つ町内会の役割は重要だと考えており、基本計画中間案においては、「心の伴走プロジェクト」（P17-18）において、地域住民の顔が見える関係づくりの推進について盛り込んでいるところです。また、DVに関する市政出前講座も、町内会単位でも要望に応じて実施することは可能です。貴重なご意見として、今後の施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。</p>	パブコメ
308	<p>本市において学びや市民協働、交流の場としての公的施設の重要性は増しています。中間には市民サポートセンターや市民センターについては明記されていますが、男女平等のまちを目指す拠点施設である「エル・パーク仙台、エル・ソーラ仙台」の男女共同参画推進センターは明記されていません。本市の重要な施設であるこれら施設を明確化し、さらなる男女平等の推進を図ることが重要である。</p>	<p>男女共同参画推進センターは、男女共同参画推進に資する市民活動の支援や学習機会の提供を行う重要な施設であり、基本計画に位置付けるとともに、市民の皆様の諸活動に広く活用が図られるよう取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>女性の視点といたしましては、「施策一覧 4人権」に、家庭や職場、地域における男女平等意識の醸成や政策等の決定の場における女性の参画の視点を盛り込むほか、「11経済」にはワークライフバランスの視点や女性が能力を發揮できる環境づくりなどについて盛り込んでいるところでございます。</p>	パブコメ
309	<p>男女共同参画推進センター（エル・パーク仙台、エル・ソーラ仙台）の設置意義や果たすべき役割について明記されていないのは良くない考える。</p>		パブコメ
310	<p>男女共同参画推進センターのエル・パーク仙台とエル・ソーラ仙台についての記述がないのはなぜか。両施設は利用率も極めて高く、ソフトも非常に充実しており、仙台市、宮城県さらに東北全体の男女共同参画を牽引してきた。</p> <p>特に災害時にはジェンダー問題が深刻化するので、東日本大震災の時にはいち早く被災女性の救済・支援に取り組み成果を上げた実績もある。その経験を活かし、仙台での国連防災会議における「仙台防災枠組み」策定に両施設も尽力した。</p> <p>これからさらに高齢化が進むので男性への差別の問題が顕在化するようになる。こうした課題にも取り組んでいるエル・パーク仙台とエル・ソーラ仙台は、全ての市民のために重要な施設である。新しい「基本計画」には、ぜひとも同センターのさらなる充実・発展を盛り込んで欲しい。</p>		パブコメ
311	<p>男女共同参画推進センターは、男女共同参画を推進し、男女平等のまちの実現に資するとともに、市民に文化活動の場を提供し、市民の生活文化の向上に寄与することを目的として設置されているものであり、基本計画の推進に資する重要な公的施設であると考えます。</p>		パブコメ
312	<p>男女共同参画推進センターは、男女共同参画を推進し、男女平等のまちの実現に資するとともに、市民に文化活動の場を提供し、市民の生活文化の向上に寄与することを目的として設置されているものであり、基本計画の推進に資する重要な公的施設であると考えます。</p>		パブコメ
313	<p>「4人権」「5地域生活」のところなどで、女性についての記載が全くない。女性に関する課題を学び、討論できるのが一番の良いところ、また、情勢に関する書籍があるエル・ソーラ仙台は静かに学べる場所です。書籍がもっとあればなお良い。エル・パーク仙台では、その時々課題や問題を取り扱い、学ぶ場としても、討論する場としても欠かせない存在である。人口減の将来を見据え女性の課題にしっかり取り組むために欠かせない施設である。計画案に入れて欲しい。女性労働が差別の温床になっていることについては、しっかり討論・検討して未来の仙台市が誰もが安心して生きられるまちになるよう努力すべき。</p>		パブコメ
314	<p>仙台市では市民後見人を養成していることはわかっていると思う。この活動は仙台家庭裁判所より高い評価もある市民協働事業として素晴らしい事例である。成年後見制度という一般用語に加え「仙台市市民後見人」を加筆することを提言する。広く市民に広報するまたとない機会になる。</p>	<p>ご例示のとおり、「市民後見人」は、親族でも専門職でもない一般市民で、研修により成年後見制度に関する知識と技術を身に付け、専門機関の支援を受けながら活動する後見人であり、重要な役割を担っていると認識しております。「施策一覧 4人権」に、成年後見制度を通じた権利擁護について盛り込んでいるところであり、今後とも、制度の有効な利用や後見人として活動する方々の支援などに取り組んでまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
315	<p>女性や子どもの人権に関する啓発活動を。</p>	<p>「心の伴走プロジェクト」や「施策一覧 4人権」のとおり、子どもの権利に関する意識啓発や女性等への人権侵害の根絶に向けた予防啓発などに取り組んでまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
316	<p>施策一覧P51【男女共同参画】P69【女性活躍】については、女性が頑張るのではなく、男性の意識改革が必要。女性は十分に頑張っているのに、「もっと頑張れ!」と書いてある。</p>	<p>ご指摘のとおり、育児参画をはじめ、男性による男女共同参画がより一層重要になると考えており、その視点を踏まえて、取り組みの充実を図ってまいりたいと考えております。</p>	説明会
⑤地域生活（14件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
317	<p>高齢化している町内会の再生を。</p>	<p>地域活動の重要な担い手である町内会をはじめとする地域団体は、地域づくりを進める上で重要な組織だと認識しており、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 5地域生活」に記載のとおり、活動支援や担い手の発掘・育成のほか、地域団体等の提案による協働事業の推進など多面的にサポートを行ってまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
318	<p>町内会再生への人的支援が必要である。</p>		パブコメ
319	<p>町内会などでの地域活動者が増えるよう工夫を（家庭ごみ指定袋の配布など）。</p>	<p>また、ごみの分別に向けた取り組みに関しましては、市政だよりやホームページ等で周知啓発を進めるとともに、令和2年度はワンウェイプラスチックの削減に向けたキャンペーンを行っているところであり、様々な手法で地域においてごみの分別・削減に向けた意識を高める取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
320	<p>集会所等に事務所を設け、主に市役所OB配置、必要に応じ栄養士を増員配置して地域の防災と適正な摂取等を指導強化。町内会の地域サービスの拠点化。</p>		パブコメ
321	<p>町内会との関わりなくして実現できないのでは。</p>		説明会
322	<p>地域活動が低下している中身を分析し対応策を策定して欲しい。区役所の下請業務では困る。</p>		説明会
323	<p>活動を支える人材の問題が大きい。高齢化の中で行政の果たす役割を期待したい。（福祉関連について入り込んでもっときめ細やかに）</p>		説明会

324	中間案では、市民の主体的な活動と連携を前面に押し出すというのが特徴である。市は、それまで行っていた災害公営住宅に居住する要支援者に対する支援員の戸別訪問をやめ、町内会や自治会に委ねた。役員のみ手を見つけておくことさえままならず、脱会者が相次いで解体の危機に直面している自治会・町内会も少なくない中、「協働」の要として過重負担を強いられるのが民生委員・児童委員である。仙台市で活動する民生委員・児童委員の一人当たり担当世帯数はおおよそ300世帯。自ら見守り訪問や住民からの相談対応を行うほか、自治体、社協、学校、自治会・町内会らをつなぐ役割を無給で果たさなくてはならない。これで本当に地域は回るのか。この課題に対応するであろう「心の伴走プロジェクト」や「地域協働プロジェクト」「笑顔咲く子供プロジェクト」の記述を見ると、全く具体性がない。市政運営の「4 施策の一覧」にある対応箇所を見るとやや具体的だが、数値目標や達成時期はない。すべてを実施計画に委ねるつもりのようなのだ。	地域活動の重要な担い手である町内会をはじめとする地域団体は、地域づくりを進める上で重要な組織だと認識しており、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 5地域生活」に記載のとおり、活動支援や担い手の発掘・育成のほか、地域団体等の提案による協働事業の推進など多面的にサポートを行ってまいりたいと考えております。 民生委員児童委員につきましては、声がけや見守り、困りごとの相談などを通じて子どもから高齢者まで幅広く地域の方々が安心して暮らせるよう活動を行っていただいているところでございます。「施策一覧 5地域生活」に盛り込んでいるとおり、民生委員児童委員の支援を行うとともに、今後とも、民生委員児童委員の方々の取り組みの重要性が伝わるよう努めてまいりたいと考えております。 なお、基本計画は今後10年間の方向性を示すものでございますので、その時々々の社会情勢などが変わってくるため、数値目標の設定は非常に難しいと考えております。そのため、具体的な数値目標に関しては概ね3年間の具体の取り組みを示す実施計画において設定し、進行管理してまいります。	パブコメ
325	民生委員等の制度周知や育成を。		パブコメ
326	少子化、高齢化の進行は地域コミュニティの維持を著しく困難にしている。震災復興においても気仙沼市や南三陸町が災害公営住宅に常駐の支援員（LSA）を配置して成果を上げてきたことなどに学び、人間の暮らしと生業についての専門的知識を備え、ファシリテータの能力を持った「コミュニティ支援員」を育て配置する制度を実現する。コミュニティの活性化は、福祉、とりわけ要支援者の見守り支援において決定的である。保健師、民生委員・児童委員、包括支援センター、社会福祉協議会、自治会・町内会がコミュニティの現場で連携できるように、情報共有と相互連携の実現に市はリーダーシップを発揮する。「コミュニティ支援員」制度はその要になりうると考える。	「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 5地域生活」に記載のとおり、課題が多様化・複雑化する中、地域づくりを進める上では、地域の活動を支え、行政をはじめとする各主体をつなぐコーディネーターの存在は重要であると認識しており、具体の施策の検討にあたり、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	パブコメ
327	孤立させない方策の具体化が必要である。特に集いの場となる「集会所」が町内会ごとにあるのか現状を把握の上、町内会ごとに1つの集会所を。	集会所については設置の助成制度がございます。市が維持管理を行う市民センターと、地域において自主的に設置及び運営を行う集会所があり、役割を分担しながら地域の状況に応じた整備を進めており、要望に応じて協議を行ってまいりたいと考えております。	説明会
328	学びや健康づくりのためにも、心の伴走プロジェクトの観点からも集会所をぜひ整備して欲しい。		説明会
329	基本計画の推進は、実行→見直し→実行のチェックと実行が必要であるが、市の補助施策は、当初（1年目）はそれ相当の補助、2年目3年目はおなみだ程度となって、3年間で終了する補助政策が多い。地域への理にかなっているのであれば、終了ではなく継続する補助政策をとるべき。	ご指摘の「まちづくり活動助成事業」につきましては、各地域の皆様との取り組みの自主化を支援するための制度として3年間の区切りを定めております。	説明会
330	外国の東南アジア系だと思うが、自転車朝5時から6時の間に多くの方が仙台駅に入っていくのを見かける。どこか近くの工場に行くと思うが、そういう人たちが小田原あたりから自転車通っている。そういった方々の住環境の仙台市としての関わりや労働条件の実態把握などはどうしているのか。	仙台市には1万4,000人弱の外国人の方が居住しております。こうした方々のために仙台市は国際センターの中に、多文化共生センターを設置し、多言語による生活や就労など様々な相談に対応しているところであり、それらを通じて実情の把握に努めてまいりたいと考えております。	説明会
⑥健康・医療（5件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
331	新型コロナウイルスについての記載は、感染防止対策や新しい生活様式徹底などもっと具体的な方がわかりやすいと思う。	新型コロナウイルス感染症の計画への反映につきましては、総合計画審議会でご議論いただいた上で、計画期間が10年間であるということに鑑み、安全安心の基盤を守ることや幅広い分野にデジタル技術を取り入れるなど社会の変化への対応力を高めることなどについて教訓として記載しております。また、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 6健康・医療」において、新型コロナウイルス感染症のような新興感染症対策としては、医療提供体制の確保、感染拡大防止と市民生活の両立など総合的に対策を進めていくことについて盛り込んでおります。具体の取り組みについては、基本計画とは別にお示しし、取り組んでまいりたいと考えております。	パブコメ
332	新型コロナウイルス感染症への対応等に関する記述について、10ページのほか、「地域づくりの方向性」や「未来をつくる市政運営」などの関係箇所にも盛り込んでほしいか。		パブコメ
333	保健・衛生の分野では、東日本大震災での在宅被災者問題の深刻化や新型コロナ感染症への対応での混乱を反省し、とりわけ保健所機能の再建・再構築を最優先する。保健所や医療機関の整理統合を進める県に迎合せずに、公衆衛生や地域医療をコーディネートする保健所本来の役割を発揮できるようにする。	本市では、広域的な健康危機に対し迅速的確な全市的対応を図るため、平成27年度に保健所を一元化いたしております。各区保健福祉センターにおきましては、保健所支所長または保健医療官として一元化後も医師を配置するとともに、その指揮の下、保健師等の専門職が業務に当たっております。 今般の新型コロナウイルス感染症対策においては、帰国者・接触者相談センターや積極的疫学調査などの保健所が地域で担う業務は、各区において、医師や専門職の専門的な判断に基づき対応を行い、医療体制など関係機関との調整、クラスターが発生した際の検査対象の決定や検査の実施など、全市的な対応が必要な業務は保健所が担当してまいりました。 今後とも現行体制を基本としつつ、状況に応じて柔軟に人員の増強、応援体制の確立など、保健所が役割を果たすことができますよう必要な体制の確保を図ってまいりたいと考えております。	パブコメ
334	現状の対応（ワクチン等）と免疫細胞健全化の食事摂取基準食。食事摂取基準食により、発症が軽減（半減）の可能性を秘めている。	貴重なご意見として、参考にさせていただきます。	パブコメ
335	高砂地域は、震災で被災しながらも復興団地の建設により被災者の方々が入居し、少しずつ落ち着きを取り戻しているが、精神的な支えがまだ必要だと思う。	現在、復興公営住宅入居者等の被災者の方同士や周辺住民との交流の機会づくりを通じて、被災者の孤立防止などにつながる事業を進めてまいりました。「未来をつくる市政運営」の施策一覧に東日本大震災における被災者の方々への支援について盛り込んでおり、今後とも、心のケアを含め被災者の方々の状況に応じた必要な支援策について検討してまいりたいと考えております。	説明会
⑦安全・安心（11件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
336	新しいことも大切だが、現状の確認を10年かけてやってみてはどうかと思う。私道やインフラ（水道・下水・ガス等）の維持をどうするのか。所有者の確認をしないと10年後どうなるか心配になる。	「未来をつくる市政運営」において、「市政運営の基本姿勢」に公共施設のマネジメントの取り組みや「施策一覧 7安全安心」にライフラインの維持について盛り込んでいるとおり、適切な維持管理に努めてまいりたいと考えております。	イベント
337	国分町や立町の町内会のゴミポイ捨て問題は、どう町内会に浄化運動をさせるかが課題である。特に国分町は、道路へのポイ捨て（缶・タバコ・チリ紙）、声がけ勧誘、自転車放置の三悪状態である。町内会は死滅しているのか。	現在、地域の皆様による防犯活動への支援や防犯意識の向上に向けた啓発、自転車の安全利用、ごみ出しの啓発など各般の取り組みを通じて、安全に安心して暮らせる環境づくりに取り組んでおります。その中で、国分町をはじめとする「客引き行為等禁止区域」においては、取り締まりを行うとともに、客引き行為等の禁止に関する広報・啓発を行っているところです。「未来をつくる市政運営」の施策一覧には、地域ぐるみでの防犯活動や客引き行為等の対策、安全に自転車を利用できる環境づくりなどを盛り込んでおり、今後も、地域の皆様と連携を図りながら、安全安心対策を進めてまいります。	パブコメ

338	「取り組み」を「取組」に修正する。	ご意見を参考にしながら、文章表現に留意してまいります。	パブコメ	
339	【自転車利用】の「安全・安心」を「安全安心」に修正する。		パブコメ	
340	主道路の整備も欠かせない。それがまちづくりの原点だと思う。	引き続き骨格幹線道路をはじめとした都市計画道路などの整備を進め、公共交通を中心とした交通体系の充実を図ってまいります。	パブコメ	
341	宮城総合支所周辺で令和7年に完成する大規模な整備計画があるようだが、周辺は狭い道が多く歩道や自転車道もなく、子どもや高齢者にとって危険だと思う。安全安心に利用できる自転車道や歩道の整備計画を示して欲しい。	愛子地区の土地区画整理事業区域内の道路については、施行予定者に対し適切に指導してまいります。また、区域外の道路については、関係機関と連携しながら子どもたちや高齢者の方々をはじめ、市民の皆さまの安全安心な交通環境の確保に努めてまいります。	説明会	
342	子どもや高齢者が自転車で移動しやすいことも、SDG sの視点からも必要だと思う。		説明会	
343	豊かな田園が住宅街と変わることも市の発展には必要かと思うが、吸水の役割を果たしてきた水田が消えた後の排水設備が十分に機能するよう整備して欲しい。	災害の多発や環境問題に対応するため、チャレンジプロジェクトの一つに「防災環境都市プロジェクト」を位置付け、開発事業者をはじめとした関係する方々と連携しながら、自然や生態系の機能を活かしたグリーンインフラの充実を通じた保水・浸透機能の向上に取り組んでまいります。	説明会	
344	河川の管理の統一化、一本化。管理と予算も統一化を。県・市・国に分かれていることは互いに逃げの作業になる。	河川管理については、河川法に基づき、河川の重要度に応じて国や県、市がそれぞれで河川管理者としての役割を担っているところです。本市としましては、国や県と密に連携を図りながら、市民生活の安全・安心の確保に向け、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。	説明会	
345	防災に関して、非常に抽象的な言葉がたくさん散りばめられている。災害対策の中でも強調されていたのは、自助、共助ということで、災害にあったときに、どのように避難し、身を命を守るかっていうことは非常に大事だが、行政に期待することは、そういう災害が起きないために、どのような手だてをするかということ。例えば、堤防の強化、補強、それからもっと長期的には洪水が起きないような方針を示して欲しい。	これまで本市では、東日本大震災の経験と教訓のもと、地震対策に力を入れてまいりましたが、現在は水害への対策についても、全庁的な会議体により検討を進めております。 一方で、下水道や堤防等の整備については計画的に進めておりますが、財政的な問題もあり、一定の時間がかかってまいります。水害が起きてしまった場合には、地域の皆さまに自らの命を守る、近所の方と一緒に協力して地域の被害を防いでいただくという取り組みをお願いするとともに、水害対策に対する、地域防災計画の改定なども行い、各地域の方々とも意見交換をしながら進めてまいります。	説明会	
346	仙台市の住宅街は道幅が狭く電柱も出っ張っているため、裏道として使う車が入ってくると、すれ違うのに時間がかかってますます渋滞して危ない。	市民の日常生活に利用される生活道路につきましては、交通事故に遭いやすい子供や高齢者、障害者をはじめとした市民の方々の安全を確保するため、防護柵の設置や路側帯のカラー化などの必要な交通安全対策に取り組んでいるところであり、引き続き安全確保の取り組みを進めてまいります。	イベント	
⑧教育（10件）				
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法	
347	義務教育での少人数学級の取り組みをお願いしたい。クラスの一人ひとりに目が行き届くことで、教員、児童、親と三者が安心できる学びの場となるように願っている。新型コロナウイルス対策にもなると思われる。	2018年度より35人以下学級を拡充いたしました。余裕を持って教室を利用することは、教育環境の向上とともに、コロナ対策にも寄与するものと考えております。「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 8教育」に記載のとおり、今後とも、教職員の多忙化の解消と併せて、教員が児童生徒一人ひとりと向き合える環境づくり、子どもたちのより良い学びの環境づくりを進めてまいります。	パブコメ	
348	少人数学級を実現する計画をお願いしたい。		パブコメ	
349	教師の数を増やして欲しい。		パブコメ	
350	現在、教師は数多くの報告書作成など、書類作成を求められ、それらに時間を多く割かれ、子どもたちに向き合う時間や教材研究・準備の時間が極端に少なくなっていると聞く。このような教育行政を改め、教師が教材研究や授業の準備、そして何よりも子どもたちに向き合い接する時間を多くとれるような教育行政にして欲しい。		パブコメ	
351	少人数学級の推進を。		説明会	
352	小学校の学級編成について、やはり少人数の学級の方が先生の負担が軽減されるのではないかと。学校の先生が過労死で倒れるような忙しさでは困る。ヨーロッパあたりから比べてみても、日本の教育環境は非常に劣悪な状況があるとされている。		説明会	
353	コロナ禍で三密、ソーシャルディスタンスと言われながら、小学生の子どもたちのクラスは、3年生以上は、まだ40人学級ということで、三密もソーシャルディスタンスもかかっていない。正職員の先生の数を増やして、少人数学級を小学校全部に実現して欲しい。		説明会	
354	教育の関係で、子どもを中心とした施策が書いてあった。仙台市は学校で子どもにとって大変残念なことが起きているのでしっかりと検証し、「安心して学べる場」となるように希望する。具体的なことはこれからだと思うが、現場の教育労働者の意見、状況の把握が大事だと思う。		子どもたちが安心して学べる環境につきましては、「施策一覧 8教育」の中でお示ししております。具体の事業は、学校現場の状況を踏まえ、実施計画や毎年度予算の中でお示ししてまいりたいと考えております。	パブコメ
355	子どもの教育と学力について。本当の意味での教育の学力の部分ということをもっとこの学都仙台と謳っていく中で非常に弱いと思う。東京などから子どもたちが仙台に来たとしても、学力、それだけのレベルの学校がない。		全国学力・学習状況調査においては、本市の児童生徒の学力は概ね全国平均を上回る水準で推移しており、政令指定都市との比較においても上位に位置しています。「施策一覧 8教育」に記載の通り、本市独自の標準学力検査の結果に基づく、教育指導手法や指導体制の充実を通じて、児童生徒の学習意欲の向上や、基礎的知識及び応用力の育成を図ってまいりたいと考えております。	説明会
356	教員は本当に多忙を極めている。せっかく採用された新卒も体調を崩したり、辞めてしまったり、担任を持てなくなったりする。子どものためにも教員の多忙の解消を！また、子どもの心に寄り添うことができる教員の採用を。		「施策一覧 8教育」において、学校が担うべき業務の整理や専門スタッフの配置など、教職員の多忙化解消に向けた取り組みや少人数学級の実施を進めることについて盛り込んでおり、教員が児童生徒一人ひとりと向き合える環境づくりを進めてまいりたいと考えております。	イベント
⑨子育て（5件）				
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法	
357	子どもを守る教育委員会は学校任せに。	交通安全や防犯のほか、いじめの問題など、子どもたちを取り巻く状況に十分留意し、学校、地域、家庭による連携を促進しながら、子どもたちを守り、健やかに育つ環境をつくってまいりたいと考えております。	パブコメ	
358	次の10年を見据えた施策「高齢者施設と待機児童のマッチング」を考えた。 想定課題：高齢者の増加・待機児童の増加 解決：待機児童を高齢者施設に預けることで、高齢者の社会貢献の場を広げ、待機児童を減少させる。	福祉施設や保育所等につきましては、地域の状況やニーズに応じた整備・配置を行っているところでございます。高齢者の方々や子どもたちが触れ合う機会づくりは重要な視点だと考えており、貴重なご意見として、今後の施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。	パブコメ	

359	医療的ケア児や既往症がある子どもたちの、一時預かり先があるといいのではないかと。預け先がなく困っている親への支援をお願いしたい。	保護者が、パート勤務、傷病、冠婚葬祭、その他私的理理由などにより、一時的に子どもの保育ができないときなどは、保育所等において一時預かりの取り組みを行うほか、病気（当面病状の急変が認められない場合）又は病気の回復期にあり、集団保育が困難な子どもで保護者の勤務の都合などのため家族で育児を行うことが困難な子どもを日中預かり、病児病後児保育の取り組みを6つの施設で行っており、引き続き、利用の周知啓発に取り組んでまいります。	パブコメ
360	青葉区宮城地区に小型でもいいので、のびすくのような支援施設の設置を望む。	のびすくは全区に整備をしており、増設の予定はございませんが、子どもの増加が著しい地域においても、きめ細かな子育て支援を行うことができますよう、宮城総合支所保健福祉課を中心に様々な施策を実施してまいりたいと考えております。	パブコメ
361	コミュニティ児童館の配置拡大を要望する。集会も十分にできていない。北六コミュニティ・センターへ。	児童館の改築や増築につきましては、「仙台市公共施設総合マネジメントプラン」に基づき、今ある施設をできるだけ大切に長く使うということが基本的な考えとなります。そのため、現状では、今の児童館本館とサテライト室の組み合わせを前提に、引き続きコミュニティ児童館運営委員会の皆様と意見交換を行い、課題を共有しながら、運営してまいりたいと考えております。なお、今後も、北六番丁小学校の施設整備の計画を学校担当部局と共有するとともに、その他の手法も検討しながら、児童館として望ましい環境整備に取り組んでまいります。	説明会

⑩学び（11件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
362	伊達政宗を中心とする都市空間作りとして、何としても青葉城を建てるべき。墓や後継者など伊達家の今後が心配なこともあり、震災から仙台市を守ってくれた政宗の心を、職員も市民も分かち合いたい。	今回お示ししている計画案では、「新たな杜の都へ」の都市個性において、仙台藩祖伊達政宗公の築き上げてきた歴史を振り返りながら、目指す都市の姿を掲げているところです。仙台城の建設については、様々な課題があると考えており、現存する仙台城跡や整備を進めている青葉山公園をはじめ、様々な歴史資産の活用に取り組んでまいります。	パブコメ
363	仙台市は、戊辰戦争から仙台空襲で城やまちは破壊された。その一つが「若林城跡現宮城刑務所」である。明治初期に西南戦争で敗北した薩摩兵を収監する場所として明治政府が買上げ城跡は嚴重に保存した上で宮城刑務所として今も利用されている。他県の事例では、行政と市民連携の元、昭和37年山形城、昭和42年駿府城が法務省から移管が実現し、現在は公園として市民に利用されている。仙台市でも市民協働事業として若林城跡地の緑地化を目指す「杜と水の都プロジェクト」の一環として取り上げることを提言する。	本市には仙台城址や史跡陸奥国分寺・尼寺跡など様々な歴史資産があり、若林城も重要な歴史の一部であると考えております。これらを生かした歴史に親しむことができる環境づくりを進めることは重要であると考えており、貴重なご意見として、今後の施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。	パブコメ
364	若林城を仙台に取り戻そう。近代歴史教育を小中学生に。		イベント
365	仙台城の大手門は終戦近くまであったのに、再建する意思はないようだ。建築して間もない物件を老朽化と決め付けて解体する無責任な人は誰だったのか。	大手門復元につきましては、財源のほか、市道の通行止めやその代替路の確保といった課題があり、各般の調査などを踏まえ、引き続き検討してまいりたいと考えております。	パブコメ
366	芭蕉の辻を大事にして欲しい。旧県庁は文化財だったのだ。斉藤報恩館をつぶしたのは誰だったのか。青葉城跡は復元すべきなのに現状はどうなっているのか。	仙台城の建設については、様々な課題があると考えており、現存する仙台城跡や整備を進めている青葉山公園をはじめ、様々な歴史資産の活用に取り組んでまいります。	パブコメ
367	スポーツ施設等が不足している中、廃校の利用など考えてはどうか。体育館やグラウンド、教室を合宿所として使うなど検討して欲しい。	廃校につきましては、地域の皆様とともに将来の在り方について意見交換を行いながら、検討を進めてまいります。貴重なご意見として、参考にさせていただきます。	説明会
368	仙台市立学校の校庭や仙台市営の野球場・サッカー場・テニスコート等を天然芝化して欲しい。	学校の校庭やスポーツ施設については、天然芝化も含め、様々なご要望がございますので、財政状況も踏まえながら、それぞれの必要性や優先度等について検討してまいりたいと考えております。	パブコメ
369	公的な文書の保存、適正な管理、市民への閲覧公開など情報提供において、公文書はとても重要なものである。現在、貝森小学校の跡施設として2022年の完成を目指している仙台市公文書館は多くの学者、行政関係者はじめ市民からも求められており、生涯学習の拠点施設としても重要である。基本計画の明記を求める。	公文書館は、歴史的公文書や市史編纂事業で収集した資料を保管し、市民の皆さまが公文書等に触れ、市政の検証に資する重要な施設であり、基本計画に位置付けるとともに、有効に活用が図られるよう取り組んでまいりたいと考えております。	パブコメ
370	仙台市が現在整備を目指している公文書館についても、公文書の適正な管理・保存を通じた行政の効果的な執行に加え、公文書の市民への閲覧公開による生涯学習の推進や市民参画の機会の提供に資することを目的とされており、当該施設もまた、基本計画の推進に資する重要な公的施設であるとする。		パブコメ
371	公文書館の設置意義や果たすべき役割について明記されていないのは良くないと考える。		パブコメ
372	仙台市が現在整備を目指している公文書館についても、公文書の適正な管理・保存を通じた行政の効果的な執行に加え、公文書の市民への閲覧公開による生涯学習の推進や市民参画の機会の提供に資することを目的とされており、当該施設もまた、基本計画の推進に資する重要な公的施設であるとする。		パブコメ

⑪経済（11件）※再掲含め延べ12件

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
373	本計画の前提が市民協働である。「産学官金市民連携」の表記が本計画の目的に叶うものとする。	ご指摘のとおり、本計画は協働を重要な視点であるという前提に立って作成しておりますが、当該部分は、新産業の創出や事業の高度化に関する項目で、特に産学官金の連携が重要な取り組みと位置付け、本表記といたしております。	パブコメ
374	地域経済の分野では、地域の中小企業とそのサポーターインダストリーの連携を橋渡しし、地域内再投資と地域内経済循環の仕組みを作る。小規模小売業と伝統的な地域商店街を維持し守ることは、地域経済だけでなく、地域コミュニティと暮らしを支える上でも大切であり、公共性がある。大店法制定時の理念に立ち戻り、日用消費財販売における小規模小売業の役割を重視する。	本市経済の中核を担う中小企業への支援につきましては、「施策一覧 11経済」の中に、域内資金循環の視点による取り組みなど盛り込んでおり、企業間連携の促進やビジネスマッチングの場づくりなどに取り組んでまいりたいと考えております。 地域に密着した商店会は、買い物場としてのみならず、地域活動の担い手としても重要な役割を果たしているものと認識しております。現在、イベントの開催支援など商店街活動の活性化に向けた助成などを行っているところであり、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 11経済」に記載のとおり、引き続き地域づくりの担い手であるという視点も踏まえ、商店街支援を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ

375	各まちの中の安心した生活の維持と安全な環境づくりについては、各地域において個人商店を含めた専門店が減少している。このことは、高齢化や子どもの育成に大きな力を発揮している地域力の低下につながっている、大型チェーンストアがあれば間に合うと考えるのは短絡的で、彼らは経済の理論で退店を決めている。商店の後継者難も課題だが、国の方針の「引き継ぎ」事業では現実のカバーができず衰退してしまう。地域力維持のためにも、また、就業人口の維持のためにも支援が必要である。	地域に密着した商店街は、買い物場としてのみならず、地域活動の担い手としても重要な役割を果たしているものと認識しております。現在、イベントの開催支援など商店街活動の活性化に向けた助成などを行っているところであり、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 11経済」に記載のとおり、引き続き地域づくりの担い手であるという視点も踏まえ、商店街支援を進めてまいりたいと考えております。	説明会
376	卸町にある市場も含めたイベント広場を整備して欲しい。	中央卸売市場におきまして、イベント広場の整備は検討しておりませんが、今後とも、市民の皆さまに安全安心な生鮮食品等の安定供給を図るとともに、必要な施設・設備の更新についても検討してまいりたいと考えております。	説明会
377	学都仙台として、奨学金について今後どうしていくのか。	奨学金返還事業については、仙台市の産業を担う人材を確保し、その人材の本市への定着に向け有効であると考えております。今後も利用実績や地元企業の人材確保の状況、経済団体や大学の就職支援担当者等からご意見などいただき、効果検証を行った上で、今後の制度の枠組みについて検討してまいりたいと考えております。	説明会
378	農村の多面的活用を図る。市民の生きがいづくりのため、市民農園等の農村に滞在する形での利活用がもっと必要だと思う。農村をアート等のクリエイティブな活動の場所として活用されるような仕組みづくり農村の身近な観光資源を発掘し発信して、農村振興を図る。	農村の多面的な活用につきましては、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 11経済」に、農業・農村の魅力を活かした交流活動の促進を盛り込んでおり、具体の施策の検討にあたり、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	パブコメ
379	30年もの間の農業の方針は確実に前例踏襲の言葉の列挙で、いざ地域の産物を生かして、観光につなげようとしてもお米以外ない。第6次化を進めようとしても、加工場一つない、JAに協力特段の協力をお願いしているが、広場の借地料をとられるだけで1件の農家をも紹介していただけない状況である。仙台白菜、仙台長なす、仙台曲がりネギの次に目指す物は、泉ヶ岳の水神様「清流」で作られた水神米のブランドの確立とその水で熟成された世界一のお酒である。	「TOHOKU未来プロジェクト」や「施策一覧 11経済」には、農業の活性化や地場の食に関するビジネスへの取り組みについて盛り込んでおり、6次産業化等の推進による生産性・収益性向上に向けた支援を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
380	生活している周りから貴重な緑が失われていくことにとっても残念な思いをしている。市街地やその周りがある農地は、食料を生産するだけでなく、緑の環境を守る、市民の心に安らぎを与える、災害を緩和するなど、市民にとって貴重な役割を果たしていると思う。農業を継続して市街地や市街地周辺の農地が存続できる計画にして欲しい。 提案1.周辺環境と調和しないという条件をなくして、土地利用の転換は抑制する。 提案2.農地の固定資産税の税額を低くするよう国に働きかける。 提案3.農地を保全する重要性を評価し、市としても何らかの補助をする。 提案4.農業後継者育成の策を講じる。	提案1：土地利用については、土地の所有者など多様な方々が係わり合いながら形成されていくものであることから、環境影響評価制度や杜の都の風土を守る土地利用調整条例の適正な運用、農業振興地域制度など、様々なツールを活用しながら、里山や田園環境の保全を最優先とした土地利用の誘導に努めてまいります。 提案2：ご意見は国の所管事項であり、基本計画に盛り込む内容ではございませんが、参考にさせていただきます。 提案3及び4：農業振興地域の整備に関する法律に基づき農地の保全を図るとともに、農村環境の保全に取り組む地域団体への補助や、農業用施設の長寿命化や有害鳥獣対策も含めた生産環境の整備に取り組んでいます。また、農業の担い手の育成として、地域農業の中心的な役割を担う集落営農組織の法人化や、青年や女性農業者など多様な担い手の支援に取り組んでおり、「未来をつくる市政運営」の「施策一覧 11経済」に記載のとおり、引き続きそれらの視点の取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
381	農業を継続できるよう、後継者育成の策を講じて欲しい。また、市街地や市街地周辺も農地が存続できる計画にしてもらいたい。	農地の大規模化による効率化や、後継者問題などについても、認定農業者の方に担ってもらえるような取り組みを進めており、引き続き本市においても農業をしっかり守っていけるように検討を進めてまいりたいと考えております。	説明会
382	69ページの「(4)農林業を振興する」の【担い手】の記述について、次のように修正してはいかがか。「…とともに、青年や女性農業者などの多様な担い手の定着…」→「…とともに、青年農業者の定着や女性の経営・社会参画など多様な担い手の確保…」理由：原案だと、担い手として、青年や女性などの参画がないような受け止め方になってしまう可能性があるため。	現状では、若手の農業者や女性農業者など次の世代の担い手が育っていないことから、それらの方々が農業後継者として農業に定着していただくことがまずは重要であると認識しており、原案のような表現といたしました。	パブコメ
383	秋保地区の有害鳥獣対策は急務を要するものである。	「未来をつくる市政運営」の施策一覧の中に、農作物の有害鳥獣対策について盛り込んでおり、地元の皆様にもご協力いただき、被害の状況・実態を正確に把握した上で、鳥獣を田畑や住居などに近寄らせない「被害防除」と、鳥獣を直接取り除く「捕獲」の2つの取り組みを効果的に組み合わせながら、対策を進めてまいりたいと考えております。	説明会
再掲 (269)	過去の農業に対する基本政策に鑑みても、農業の衰退は激しく、このままでは再生不可能の状態になるのは目に見えている。市政独自で農業の発展のプログラムの始動を始めなければならないと思う。もうマネジメントしなければ里山の農業は10年で崩壊し、農地はソーラー畑だらけとなる。農家の人々は農業をあきらめソーラーに頼るしか生活の手段がなくなっている。ソフトの活用しかない。	「TOHOKU未来プロジェクト」や「施策一覧 11経済」においては、農業の活性化や地場の食に関するビジネスへの取り組みについて盛り込んでおり、6次産業化等の推進による生産性・収益性向上に向けた支援や、担い手不足への対応のため、認定農業者の育成や事業承継に向けた取り組みなどを進めてまいりたいと考えております。 また、土地利用については、土地の所有者など多様な方々が係わり合いながら形成されていくものであることから、環境影響評価制度や杜の都の風土を守る土地利用調整条例の適正な運用、農業振興地域制度など、様々なツールを活用しながら、里山や田園環境の保全を最優先とした土地利用の誘導に努めてまいります。	パブコメ
⑫観光（2件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
384	貞山運河や海辺を観光資源として十二分に活用して欲しい。	観光資源としての貞山運河や海辺の活用につきましては、「杜と水の都プロジェクト」に掲げる海辺の資源であり、また、「施策一覧 12観光」においては、沿岸部などの豊かな自然などを活かした観光振興を図ることについて盛り込んでおり、具体の施策の検討にあたり、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	パブコメ
385	交通渋滞の緩和とサイクリングによる観光を推進するため、自転車専用道路を整備して安心して移動できるようにして欲しい。	自転車通行空間（自転車道や自転車専用通行帯など）の整備については、交通安全確保の観点のほか、サイクリングによる観光推進の支援策としても重要と考えております。道路幅員や交通量などを考慮しながら、地域や警察、関係担当部局が協力し、整備を進めてまいります。	説明会

⑬都市機能（9件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
386	泉区の団地内高齢者の買い物難民化をどうするのかとても心配している。新交通システムの導入を速めて中心地へのアクセスを良くするか、ショッピングセンターの誘致を進めるのか、他の方法もあるかと思うが、迅速な対応に期待している。	買い物困難者対策を含め、公共交通が行き届かない地域などにおける移動手段の確保については、課題認識を持っており、現在も住民の方々と地域交通について検討する具体的な取り組みも進めているところです。計画においては、チャレンジプロジェクトの「地域協働プロジェクト」にも位置付けるほか、「施策一覧 13都市機能」にも盛り込んでおります。今後、新技術等を活用した新たな交通サービスの導入などを含め、移動手段の多様化に向けた取り組みを充実させてまいりたいと考えております。	パブコメ
387	「仙台に関わる全ての方々とともに」とあるが、青葉区の他区からの流入が多いことや外国人も多い強みを掛け合わせ、地下鉄南北線の黒川郡大和町（吉岡）までの延伸を検討して欲しい。	現在、地下鉄南北線の延伸は検討しておりませんが、青葉区は他区と比較して外国人住民の人口が多いため、その視点を踏まえながら、地域づくりを進めてまいります。	説明会
388	都市計画街路から抹消された旭ヶ丘駅前から台原、花京院を通り仙台駅前に至る「旭ヶ丘仙台駅前線」の復活を検討して欲しい。	本市では、人口減少時代の到来や少子高齢化社会に対応し、まとまりのある市街地形成をより進める必要があることや、長期にわたる建築制限などの課題に対応するため、これまでの市街地拡大を前提とした都市計画道路網の見直しを行ったところがございます。都市計画道路仙台駅旭ヶ丘線につきましては、並行する都市計画道路元寺小路七北田線や花京院通南光台線により、将来の交通需要に対応が可能であることから廃止しておりますので、ご理解願います。	説明会
389	地下鉄の車両を更新する際に、6両化と併せて行った方が費用が抑えられるのではないかと。	地下鉄南北線の車両は令和9年で車齢40年となり更新時期を迎えます。更新にあたり6両化についても検討を行いました。ホーム柵改修等の様々な設備に多額の費用がかかることから、現在の乗車状況等を踏まえ更新車両は4両1編成としております。なお、東西線は平成27年に開業しており当面は車両の更新を予定しておりませんが、更新の際には、安全性や快適性、環境性を考慮しながら検討を進めてまいりたいと考えております。	説明会
390	新しいパークタウンの街区を中心に、泉区北部に市営バスを進出して欲しい。	市バスを含む路線バス事業者の経営環境は厳しい状況にありますことから、地域における交通手段の確保につきましては、地域の皆様をはじめ多様な主体とともに検討してまいりたいと考えております。	説明会
391	市営バスと宮城交通バスが協力して、バス路線を維持して欲しい。	市バスを含む路線バス事業者の経営環境は厳しい状況にあり、運行本数の増加や維持が難しい地域がございます。現在、地域の方が主体となった移動手段の確保に取り組む団体に技術的・財政的な支援を行う取り組みを進めており、そうした取り組みは、「地域協働プロジェクト」にも盛り込んでおります。路線バスと地域交通などを組み合わせた新たな交通ネットワークを構築することが重要であると考えており、地域の実情に応じた公共交通のあり方を検討してまいります。	説明会
392	バスは1日5～6便程度、バスの待ち時間を過ごす施設（店やレストラン）が必要。平日の午前中は駐車場が満車で入れないことが多いため、地下鉄東西線の利用が難しいのが現状である。	バス待ち環境については、上屋やベンチなどの整備による快適性の向上に取り組んでまいります。また、中心部に過度に自動車が流入することを防ぐ取り組みとしまして、パークアンドライドの推進や、公共交通の運行情報周知など、利用を促す取り組みを進めてきたところであり、引き続き公共交通を中心とした交通体系の充実に向けて取り組んでまいります。	説明会
393	長町や泉中央とともに、「西の愛子・東の荒井」ではなかったのか。ベッドタウンとして住宅地だけではもったいない。商業・オフィスの大規模な誘致を。	泉中央地区と長町地区は商業・業務・医療・文化施設など多様な都市機能が集積するとともに、利便性の高い交通環境が整備されており、仙台都市圏北部と南部の広域拠点として位置付けております。荒井地区や愛子地区は、東部・西部地域などでも特色ある地域であると認識しており、引き続き、地域特性に応じた都市機能の集積などを図ってまいりたいと考えております。	説明会
394	「杜の都」の付加価値向上のため、仙台駅前以外の市内の景観を保全するべく欧米のような統一された民家が並ぶ住宅街を創ってはどうか。地域・観光価値向上に貢献できるはず。そこでは民家が勝手に新築・解体・改装できず、家屋は中古でも資産価値が高く100年でも修繕を重ねながら住めるような建築で、賃貸でも住めて色々な人が移り住んでいければ、居住世代の流動化にも寄与するはずである。	きめ細やかなまちづくりのルールなどにより、地域特性に応じた街並みの形成や良好な住環境を推進することで、魅力的な景観形成を図るとともに、良好な住宅ストックが循環し次世代にわたり長く住み続けられる環境づくりを図っていききたいと考えております。統一された住宅街を形成するためには、住民による合意形成のもと、地域主体のまちづくりの取り組みが必要不可欠となります。今後も地域住民の方々と共に地域の実情に応じたまちづくりを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
⑬計画の推進（34件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
395	中間案だけでは「進めます」「つくります」「図ります」となっており、何を意図してつくるか具体的にわからないとパブリックコメントが困難。10年スパンの実施計画（案）は示せないのか。3年程度の実施計画にしても、あと半年後にスタートするのにその案は同時に示せなかったのか。実施計画の策定（内容）に関心を持っている。	基本計画は計画期間を10年間と定めており、変化の大きい社会環境を見据えて、まちづくりの拠り所として、多くの方が施策の推進にかかわることができる計画を目指し、基本的な方向性を示すことを重視した計画としております。 具体的な事業につきましては、8つのチャレンジプロジェクトの数値目標（KPI）やスケジュール、事業を推移する担当部局を含め、概ね3年ごとに定める実施計画において示してまいります。実施計画の策定にあたりましては、基本計画の策定プロセスにおける市民の方々のご意見なども参考にいたします。なお、実施計画の策定時期は、令和3年第1回定例会に提案する令和3年度の予算編成にも関連するため、令和2年度末の策定を予定しております。策定後は、ホームページ等を通じて幅広く公表いたします。	パブコメ
396	なぜ、基本計画と言いながら、数値目標や手段、達成時期を示さないのか。75ページの「計画の推進」を見て初めてわかった。すべては実施計画に委ねるというのが中間案の構造である。しかしその時、私たち市民は十分な検討と議論の機会が与えられるだろうか。「すでに基本計画は承認されている。」「実施計画は、オーソライズされた基本計画の具体化だ。」それが壁にならないか大いなる懸念材料である。		パブコメ
397	8つのチャレンジプロジェクトの優先順位と具体化へのスケジュールを明記して欲しい。10年間の長期目標と具体化した3年間の実施計画を細目テーマでスケジュール化したものを望む。		説明会
398	テーマごとの推進する部局・担当課を明記して欲しい。		説明会
399	具体的にいつからいつまでに何をするのか。その結果や方法が明確にわからないので、具体的に何をどうするのか説明して欲しい。		説明会
400	もう少し具体的な中間案を示して欲しかった。		説明会
401	もっと具体化して欲しかった。		説明会
402	中間案の内容は具体的でなく乏しいと感じた。		説明会
403	幅広い分野を網羅していると思う。基本計画は一般的な概要を示すものなので、特に意見はない。実施計画が楽しみである。		説明会
404	仙台市の魅力を伝えて人口を呼び込むとすると、何らかの目標（KPI）は必要だと思う。実施計画のレベルでも構わないので示して欲しい。		説明会

405	<p>チャレンジプロジェクトの具体的なスケジュールについて。今回のチャレンジプロジェクトは非常にメニューとしては総花的であるが、どこから優先的にどのようにやっていくか。</p> <p>総合計画は10年、実施計画を3年程度というこどだが、実施計画でマイルストーンを意識し、チャレンジのことをスケジュールに落として、これどうやって市民に提示できるのか教えて欲しい。</p>		説明会
406	<p>チャレンジプロジェクトを実施するには、これまでのまちづくり縦割りの組織ではなく、横串的に行う、プロジェクトリーダーが必要ではないか。中堅の活動力のある人をプロジェクトリーダーとして組織の中に据えて、答申をまとめて欲しい。</p> <p>また、計画の中に責任部局、推進部局のような局や課を明示し、行政側の責任体制を明確にし、市民も一緒に参加して頑張っていくために我々も頑張りますというような表記をして欲しい。</p>		説明会
407	あと6ヶ月で、基本計画スタートするというのに、実施計画がまだできてないのか、皆からの質問を受けるという、時期的な問題ではちょっと遅すぎるのではないか。		説明会
408	基本計画の中で、数値目標というのはすでに設定されているのか。		説明会
409	総合計画のような「計画もの」は、ややもすると「言葉遊び」になりがちなので、より具体性の強い内容にして欲しい。		説明会
410	地元の若い人が参加可能な市政計画のワークショップを開催して欲しい。	<p>計画の策定にあたりましては、まず、大学教授や関係団体の代表者、実際に事業活動を行っている方、市議会議員で構成する総合計画審議会を立ち上げ、検討を進めてまいりました。その過程におきましては、区ごとのワークショップをはじめ、中高生を対象とした「せんだい中高生会議」など、幅広い年代を対象に様々な市民参画イベント等を実施し、ご意見を踏まえながら検討を進めてきたところでございます。</p> <p>中間案説明会でいただいたご意見やアンケートにつきましては、パブリックコメントと併せて取りまとめた上で、令和2年11月12日の第10回総合計画審議会に報告し、議論の参考にしていただきました。</p> <p>「計画の推進」に掲げた通り、計画策定過程のみならず、策定後においても基本計画の共有や進捗状況の情報発信を進めるとともに、目標の実現に向けた取り組みについて市民の皆様からご意見をいただく機会を設けながら、市民の皆さまとともに市政を推進してまいります。</p>	パブコメ
411	地域の「なるほど」と思う具体的な事例に基づいた計画策定をぜひお願いしたい。		説明会
412	市民からの意見を聞いて具体的な計画を立てることにもっと徹底して欲しい。		説明会
413	会場の皆様方からの貴重な発言を実施計画・実現に向けて生かして欲しい。		説明会
414	我々住民は今回の計画案にどんな参加ができるのか。		説明会
415	郡市長は市民協働プラットフォームを立ち上げて、地域ごとの課題を次期計画に反映させるという、公約を出されている。これから実施計画を策定するにあたっては、地域での様々な組織を集めたプラットフォームにより、ボトムアップでつくっていただきたい。		説明会
416	市民協働プラットフォームの代替として、例えば秋保地域であれば、教育、農業、観光、など5つぐらいの分科会を持って実施計画のところまで、みんなで議論してボトムアップしていくと、まち力がついてくるのではないか。		説明会
417	基本計画作成に当たりトップダウンでなく、市長の選挙公約通り「町内会・等による市民参画による協働プラットフォーム」を立ち上げ、地域の課題をボトムアップで基本計画に反映させるようにして欲しい。		パブコメ
418	コロナで世の中が大きく変わっている今、スピーディーに対応するには具体策が必要だし、実行、検証を繰り返すことで新しいものが見えてくると思う。デジタル庁を仙台に誘致して、新たな文化や事業を創る、というような過去からの延長線上路線以外にも目を向けたい。		パブコメ
419	ステージに応じた領域ごとの反省が極めて大切で、それなくして次への展開が期待できない。「Plan-Do-See（見直し検証）」の「See」の部分がしっかり実施されるよう願っている。		説明会
420	8つのチャレンジプロジェクトについては、定量を含めた目標値・KPIを設定し、モニタリングしてHPで公表して欲しい。	説明会	
421	未来の計画は大切だが、過去経験（計画案）を振り返るのも必要である。PDCAサイクルを回りながら、小さな一歩でも進んでいければと思う。	イベント	
422	優先順位を決めしっかりと取り組んで欲しい（課題→対応策）。	説明会	
423	「新しい生活スタイル（変化していくスタイル）」に対応すべく、変化に対応させながらバランスのとれたフレキシブルな計画をお願いしたい。	説明会	
424	地域に関連した開発の計画や整備の計画は、こまめに情報提供願いたい。	説明会	
425	障害者への合理的配慮を入れたイベントを設けていけば、障害の有無にかかわらず参加できる。	説明会	
426	地域の声を聴いてくれる場がない。計画実施後、途中経過や振り返り、見直しも必要なきも出てくるのではないか。定期的な市民の声も反映する場を設けて欲しい。	説明会	
427	<p>本文で使用している言葉が難しい。用語解説があるが、それでも非常に難しい。日本は中学校までは義務教育のため、義務教育を終えた人たちが理解できるような文章でなければならないと考える。</p> <p>福岡の総合計画は子ども向けに冊子が出ている。このように小学生などの子どもにもわかるような、冊子を作るべきではないか。それをベースに中間案や本文を考えていくべきではないかと思う。他市町村を参考にし、良さを組み入れながら、仙台らしいものをつくって欲しい。</p>	他都市の状況については、参考にしながら取り組みを進めております。わかりやすい発信についてもなお努めてまいります。	説明会

428	<p>実際事業の進捗状況等、市議会への報告、市民の皆さまにわかりやすい形で、と書いてあるが、学生には全く伝わっていない。学生が見てる媒体であるツイッター、インスタグラム、TikTokなどの媒体を活用して仙台市が地域の魅力をもっと広めてくれれば、大学生も生き生きとして地域づくりに参画していけるのでは。</p>	<p>今回のこの基本計画の策定に向けた市民参加のイベントなどにつきましても、若い方々にぜひ参加いただきたいということで、SNSなどを使って広報に努めたところがございます。今後もそういった学生など若い方に活用される媒体は重要な広報手段であるとの考えのもと、広報に努めてまいります。</p>	説明会
7区ごとの地域づくりの方向性（88件）※再掲含め延べ90件			
(1)青葉区（23件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
429	<p>宮城地区における大きな地域の特性として、町内会活動をはじめとする地域団体の活動が非常に盛んである。そのようなことから、現に活動している団体の独自性等を確保しつつ、地域づくり・地域コミュニティづくりの重要なパートナーと位置付け、地域も地域団体も両輪で発展させていく、という趣旨の言及をいただきたい。</p>	<p>地域の特性を踏まえたまちづくりは、行政のみならず、町内会をはじめとするさまざまな地域活動団体との協働が非常に重要であり、併せてその協働を担う団体の発展も大切な事柄であると認識しております。その上で、計画で言及している宮城地区全体としての魅力向上に向けて、地域、そして地域団体と協働しながら取り組んでまいります。</p>	パブコメ
430	<p>愛子周辺地域は子育て世代がクローズアップされているが、10年後のことを鑑みれば、相応に世代の高齢化が進むものと考えられることから、高齢者に関し、保健福祉面からの言及をいただきたい。</p>	<p>愛子地域におけるここ近年の児童・生徒数の増加について、その対応等を図る必要性から、計画においては、特に子育て世代に言及した表現になっております。しかし、高齢者だけではなく、すべての世代の皆さまが安心して、安全な暮らしを継続していくことが最も重要であると考えており、今後も全世代に向けた良好な地域コミュニティ形成に取り組んでまいります。</p>	パブコメ
431	<p>分区が約束されている広大な宮城地区を、丘陵住宅地域、愛子周辺地域、西部山岳丘陵地域の3地域の括りで行政施策を論ずることは無理がある。西部山岳丘陵地域をことさらに強調して、最も高齢化が進んでいる地域としているが、P79に記載の図のとおり、広大な面積を一括りにしているので一概に最も高齢化が進んでいるとは言えないと思う。この地域を、従来の岩盤規制の下、厳格な宅地規制を行っているため、相当数の子育て世代が愛子周辺地域へ地域内移動している事実がある。愛子周辺地域の子育て世代が多いのは、宮城地区外からの移動・流入ばかりでないことを指摘する。</p>	<p>分区につきまして、合併以降、宮城総合支所の機能強化に継続的に取り組み、概ね区役所と同じ手続きを実施できる体制を整備してまいりました。本市の人口も減少局面を迎えることが見込まれることから、現時点においても分区の検討を行う段階にはないと考えております。令和2年実施の国勢調査をもとにした人口の将来推計を行いながら、支所のさらなる機能強化を検討するなど、今後とも、地域のニーズに応じた役割を果たしてまいります。</p>	パブコメ
432	<p>分区の早期実現をするよう市の前向きな対応を要望する。</p>		パブコメ
433	<p>P78に記載の青葉区の位置図によれば、本来ならば中央区と称されるべき青葉区が、山形県境にまで及んでいる。奇異奇観で、他の政令都市では考えられないことである。この図の西部に位置し、86%の面積を占める宮城地区は、愛子盆地中心にまとまった地域であり、まちの成り立ちや歴史、地理地形から三角定義やペンで線を引く必要もなく、分区に最も相応しい地域である。</p> <p>P79に記載の青葉区の地域図は、広大な青葉区を表現するにはあまりにも大雑把である。特に、宮城地区は、街の成り立ちや鉄道、道路、河川等を無視した3地域区分になっている。これは、上から目線、行政効率目線の地域図としか思えない。すなわち、人口の多い地域を中心に施策を施し、広大な西部山岳丘陵地域は、従来の岩盤区制の下、何も施策しないことを図で示しているようなものである。</p>		パブコメ
434	<p>平成8年、合併協定書で約束された分区条件である「地区人口5万人」を超え、市は行政区画審議会へ諮問、「一つの区の人口が30万人を超えたら、区のあり方を再検討すべき」との答申を得て、分区問題を先延ばしした。平成24年、青葉区の人口が30万人を超えたにもかかわらず、平成26年、当時の奥山市長は記者会見において「青葉区の人口増が、東日本大震災の影響により一時的なものかを見定める必要がある」とし、またもや分区問題を先延ばしにした。大震災から今日までの10年間、青葉区の人口は堅実に伸びている。</p>		パブコメ
435	<p>人口集積地域だけを施策の対象にしているのではないかという疑問がある。分区問題という住民自治とは、分区により配分された議員定数により、地区代表者である議員を選出して、行政区長と相まって知育全体の振興に当たることだと思う。住民側から見れば、縁があってその地域・地区に住むことになった人達がいる。旧住民もルーツを辿れば皆「新住民」のはずである。そして、地域・地区の代表者である自前の議員を選出し住民自治を全うすることにあると思う。市の人口集積地や新住民重視の行政スタンスは間違っていると思う。地域のごく一部の有力者の声を振り所に、分区問題の決着を図ることなどはあってはならないと考える。</p>		パブコメ
436	<p>区制については、現況に合った区名にすべきで、分区する場合は「中央区」とするのはどうか。</p>		説明会
437	<p>分区について。宮城地区は、歴史的なことがあって、この辺に触れてないのが気になっていた。</p>		説明会
438	<p>愛子周辺地域と西部山岳丘陵地域は、他の地域と政策課題が大きく異なっており面積も広いので、分区を考えるべきで、課題として計画にも明記すべき。太白区の秋保地区も同様の課題があるのでは。</p>	<p>合併以降、宮城総合支所の機能強化に継続的に取り組み、概ね区役所と同じ手続きを実施できる体制を整備してまいりました。本市の人口も減少局面を迎えることが見込まれることから、現時点においても分区の検討を行う段階にはないと考えております。今後とも、地域のニーズに応じた役割を果たしてまいります。</p> <p>秋保地域につきましては、高齢化の進展や有害鳥獣被害、豊かな自然などの地域資源を含め、現状を踏まえた地域づくりの方向性を示しております。</p>	説明会
439	<p>30年前の合併時の計画の進行はどこまで行われているのか、改めて説明して欲しい。特に、宮城地区の区制についてどのように考えているのか知りたい。</p>	<p>合併以降、特に平成の半ばにおいて分区の議論があり、その場においては、人口や行政機能の問題から分区を当面行わないという整理をしておりました。この間、宮城総合支所の機能強化に継続的に取り組み、概ね区役所と同じ手続きを実施できる体制を整備してきたところです。また、本市の人口も減少局面を迎えることが見込まれることから、現時点においても分区の検討を行う段階にはないと考えております。今後とも、地域のニーズに応じた役割を果たしてまいります。</p>	説明会
440	<p>現在計画されている土地区画整理事業地区には、分区を念頭に置き、以下の施設用地を確保するよう要望する。</p> <p>①広大な宮城地区の治安、安全、安心を守る警察用地 ②現在は太白区の新仙台郵便局の傘下になる愛子郵便局の移転用地 ③コロナ禍等の有事には都心病院と連携できる基幹病院用地（現在、県が提唱している3病院統合構想は、がん系の統合のようだが、都心からの距離・時間等を勘案し最適の位置にあり、誘致すべき）</p>	<p>（仮称）愛子土地区画整理事業については、事業者により現在環境影響評価の手続きが進められているところであり、今後施行予定者により計画の具体化が図られていくものと考えております。</p>	パブコメ

441	<p>県開発公社が松原工業団を造成するに際し、最後の宮城町長が同団地内に駅用地を確保したが、仙台市との合併時期にあたりうやむやになった経緯がある。合併後、倉内地区住民を中心に、何度か設置運動が起こったが、当時はまだ請願駅制度があり、設置費捻出等ができず計画が中止となった。</p> <p>市はやっと重い腰を上げて、平成24年から「仙山線鉄道整備促進同盟会」を通してJR東日本へ設置要望を出していることでもあり、また、宮城広瀬総合運動場の利用者が年間15万人に上ること（コロナ禍以前の数字）、二岩地区住民人口が急増していること等を勘案して、早期実現を要望する。</p>	<p>（仮称）松原駅の設置については、鉄道事業者に対し、沿線自治体で構成する「仙山線鉄道整備促進同盟会」などを通じ、働きかけを行っております。鉄道事業者からは採算性の確保が難しい旨意見をいただいているところですが、今後も公共交通の利便性の向上に向け努めてまいります。</p>	パブコメ
442	<p>現在、愛子駅発着の電車を白沢駅発着とすることで、市の標榜する30分通勤圏のオムニバス計画とも整合性が図られ、また、鉄道沿線のまちづくりの推進の理念に敵うものであり、その延長上に熊ヶ根駅、作並駅周辺の活性化の途が開かれる。</p>	<p>本市においては、近い将来に迎える人口減少社会を見据え、持続可能な都市構造の実現に向け、過度に自家用車に依存しない、環境に優しい鉄道を中心としたまとまりのある機能集約型の都市づくりを進めております。市街化区域の拡大については、先の考えを念頭に、今後の地域の情勢変化などを見極めながら、地域住民をはじめとした関係者の方々とともに検討してまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
443	<p>白沢駅の北側に再開発事業を起こし、駅前広場を整備しバスターミナルを設け、バスターミナルからはフィーダーバスを発着させ、各地域住民の利便に供するほか、貸し切りバスの運行拠点として、定義・作並・太白区秋保などの観光資源の活性化を図るとともに、山形県天童・山寺・上山・東根等を巡る観光ルートを開発し、広域観光の推進を図る。また、同地区内にスーパーマーケットやホームセンター、薬局店等を誘致し、南部地域・西部地域・北部地域の生活必需品の供給拠点を形成する。</p>		パブコメ
444	<p>白沢駅南側に土地区画整理事業を起こし、アメニティに配慮した広い区画の良質な宅地を供給するとともに、白沢駅と直結するパークアイランドを目的とした無料の駐車場を整備し、国道48号線の渋滞緩和を図る。</p>		パブコメ
445	<p>白沢駅の北部地域から開発整備地域に直結するアクセス道路を新設する。</p>		パブコメ
446	<p>住宅規制区域の見直しについて。上愛子以西の白沢駅前まで規制解除になれば、国道48号線と仙山線との間の活性化が見込まれるが、やっもらえるのか。</p> <p>また、中間案73ページの鉄道沿線のまちづくりを推進するという項目に関連し、白沢駅と直結するパークアンドライドの無料駐車場の整備、国道48号線の渋滞緩和、北部地域から開発整備地域に直結するアクセス鉄道の新設など、交通インフラを整備するにより、西部地域等の高齢化、過疎化を緩和し、活性化を検討できないか。</p>		説明会
447	<p>地域温暖化により、台風による大雨や洪水が増している。地域の避難経路は主に国道457号線であるが、冠水が4カ所程あり避難経路にならない。今回の基本計画の第一は、防災計画と避難所の整備、経路の確保ではないか。宮城地区（西部）の現状を考察し、安全・安全のまちづくりをして欲しい。</p>	<p>冠水対策については、段階的、暫定的な対策を含め、浸水地域ごとの特性に応じた効果的な手法を検討してまいります。</p>	パブコメ
448	<p>宮城地区の持つ課題と将来のあり方については、具体性が見られない。</p>	<p>宮城地区につきましては、性格の異なる区域を包含していることから、「区ごとの地域づくりの方向性」の青葉区の節におきまして、それぞれの地区ごとに、課題と今後のまちづくりの方向性についてお示ししております。今後、本計画に基づき、それぞれの地区の状況に合わせたまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。</p>	説明会
449	<p>区ごとの地域づくりの方向性の防犯力を高める活動について。中間案83ページには、各種組織、団体の連携と書いてあるが、高齢化が進んで子どもたちの登校時の見守り活動のボランティアに参加する人が少ない。登校時間にできれば公務員がその時間だけは参加できるような、市としての援助などを検討して欲しい。</p>	<p>中間案29ページの地域づくりの方向（2）支えあい、心豊かに暮らせる地域をつくるという中において、防犯交通安全対策、担い手の確保育成、活動の場づくりに取り組むことについて盛り込んでおります。</p> <p>地域の防犯交通安全、子どもの見守り活動等、様々な地域でお力をいただいている皆さんから、後継者不足、活動人員不足の話があり、青葉区のみならず、仙台市全体の問題にも通じるものと認識しております。ご提案の公務員の参加に関連して、職員のボランティア活動については奨励しているところです。今後とも、地域の担い手の確保に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>	説明会
450	<p>平成22年度までの総合計画にある愛子及び周辺地域と今回の基本計画中間案の愛子周辺地域の内容が非常に似ている。前の総合計画その成果がどの程度であたかの結果、アセスメント評価。それをきちんと実施し、新しい計画を立てていくべきではないかと思う。</p>	<p>現在の総合計画の中でも、愛子地区というのは人口の増加地区であるということで、対応を掲げております。</p> <p>現在の総合計画でも人口の増加を想定しておりましたが、当時は仙台市の人口が105万人になる手前に減少する想定でございました。その後震災を経て、仙台市の人口が109万人を超えるまでになっております。そのうちの人口急増地域の1つが、愛子周辺地区であり、現在の総合計画の計画を超えて増加してきていますので、しっかりと対応していかなければならないと考えております。</p> <p>表現の仕方としては同じような部分が出ておりますが、ご意見があったような対応について、どう対応していくかということについても区と協議しながら進めてまいります。</p>	説明会
451	<p>中間案の79ページでは、愛子周辺地域のインフラ整備は、大体の目途がつき、それ以外は、宮城地区にはこれから10年間は大きなプロジェクトは計画されていないというふうにとらえられる。この愛子周辺地域というのは、中間案39ページの土地利用方針図では、どこまでの範囲なのか。</p>	<p>中間案79ページにおける「愛子周辺地域」は、同39ページの土地利用方針図においては、自然環境保ゾーン、集落・里山・田園ゾーン、市街地ゾーンにより構成されるエリアとなっております。</p>	説明会
(2)宮城野区（10件）			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
452	<p>青葉区の西公園に相対する歴史ある榴岡公園域は、区民のみならず市民の健康憩いの場として、災害・防災拠点としての整備を要望する。さらに、仙台駅東口の開発拡充策の一環としてさまざまな機能の充実を求める。</p>	<p>榴岡公園は、市民の皆さまの憩いの場として親しまれている公園と認識しており、「宮城野区の地域づくりの方向性」においては、仙台駅東側の新たな交流や回遊を生み出す公共空間の一つと捉えております。現在、地元の仙台駅東まちづくり協議会と公園活用に向けた協議を進めており、その状況も踏まえながら、公園の運営にPark-PFI制度などの手法を活用した民間活力の導入など、幅広い視点から魅力ある公園とするための検討を進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ
453	<p>律令時代から東街道・塩竈浜街道と交通の要衝の原町地域の社会学習で古来からの歴史学習を行い、「今現在の原町」を再認識して行政の中心区役所・JR原町駅・物流の国道45号線と原町地域との関わりを検証して、総合活性化策を講じて活性化意識を涵養して開発する。</p>	<p>宮城野区は「地元学」発祥の地と言われており、自分たちが住む地域を調べてまちの物語を探る活動が盛んに行われています。原町周辺のまちづくりの経過を知ることを含め、地元を大切に、歴史を未来につないでいく区民の方々の主体的な行動を活かす視点を踏まえて、地域づくりを進めてまいりたいと考えております。</p>	パブコメ

454	幸町地区は工業地域から商業・住宅地へと移り変わって長年になる。子どもたちを育てやすいまちづくり、未来を創る子どもたちが健やかに自由に遊べる大きな公園を作りたい。私有地の少ない幸町地区だが、民営化になるガス局三丁目の土地を公園に利用してもらえないか。近くには公民館や保育所などが隣接しており、交通量も少なく最適な場所だと思う。広大な土地である。地域の人々や子どもたちの憩いの場として、活躍していくと思う。ぜひ検討してほしい。	子どもたちを育てる環境づくりは重要な視点だと認識しており、宮城野区の地域づくりの方向性においても、子育ての楽しさを実感できるような場づくりや子育て世帯のネットワーク形成などについて盛り込んでおります。子どもたちが安心して過ごすことができるよう、適切に公園の維持管理を行うなど屋外環境を整えるとともに、地域で子ども・子育て世代を支えていく環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。	パブコメ
455	宮城野区の地域づくりの方向性の第1に「海辺のふるさとをつくる」を位置付けていることを高く評価する。	宮城野区において、多くの被害をもたらした東日本大震災の経験と教訓を未来につないでいくことは、重要なテーマであると考えており、鎮魂や、失われたふるさとの歴史の伝承はもとより、沿岸部を一体のものとして魅力の創出を図り、再びたくさんの人々が訪れる「新たな海辺のふるさと」をつくってまいりたいと考えております。	パブコメ
456	宮城野区らしい区民参加の形で構築された計画であり素晴らしいと思う。	宮城野区の地域づくりの方向性を考えるにあたって、2回の区民参画イベントを開催し、10代から70代までの幅広い年代の皆さまから様々なご意見をいただき、大変有意義な機会になりました。今後とも、住民の皆様の声を直接お伺いしながら、地域づくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
457	宮城野区の方向性として「シンボルエリアをつくる」とあるが、どのような取り組みをするのかももう少し具体的に知りたい。	仙台駅東口周辺は地下鉄東西線の開業に伴う東西自由通路の拡幅により、今後もさらなる賑わいの創出を期待しているエリアです。現在、「仙台駅東まちづくり協議会」において、宮城野通へのキッチンカーや楽天のベンチの設置など、憩いの場を創出しようという実験的取り組みも始められており、今後も、民間の方々のアイデアを活かした取り組みを進めたいと考えております。また、桜の名所として知られる榴岡公園や、市の有形文化財である歴史民俗資料館など、自然・歴史・文化に根差した個性豊かな空間を活かして、新たな交流を生み出してまいりたいと考えております。	説明会
458	区別計画における海岸部の情報が少なすぎる。海岸部の今後が全く見えない。	沿岸部につきましては、宮城野区の地域づくりの方向性において、震災の教訓を伝え、交流を生み出す海辺のふるさとづくりを掲げるとともに、若林区においても、より多くの人々が海や水辺に親しめる機会づくりについて盛り込んでおり、区を超えて、様々な海辺の資源の活用などを進め、沿岸地域一帯に賑わいを生み出す取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
459	宮城野原貨物駅の移転跡地に関して、森林公園のような文化とスポーツが楽しめる地区になるよう期待しているので、そのあたりの進捗について教えていただきたい。	宮城野原の跡地については、宮城県において広域防災拠点の整備を進めることとしており、本市としても、まちづくりの観点から必要に応じて宮城県と意見交換を行ってまいりたいと考えております。	説明会
460	仙台港後背地の地図をグーグルマップで地図を見ていると空き地ばかりが目立つ。名古屋港や大阪港など南の方の太平洋ベルトにある工業港から拠点を仙台に誘致することができるのではないかな。	現在、仙台港は非常に物流が活性化をしており、貨物コンテナヤードの取り扱いの用地が不足するほど、物流系のニーズが非常に多く、土地の活用が進んでおります。仙台港の都市機能をしっかり生かしながら、さらなる産業集積につなげられるように、引き続き取り組んでまいります。	説明会
461	榴岡公園について、もっと賑わいをつくっていくにはどうしたらいいのかを考えたときに、何かイベントを定期的に開いたりしていくのがいいのではないかなと思った。ホームページで調べたところ、榴岡公園パークPFI事業というものがあったが、打ち切りになっている。結構良い事業だと思ったが、なぜなくなったのか。その榴岡公園について何かプロジェクトとか何か施設を立ち上げるという動きはあるのか。	榴岡公園のPark-PFI事業については、公募により選定した施設設置等予定者から事業の実現が極めて難しい状況に至ったとして事業を辞退したい旨の申し出があったものでございます。今後、地元の皆さまなどにもご意見を伺いながら、事業の方向性を検討し、あらためて公民連携事業を実施できるよう取り組み、榴岡公園の魅力さをさらに発信し、賑わいが生まれるよう努めてまいりたいと考えております。	説明会
(3)若林区 (12件) ※再掲含め延べ13件			
No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
462	若林区の地域づくりの方向性として、「海辺を楽しむ視点」を入れて欲しい。特に荒浜は、震災の慰霊の場所、自然災害を学ぶ場所ではあるが、仙台市民にとって最も身近な海辺である。この辺一帯を市民が海辺を楽しむ場所として積極的に位置付けて欲しい。	中間案では「より多くの人々が海や水辺に親しめる機会を、区域を越えてつくっていきます。」としているところであり、ご指摘のあった視点を取り入れながら、海を始めとした水環境に親しむ機会を作ってまいりたいと考えております。	パブコメ
463	水路についての記述、「現在は、やや生活から遠くなりつつある水辺について」といった形で現状を確認する表現も入れてはいかがか。	若林区は、六郷堀や七郷堀などの水路を始めとし、広瀬川や名取川、深沼海岸など豊かな水環境に恵まれているのが大きな特徴だと考えております。これら水環境は、今でも区民の生活の身近にあり、日常的な生活の中で、水辺を見たり、通勤や通学で近くを通ったり、時には散策したりなど様々な機会に水環境に触れる機会も多いものと考えております。	パブコメ
464	水路についての記述、震災復興の過程では、一時的に生き物が育つ環境が損なわれる面もあったが、時間をかけて少しずつ取り戻すようなことも考えられる、といった視点を入れてはいかがか。「メダカの里親プロジェクト」のような取り組みもある。	ご指摘の視点は、大変重要な視点であると認識しており、若林区では、東日本大震災の津波被害において、奇跡的に絶滅を免れた、固有の遺伝子を持つ野生の「井土メダカ」をシンボルとして活用しながら、六郷東部地区の交流や賑わいづくり促進の一環として「ひがろくメダカプロジェクト」を実施しているところです。中間案におきましても、自然環境を守り生態系を維持する視点や、災害の歴史を学ぶ視点などを盛り込んでいるところです。	パブコメ
465	「農業や水辺を活用した新たな学びの場づくりに取り組む」のはよいと思う。ただ、この近道は、なんととっても楽しむこと。「農業や水辺を活用し遊びながら学ぶ新たな場づくり」といった表現にしてはいかがか。	農業や水辺を活用した新たな学びの場を作るにあたって、楽しみながら学ぶ手法を取り入れることは重要だと考えております。「楽しみながら学ぶ」にあたっては、「遊び」の要素を取り入れる他、知的好奇心を高める手法など様々な取り入れながら、学びの場づくりに取り組んでまいりたいと考えております。	パブコメ
466	正直、市政に不信感がある。以前市政だよりに「高砂堀通りのにぎわいづくり」という予算が組まれていたが、一度もにぎわっているところを見たことがない。花が置いてあるだけ。	「薬師高砂堀通り」は道路愛称を応募し、503通の中から選ばれたものです。若林区の薬師堂周辺駅のまち歩きマップに掲載するとともに、鉢植えなどを設置し、憩いの空間づくりに努めており、今後とも、住民の皆さまとともに薬師堂駅を基軸とした賑わいづくりに向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
467	若林区荒浜地区とは名取川を挟んで歴史的なつながりを持つ名取市閑上地区の住人として、今後、沿岸部他市との交流を深めていく構想のもと、海辺における両地区共通の題材（例えば朝日）を魅力的に発信するイベントを企画・実践していくというプランを提案したい。また、景観だけではなく、生物多様性（例えばスナガニ）に注目した海岸の再生策も一考の価値があると思う。震災後10年を迎えるにあたり、特に「心の復興」にも寄与する将来計画が真に求められているのではないかな。	沿岸部につきましては、「杜と水の都プロジェクト」を掲げ「水辺を楽しむ親水空間をつくる」をコンセプトに自然環境、海岸公園などの海辺の資源を活用し沿岸部一帯に賑わいを生み出すこととしております。また、区としても沿岸部に点在する施設や団体を区域を越えてネットワーク化し、沿岸部全体について情報共有と協働を促すとともに地域外に向けた情報発信を進めることとしております。	説明会
468	若林区は、旧市街（荒町・連坊・河原町）と荒井地区との交流がない。コロナの終息がいつになるかわからない中で、地域づくりや各団体の横のつながりができない状況である。足元も見て欲しい。	地域における様々な活動、一例として、荒町地区における「荒町さんぽ（地域の商店を取材した地図）」のような、地域の情報を幅広い皆様に知っていただけるよう、区として取り組んでいるところです。今後とも、各地域の多様な活動・情報を皆様にお届けできるよう努めてまいります。	説明会

469	学院大の新キャンパスが市立病院の跡にできるということは期待はしているが、市立病院の跡地は仙台駅からの徒歩圏内である。学生が実際に住むのか、教職員の方がどの程度、異動するのかわからないはずだが、既に学生が地域協働と一緒に、まちづくりに関わっていただくことを前提に作られている。果たして、若林区にどの程度の地域づくりに入っていただけるのかどうか、学生は4年経って、大学を出たら、もう仙台離れてしまうのではないかと思う。その4年間も、果たしてまちづくりに一緒に関わってくれるかどうか、非常に疑問。	若林区は、今まで総合大学がなかった区であり、東北学院大学のキャンパス移転に伴い、多くの若者が訪れることとなります。それにより、活気が出る一方、地域づくり上の課題も出てくるものと考えておりますが、地域の皆さんとともに、大学が来ることを上手く受け入れながら、地域の力として生かしていけるように、この10年で考えてまいりたいと存じます。	説明会
470	自然環境の保全について、これまでは住民の協力を得ながらというような形で、環境を維持してきたとのことだが、荒浜地区は災害危険区域に指定されていて、住民が不在である。深沼ビーチクリーンという形で海岸清掃の活動をしているが、そこで出てきた問題を共有する機会がない。住民不在の地域での環境維持、治安の悪化を感じている。そのような点はどのように考え、今後の基本計画に入れていくのか。	様々な活動をされている企業の方々、ボランティアの方々があり、なかなかそのすべてを把握できておりませんので、別途、区役所とお話をさせていただき機会を個別に持たせていただき、課題の共有を図らせていただければと存じます。様々な皆さま方のご意見、ご提案をお伺いいたしまして、海岸清掃、そこからの環境の問題、治安の問題等検討してまいりたいと考えております。	説明会
471	若林区は人口は増えてるが、被災地域については減少しており、土地も空いてる。新型コロナウイルス感染症の影響により首都圏から仙台に移り住む選択肢として出てくると思う。そういった中で、その土地は安くて広くて、環境的には良いが、転入してきた人が、新築できずに断念したケースが結構ある。地元の活性化と、人が住むことによって、自助共助がなくなり、限界集落にならないような状況をつくって欲しい。	海岸、海辺については、市街化調整区域ということもありまして、積極的な開発ということはことは難しいところがございます。一方、現在防災集団移転の跡地の利活用なども進んできておりまして、まさに海辺の地域が、様々な形で賑わいのきっかけをつくり出しつつある状況でございますし、様々な産業の芽もあろうか考えております。引き続き海岸地域の皆さま方のご意見をお伺いし、魅力ある地域をつくってまいりたいと考えております。	説明会
472	若林区の地下鉄沿線地域は、地価が上昇したものの、まだまだ回遊性がないように感じるの、駅周辺に賑わいができる箱[場所]があればいいと思う。	地下鉄沿線地域は、各駅ごとにそれぞれ特徴的な地域資源を有し、個性あるまちづくりが進められております。今後とも、各地域資源を活用しながら、回遊性の向上を図り、地域の魅力を育てあうまちづくりを進めてまいります。	イベント
473	東には田園も多いので、地域特産品グランプリなどのイベントなど催すのも良いかと思った。農業園芸センターでのイベントはあるが、周知が少ない。	農産品の収益性向上につきましては、「TOHOKU未来プロジェクト」や「施策一覧11経済」に、農業の活性化や地場の食に関するビジネスへの取り組みについて盛り込んでおります。その中で、農業園芸センターにつきましても、公募により選定された民間の運営事業者とともに、季節に応じたイベント内容の充実や積極的な広報に努めてまいりたいと考えております。	イベント
再掲 (458)	区別計画における海岸部の情報が少なすぎる。海岸部の今後が全く見えない。	沿岸部につきましては、宮城野区の地域づくりの方向性において、震災の教訓を伝え、交流を生み出す海辺のふるさとづくりを掲げるとともに、若林区においても、より多くの人が海や水辺に親しめる機会づくりについて盛り込んでおり、区を超えて、様々な海辺の資源の活用などを進め、沿岸地域一帯に賑わいを生み出す取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会

(4)太白区 (29件) ※再掲含め延べ30件

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
474	10年後の秋保の担い手を育てるための取り組みを紹介できたことは、地域の理解と協力につながったと思う。	担い手不足の課題は様々な地域で今後ますます顕在化していくと考えられるため、貴重な取り組みとして参考にさせていただきます。	説明会
475	二口峡谷については行政機関のPRが不足している現状があり、今後は重点的に整備し、山形県とともに発展させることが大切である。	二口エリアにつきましては、秋保温泉から山形市山寺へと通ずる二口街道の自然や歴史の魅力を活かした体験観光の創出を進めるなど、地元の皆様にもご協力いただきながら、交流人口拡大に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
476	秋保の大きな課題は「移動手段」であると思う。	移動手段の確保につきましては、課題であると認識を持っており、太白区の地域づくりの方向性にも位置付けております。平成30年より、秋保地域の皆様を中心となって、乗り合いタクシーやデマンド交通などの地域交通の立ち上げに向けた取り組みが行われており、引き続き、地域の皆様とともに持続可能な移動手段の確保に向けて取り組んでまいりたいと考えております。	説明会
477	秋保の未来を考えて活動している多くの方がいるが、ずっと秋保に住んでいる方に理解してもらえていない現状がある。お互いが理解し合うのはとても時間がかかり、良い案も立ち消えてしまうかもしれない。点と点を線にするのは大きな力が必要。仙台市に期待したい。	住民の皆様と秋保地域の活性化に取り組まれている方々の相互理解を深めながら、地域づくりを進めることができるよう努めてまいります。	説明会
478	秋保地区の少子高齢化や人口減少などについての対策を検討して欲しい。	秋保地域の地域づくりの方向性に、人口減少を念頭に、地域コミュニティの維持・確保や空き家の活用、持続可能な移動手段の確保などを盛り込んでおります。地域の皆様の主体的な支え合いや生きがいづくりの活動を支援するほか、恵まれた地域資源を活かした交流活動を促進するなど、様々な視点から取り組みを検討してまいりたいと考えております。	説明会
479	秋保地区まで地下鉄が延伸すれば、観光資源にもなると考える。	秋保地区までの地下鉄の延伸につきましては、財源等の問題があり、検討しておりませんが、秋保地域は本市の重要な観光地であると考えており、二次交通の充実など交通アクセスのあり方について検討してまいります。	説明会
480	10年先、子どもたちが太白区に住んでいてよかったと言ってもらえるよう各方面の方々にお願いしたい。	子どもたちが健やかに育ち、地域への愛着を育めるよう、住民の皆様をはじめ、多様な主体の方々とともに、より良い地域づくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
481	太白区の地域づくりの方向性に「自分らしく」とあるが、さまざまな福祉説明会でもっともらしく使われてきている。「自分らしく」とは何のことか説明できる人はいるのだろうか。この言葉を入れることで、差別化・区別化を正当化するものにならないだろうか。「ともに支えあい、誰もが健やかに暮らせるまち」でいいのではないか。変な修飾語は不要である。	「自分らしく」とは、障害がある方や、高齢者、子どもたちなどの様々な住民がいる中で、それぞれの多様性を尊重し合いながら、一人一人が主体となって活動できるまちづくりを進めていくという趣旨でございます。	説明会
482	名取川右岸地域の浸水に対する地域全体の防災力向上について、名取川は広瀬川との合流により水害に対する危機管理が非常に大事だと思う。名取川が氾濫する可能性がある。	名取川と広瀬川については、合流部を含め河川管理者である国において河道の流下能力を確保するため、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」として、堆積土砂撤去や支障木伐採などに集中的に取り組んでおります。また、名取川の堤防整備につきましては、名取川水系河川整備計画により示されております。本市としましては、適切な河川の維持管理や整備等について、引き続き国との情報共有をはかるとともに、河川整備促進に向けた働きかけを行ってまいります。 内水対策につきましては、浸水リスクの高い地区を優先的に施設整備を進めるとともに、段階的な整備手法の導入や浸水地域ごとの特性に応じた対策を図ることとしております。なお、名取川右岸地域の浸水対策としましては、名取川へ雨水を放流する雨水管整備を鋭意進めているところです。	説明会

483	落合にポンプ場があるが、もう一つのポンプ場はポンプがないことである。実施計画にはポンプ設置について記載して欲しい。	内水対策につきましては、浸水リスクの高い地区を優先的に施設整備を進めるとともに、段階的な整備手法の導入や浸水地域ごとの特性に応じた対策を図ることとしております。	説明会
484	避難所周辺には内水で避難できない状況である。早急にポンプの設置をお願いしたい。		説明会
485	防災計画の中で、水害対策として津波対策はある程度進んでいるが、豪雨などによる浸水区域の中に高所避難施設が全くない。内水氾濫も想定されるため、名取川周辺に高所避難施設を数カ所建設することを検討して欲しい。	新たな避難施設を建設するのは難しい状況であることから、大雨時には内水氾濫等の被害が生じる前に、近隣の指定避難所等に避難していただきたいと存じます。なお、避難は災害リスクから逃れることが基本であり、必ずしも避難施設へ行くことではありません。ご自宅等で安全が確保できる場合は、在宅のままで構いません。また、安全な場所に親戚や知人宅があれば、日ごろから相談し、いざという時に避難できるようにしておくことも大切です。	説明会
486	現総合計画における公共交通について、太白区の中では、交通の利便性が高く、充実した住環境を形成、持続するまちづくりを目指すとされていた。ただ、今回出されている中間案では、多様な主体との協働による交通手段の確保、となっているが、なぜ前の文面でなくなっているのか。	各地域におきまして、公共交通を含め交通の確保が、重要だという点に関しては、現総合計画も次期基本計画も同じ認識でございます。一方で、仙台市の人口は、地域ごとには増えている地域、減っている地域、と差がございまして、その中でどうやって交通を維持していくかという手法について検討を進めているという状況でございますので、一部表現が変わっておりますが、方向性に違いはございません。	説明会
487	地域の交通を形成していくということについては、極めて重要と考えているが、太白区の中で住んでいる、特に丘陵地で生活している人については、地下鉄東西線が運行したことによって、バスが減便、あるいは廃止され、非常に不便だという意見がある。この点で、地下鉄東西線が運行される前のバス路線に戻し、住民の皆さんと話を進めながら有効なバス路線をつくって欲しい。	市バスを含む路線バス事業者の経営環境は厳しい状況にあり、運行本数の増加や維持が難しい地域がありますことから、現在、地域の方が主体となった移動手段の確保に取り組む団体に技術的・財政的な支援を行っているところでございます。「地域協働プロジェクト」においても、生活に必要な移動手段の確保に向け、多様な主体が協働しやすい仕組みづくりを盛り込んでおります。路線バスと地域交通などを組み合わせた新たな交通体系の構築など、利便性の高い公共交通を中心とした交通体系の充実を図ってまいります。	説明会
488	秋保を巡回するバスがあれば、交通手段ができ、中学生やまちの方々の生活がさらに便利になる。	秋保地区においては、地域の方々での地域の交通を考える勉強会から事業に繋がっているという事例ございますので、まずは勉強会などにより、地域の方々が地域交通の理解を深めていただけるよう支援するとともに、地域の話丁寧聞いてまいります。	説明会
489	利便性の少ない路線について、乗り合いタクシーに移行するというを、仙台市で現在検討されてると聞いているが、住民の皆さんの意見もよく聞いた上で練り上げて欲しい。	秋保地区においては、地域の方々での地域の交通を考える勉強会から事業に繋がっているという事例ございますので、まずは勉強会などにより、地域の方々が地域交通の理解を深めていただけるよう支援するとともに、地域の話丁寧聞いてまいります。	説明会
490	日赤前の住宅造成地と八木山本町との間に、鉤取の市有林があり、災害の急傾斜地に指定されている。そこは松林が生い茂っており、毎年松くい虫防除をしているようだが、一部の住宅で火災ができた場合、松の木は火災に弱いため、一帯に広まってしまう。あの地区は、平たん急傾斜地を是正してもらい、周りには火災に強い木を植えるようにして、真ん中はみんな健康広場のように整備して欲しい。	松林につきましては、別途、区役所とお話をさせていただき機会を個別に持たせていただき、課題の共有を図り、どのような方向性が見出せるのかということを検討してまいります。	説明会
491	健康サロンでの健康相談会、介護予防などの講座を月1回は最低でも実施するよう、専門家と相談して方向性をまとめたが、地域包括センターに相談するのは難しい。町内会にそのようなものを相談するのであれば、市の健康の担当責任者と、町内会なり連合町内会で具体的に詰めて、それぞれの地域の実態に合うようやって欲しい。	各地域でサロンが開催されておりますが、これまで地域包括支援センターの役割が大きかったところでございます。令和2年度より、サロンに市職員を直接割り振り、対応させていただくことを始める予定でございますので、是非様々な意見を伺わせていただければと存じます。	説明会
492	中田地域について、これから10年間の計画の中に、老人包括支援センター、あと図書館つくる予定があるのか、なければつくって欲しい。	地域包括支援センターにつきましては、現在のところ中田地域については、西中田、袋原、四郎丸にございますが、近くにないということであれば、別途お話を伺わせていただければと存じます。 また、図書館につきましては、中田市民センターに設置しておりますサービススポットを通して、サービスの提供と利用促進に努めてまいります。	説明会
493	長町の駅前。「いろはや」から広瀬橋までの車道が4車線だが、2車線にして欲しい。要するに歩道広げて欲しいのと、それから「いろはや」さんの交差点をスクランブル交差点にして欲しい。	長町周辺の車道については、車社会から歩く社会に変わっておりますので、必ずしも今のままでいいという認識ではございません。地域の発展のためにも、引き続き様々な議論をさせていただければと考えております。	説明会
494	秋保地区においては、高齢化率40%で人口も大幅に減少し、若者も市街地の方に流出しており、町内会も非常に少ない、立ち行かない状況を危惧されている。秋保地区において、空き家もあり、それで移住促進を図るようなことだが、他市町村のように300万と500万とか、補助金を交付し定住していただくというような事業を積極的にやって欲しい。	秋保地区においては、用途地域の関係で新たに家を建てることのできる場所も限られておりますので、空き家は非常に貴重な資源と考えております。当面は、空き家の実態を把握することから始めまして、インセンティブをどうしていくのかについても、他都市の事例などもしっかり参考にさせていただきながら、取り組んでまいります。	説明会
495	秋保地域の項目について、漠然としていて何をやらうとしてるのかわからないため、実施計画ぐらい具体でないと、なかなか意見が出てこないと思う。近隣市町村においては、計画書を読むとかなり書き込んで、指標も示しており、計画書作りにあたっては、首長以下、幹部が住民の意見をきめ細やかに聞いたうえで策定している。	基本計画は今後10年間の方向性を示すものでございまして、総合計画審議会の委員の皆さま方のみならず、広く市民の方々と一緒になって、様々なご意見をいただき、策定を進めているところでございます。10年計画ですと、その時々社会情勢などが変わってくるため、それに応じた3年程の実施計画を策定し、具体的な取り組みや指標などとともに予算との関連もお示ししてまいります。	説明会
496	子育て世帯が引っ越してきても、子どもを預ける学童保育所が湯元地区にはあるけどここにはないと言われ、去年から地域から要請を受けて、町内会としてそのことを話しているのだが、なかなか難しい。そのあたりのフォローをしっかりして欲しい。	子育て環境の整備につきましては、地域のご要望を担当部局でしっかりと受けておりますので、そこは今後とも優先順位が高いものという認識のもと、対応してまいります。	説明会
497	秋保地区の課題として、周りにコンビニやスーパーなどの商業店が少なく、遠いところまで、買い物に行かなくてはならない状況である。そして、地域では高齢化が進んでおり、車などを使って、遠いところまで行ける人が少なくなっている。今は、自動運転技術が発達しており、無人で車が運転できるようにもなっているため、それを利用して、高齢者への食料の提供などを行えるようにして欲しい。	IT技術やAIなどの先端技術は、これから先10年でさらに進化をしていくものと考えており、仙台市においても様々な実証実験を始めているところでございます。交通の分野においての自動走行も、公道を走るにはもう少し時間を要すと考えられますが、貴重なご意見として、今後の施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。	説明会
498	最近都会で使われている、食事の配達サービスを秋保地域でも利用できれば、車を使えない高齢者や、買い物をする時間のない人が便利に買い物ができるのではないかと。操作方法もAIなどを使って注文した方が効率がいい。音声理解の機能では、スマートスピーカーによる音声認識もでき、曖昧な言葉でも自然に言語処理を行うことができる。食材注文用の電話番号を誰でもわかりやすいよう4桁くらいに設定するといふ。	IT技術やAIなどの先端技術は、これから先10年でさらに進化をしていくものと考えており、仙台市においても様々な実証実験を始めているところでございます。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、在宅における様々なサービスの可能性も広がっておりますので、貴重なご意見として、今後の施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。	説明会
499	秋保をスマートタウンにするために、どのようにすればいいのか考えた。タブレット型端末を年配の方に提供し、診察、心のケア、健康チェック、医者との連携に加え、買い物、食事を一つにできる5G対応のアプリがあれば良いのではないかと考えた。		説明会

500	秋保の少子高齢化に向けて、まずは秋保を知ってもらう第一歩として、観光地としてのPRをして欲しい。	秋保地区においては、豊かな自然や歴史、温泉など魅力ある地域資源が豊富にあります。それらの資源を活かした観光コンテンツを広く発信し、引き続き秋保地区の観光PRを推進してまいります。	説明会
501	放課後児童クラブ、要するに学童保育について、特に馬場小、それから秋保小でかなり苦労されてる。NPOを立ち上げればうまくいくのではないかと考え、提案したい。	NPOも大きな意味でまちづくりプラットフォームの1つだと考えており、秋保地区には既にご活躍いただいている様々な団体の方々がいらっしゃいます。そういった既存のまちづくりプラットフォームとの連携なども視野に入れ、引き続き意見交換させていただければと考えております。	説明会
502	ITなどを扱える若い世代と違って、秋保の場合は高齢者が多いため、情報の収集発信の仕方というのでも考えて欲しい。	地域の方々との情報共有については、大変重要なものと認識しているため、各世代間における情報入手手段の多様化に対応できるよう、検討してまいりたいと考えております。	説明会
再掲 (438)	愛子周辺地域と西部山岳丘陵地域は、他の地域と政策課題が大きく異なっており面積も広いので、分区を考えるべきで、課題として計画にも明記すべき。太白区の秋保地区も同様の課題があるのでは。	合併以降、宮城総合支所の機能強化に継続的に取り組み、概ね区役所と同じ手続きを実施できる体制を整備してまいりました。本市の人口も減少局面を迎えることが見込まれることから、現時点においても分区の検討を行う段階にはないと考えております。今後とも、地域のニーズに応じた役割を果たしてまいります。 秋保地域につきましては、高齢化の進展や有害鳥獣被害、豊かな自然などの地域資源を含め、現状を踏まえた地域づくりの方向性を示しております。	説明会

(5)泉区 (14件)

№	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
503	いいところ取りの西部地区の紹介である。現状は、廃れ行く里山と根白石。50年変わらない泉ヶ岳岩切線の現状から、仙台市市政の中で取り残された地域ではあるが、泉ヶ岳の自然に対する、仙台市民に貢献しても、リスペクトされない地域でもある。しかし再生の糸口もある。里山田園の地域の拠点づくりを進め、秋保、作並、定義、根白石の観光による、連携構想である。第一に、地域の拠点となる、農産物の販売拠点の設置から始まる。泉西部の地区には、農業公園（新養種園と販売の交流センター）が起爆剤となるよう設置を求める。	西部地区については、サイクリングと様々な体験プログラムを連動させたサイクルツーリズム、地域資源を活用した個々の取り組みのつながりが見られるようになってきております。 中間案では、チャレンジプロジェクトの中に「地域協働プロジェクト」を位置付け、豊かな自然資源や地域特有の生活文化などを活かした交流環境づくりについて盛り込むとともに、「TOHOKU未来プロジェクト」に自然・歴史・文化などを活かした域内観光の活性化について盛り込んでおります。新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、地元関係者の方々とともに、様々な地域資源を活用した交流人口拡大に向けた取り組みに関するアイデアを出し合いながら、検討を進めてまいりたいと考えております。	パブコメ
504	泉区役所庁舎の高層化（スリム化）し、余地を公園や高層オフィス、マンションを整備するのはどうか。	本事業においては、民間活力の導入により、庁舎の建替えとあわせ、泉中央地区の活性化や課題の解消を図ることとし、敷地の利活用を含め、まちづくりに資する幅広い提案をいただけるよう、有識者による委員会や、連合町内会協議会をはじめとする関係団体の皆様による懇話会を設置し、ご意見を聞きながら、提案に対する様々な条件等（基本的な考え方、要件や仕様、配慮を求める事項等）の検討を行っております。	説明会
505	新しい泉庁舎の計画の中に、民間企業（商業・ホテル等）も組み込んで設計するのはどうか。	今後とも、泉中央地区の魅力をさらに高めるとともに、地域課題の解決につながるような事業となるよう、総合的な視点から取り組んでまいりたいと考えております。	説明会
506	学院大のキャンパス移転に伴う、若者のまちづくりの担い手の減少への対策については、泉区外に泉区のまちづくり団体（学生向け）の拠点、活動場所を設置してはどうか。市中心部等の多くの学生が集まりやすい場所に設置し、休日等に泉区への現地調査などを行えたらと考える。学生の多くは市営のフリーパスを利用しているが、このフリーパスを大学やバイトに行くためだけのものにせず、普段行くことのない場所へのきっかけとしたい。	泉キャンパス移転後の地域づくりにつきましては、大学施設の利活用方針などについて引き続き情報収集を行うとともに、大学や地域の皆さまとともに、今後想定される地域課題などを整理し、その課題解決に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。また、泉区においては、泉区内・近郊の大学との協定に基づき、様々な大学と泉区内の地域課題の解決などに向けた連携事業を進めているところであり、今後とも、当該地域の問題も含め、若者にも地域づくりに参画していただく具体の方策について検討してまいりたいと考えております。	説明会
507	まちづくり団体の参加者には、フリーパス購入に補助を行うなど、泉区の若者の担い手を確保するとともに、公共交通機関の利用者を増やしていけたらと考える。	公共交通の利用促進につきましては、Icscapoint制度や1日乗車券など運賃施策等を実施しているところであり、いただいたご意見につきましては、今後の施策の検討にあたり、参考にさせていただきます。	説明会
508	泉区内の各地域からのアクセスが泉中央の1点に集中し、地下鉄駅周辺に交通アクセスが一極集中して混雑（渋滞）が解消されない導線が気になっている。将来的にどう変化させていくか気になっている。	泉中央駅周辺において、泉区役所建替えの検討が進められることから、建替えに合わせた駅周辺のバス待ち環境の利便性向上策や、バスの円滑な運行・定時性確保、渋滞緩和等の交通環境改善策について、民間活力を活用しながら検討を進めてまいります。	説明会
509	泉区について、若者が多い、若者の視点を取り入れた情報発信をしたいなどがあるが、ご承知の通り学院大学が五橋に統合されるということで、泉区にもかなりの学生が今は通学なり、居住していると思うが、移転される2023年の影響をどのように考慮されているのか。	東北学院大学の移転につきましては、今、泉キャンパスに在籍している約6,000人の学生や教職員の方が転出されるため、周辺地のアパートの空きや、泉中央地区でのアルバイトの不足、バスの減便など様々な影響が考えられます。跡地の利活用について、大学でも未だに整理がついていない状況でございますので、地域の皆さまの不安を取り除けるよう、大学からも地域の方々に説明会を開催していただくなど、今後も働きかけをしてまいります。	説明会
510	ニュースで新型コロナウイルス感染症の影響により交通局の経営が厳しいということを見た。さらに宮城交通もコロナ前の水準にまで増便するのに時間がかかっている状況。泉区は、市バスがあまり展開してない。これからの泉区の交通を考える上で、バス、地下鉄などの公共交通をどのように考えているのか。	新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通は厳しい状況に陥り、収束後もテレワークやオンライン授業等の普及により、以前の状態までの回復が難しいところがございます。また、それぞれの地域によっても、様々な状況がございますので、その地域の状況に応じた移動手段の確保について、検討を進めてまいりたいと考えております。	説明会
511	新たなニュータウンとなる朝日街区をどのようなまちにしていきたいのか伺いたい。	朝日地区につきましては、事業者である三菱地所において、国に対しICTなども活用した新たなサービスの適用について提案がなされ、国土交通省のスマートシティ「重点事業化促進プロジェクト」に選定されたところでございます。本市といたしましては、今後も事業者や地域の皆さまとともに、新たなサービスの実証実験などを行いながら、地域の実情や特性に応じたまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。	説明会
512	今までの計画では、泉と長町は「副都心」とされていたが、今回の計画では「拠点地域」となっており、格下げされた印象がある。都心というと、総合的にいろいろ拠点性を持つ表現だが、今は交通結節拠点と扱われる部分が強調されている。	現計画の前の計画である「仙台21プラン・仙台市基本計画」において、長町地区や泉中央地区、愛子地区、仙台国際貿易港周辺を総じて副都心と表記しておりましたが、当時の計画においても長町地区や泉中央地区を広域拠点、愛子を地域中心拠点と位置付け、地域特性を踏まえた拠点形成を図ることとしておりました。現基本計画において表現が変わりましたが、位置付けが変わったというものではございませんのでご理解いただければと存じます。	説明会

513	学院大の移転跡地の利活用について、もし学院で使い切れないのであれば、欲しいと思うところもあると考える。学芸関係など引っ張ってきてもらえれば、地下鉄や人口の減少も少なくなるし、まち全体が活性化すると思うので、ぜひそのあたりも取り組んで欲しい。	東北学院大学の跡地の利活用については、大学においても検討を進めている段階と伺っておりますので、地域の皆さまの不安を取り除けるよう、大学からも地域の方々に説明会を開催していただくなど、今後も働きかけを行ってまいりたいと考えております。	説明会
514	泉ヶ岳について、歩道などしっかり整備されていない。皆さんが行ってみたいという山にすれば、もう少し、仙台市としても魅力になるのではないかと。泉区だけでなく、仙台市全体でももう少し目を向けてもらいたいと思う。	泉ヶ岳は本市の大変貴重な資源でございます。様々な開発の計画の状況も見定めながら、このような自然をどのように生かしていけるかということも、区、市ともに考えてまいりたいと存じます。	説明会
515	現計画は2011年の震災の年から10年間の計画であった。その中で最大の10年間残された泉区における課題はなんであったのか。	泉区においては、この10年間における高齢化の進展や人口の急速な減少が大きな課題であると考えており、これらの課題を地域の皆様と知恵を出し合っただけで克服していくかといった視点のもと、今後の地域づくりを進めてまいりたいと考えております。	説明会
516	この10年間で、泉区として、何を最優先に進めて行くのか。	泉区における地域づくりの方向性にてお示した4つの項目が、泉区が今後10年間で取り組むべき大きな柱でございます。地域課題は、その地域によって様々でございますので、細かくその地域で抱えている課題を丁寧にお聞きしながら、どのように解決していくのか、地域の皆さまとともに考え、取り組んでまいりたいと考えております。	説明会

8資料編（1件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
517	資料編の「東日本大震災」の用語の説明が「深さ約24kmを震源とする地震」となっているが、深さは24kmで確定しているため、「約」は不要である。	ご指摘のとおり、修正いたします。	パブコメ

9その他計画全般について（50件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
518	大変きめ細かく策定され多くの市民の意見が反映されたことが理解できた。	計画の策定にあたりましては、今般のパブリックコメントや中間案説明会、区ごとのワークショップをはじめ、様々な市民参画の取り組みを実施し、ご意見を踏まえながら検討を進めてまいりました。	パブコメ
519	本計画で示された8つのチャレンジプロジェクトは妥当なものとする。特に『みんなのせんだい未来づくり～チャレンジを続ける新たな杜の都へ～』イベント（令和2年10月4日開催）で示されたとおり、行政のみが主体ではなく市民協働で作上げていく目標とのことで、仙台市の持つポテンシャルを發揮できる素晴らしい計画であるとする。	中間案では、まちづくりの理念として「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」を掲げるとともに、行政のみならず、仙台に関わる多くの方々とともに進める「チャレンジプロジェクト」をお示ししております。様々な仙台の強みを最大限に活かし、多様な主体の方々の知恵や技術を持ち寄りながら、魅力的なまちにしていきたいと考えております。	パブコメ
520	一つ一つの取り組みは魅力的で実行できれば素晴らしいと思う。	実効力のある計画とするためには、数値目標などを含めた実施計画を策定し、進行管理を行う中で、市民の皆様、市議会のご意見などを伺いながら、改善につなげることが重要だと考えております。「計画の推進」に掲げた通り、基本計画の共有、進捗状況の情報発信を行うとともに、市民の皆様と目標の実現に向けた取り組みについてともに考える機会をつくりながら、計画の推進に努めてまいります。	パブコメ
521	仙台市民が安心して住める楽しく暮らせるまちに！もっともっと市民にアピールして欲しいと思う。		パブコメ
522	幸せ度ランキング第39位の宮城県。悲しく情けない。10位以内に入りたい。		パブコメ
523	市民の力を信じて、多様な意見を尊重する行政を期待している。		説明会
524	仙台独自のまちづくり、いろいろなアイデアを生かして魅力的なまちを共につくっていきましょう。		説明会
525	仙台は素敵なまちだと思う。自分なりに今できる地域貢献をやっていきたい。共に学び合いながらソフトパワーで良いまちにしていきたい。		説明会
526	ぜひ基本計画達成のために努力していただきたいと思う。期待している。		説明会
527	素晴らしい計画だと思う。		説明会
528	多くの方が地域づくり（まちづくり）に熱意を持たれていることを改めて感じ、心強く感じた。		説明会
529	基本計画は理念やプロジェクト、地区の方向性も素晴らしい内容である。		説明会
530	頑張ってもらえたことに感謝。		説明会
531	基本計画としては概ね良いと思う。		イベント
532	基本計画の作成これまでご苦労様でした。		説明会
533	これだけの方向性を考えるだけでも大変な作業だったと思う。これから具体的にどう進めていくのか楽しみに期待している。本市の意見を聞くこともでき、貴重な体験だった。ありがとうございました。		説明会
534	仙台市の今までの傾向として、無難な施策しかやってこなかったと思う。誰が見てもやるべき、正しいと思われる施策も大事だが、それだけであれば他の都市の中で埋もれていだけだと思う。ぜひ日本で、そして世界の中でも仙台が特化してやっていると認識してもらえそうな施策を、本気になってやって欲しい。		イベント
535	中間案は大変分かりやすかった。来年度の完成したものを見るのが楽しみである。		イベント
536	計画が進んでいけば良いと思う。		イベント
537	魅力的なまち、住みやすいまち、仙台市民が自分たちで何度も楽しめるリピートできるまちづくりになって欲しい。		イベント
538	人が集まるまちになれば良い。		イベント
539	基本計画を読んで感じる印象は、極めて牧歌的だということである。コロナ失業は一時的で収束したら回復できると楽観しても良いのか。それらが中間案からは全く見えない。市民の暮らしが抱える困難を白日の下にさらし、その問題の解決に自治体として何ができるか。それこそが基本計画の第一の課題、目標でなくてはならない。公共サービスとセーフティネットを充実させて、「再分配」を機能化させることが大切である。	審議会においても、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた計画のあり方についての議論を行っており、まちづくりの理念や目指す都市の姿を掲げる項目「新たな杜の都へ」において、新型コロナウイルス感染症を踏まえた、デジタル化の加速や社会変化への対応力を高めるといった視点のほか、「施策一覧 6健康・医療」には、新興感染症対策の項目を新たに盛り込みました。また、コロナ禍で打撃を受けている中小企業の経営力の強化をはじめ、ひとり親家庭や生活困窮者への支援など、安全安心な暮らしの確保や地域経済の回復・活性化など10年間を見据えた取り組みを盛り込んでいるところでございます。	パブコメ
540	環境局の説明会と同様の感想を持った。方針や計画のほとんどは、これまでの取り組みをなぞっただけのようなものになっていないか。説明に現在の取り組み事例を今後も続けていくというのは、これからの計画の説明になっていないと思う。	まちづくりにおいては、一定程度の継続性も重要と考えているところですが、計画案は、現行の取り組みの延長という視点ではなく、まちづくりの理念や目指す都市の姿を定め、それに沿った8つのチャレンジプロジェクトなどを掲げました。現行計画策定以降のまちの変化や課題などを捉えたプロジェクトとしては、東日本大震災の経験と教訓を踏まえた「防災環境都市プロジェクト」や、老朽建築物の更新が停滞している都心部に大きく焦点を当てた「都心創生プロジェクト」などがございます。	説明会
541	各項目について抽象的であったり、今までの考え方を整理しただけのものであったりと、新鮮さや力強さに乏しく感じる。		説明会
542	全体的に、一般的な口当たりのいい抽象的な表現のみで頁を稼いでいて、内実・中味がない。P51以降は、項目を羅列、書き出しただけに見える。「図ります」「進めます」「行います」だけである。	目指す都市の実現に向け、市民の皆様をはじめ、多くの方々のチャレンジが生まれる契機となるような計画を目指し、具体的な取り組みを記載して関わり方を絞るのではなく、基本的な方向性を示すことを重視いたしました。具体の事業につきましては、概ね3年ごとに定める実施計画において示してまいります。	パブコメ

543	まず先頭に「総合戦略」を出して欲しかった。	「仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、少子高齢化の進展や東京一極集中への是正への対策として具体的な事業を定めるものであり、国の戦略を勘案しつつ、新しい基本計画を踏まえて、検討してまいりたいと考えております。	パブコメ
544	共有する際のイメージとしては、「総合戦略」があって、基本計画や実施計画があると思っていた。		説明会
545	現計画は2011年の震災の年から10年間の計画であった。その中で最大の10年間残された課題はなんであったのか。	実施計画に掲げる重点的な取り組みを中心とした主な事業実績及び関連データの推移などについて取りまとめた「総合計画2020」や「震災復興関連事業」の振り返り資料を作成し、第1回総合計画審議会に提出した上で、審議を進めていただきました。現計画の策定とほぼ同時に東日本大震災が発生し、震災復興事業に注力してきた中におきましても、地下鉄東西線の開業や待機児童対策をはじめとした子育て支援など、市民の皆様	説明会
546	総合企画2020やその進捗について、ホームページの方で明示はされているが、できたこと、できなかったことに対し、今後どのように取り組み、今回の計画の目標に近づいていくのかということを示して欲しい。	暮らしの向上につながる施策を前進させることができたと考えております。一方、都心部における老朽建築物等の更新や、人口の東京一極集中への対応、教育環境の整備などの課題にもしっかりと対応していかなければならないと考えており、それらも踏まえて、中間案をお示しいたしました。	説明会
547	現在の基本計画（2011～2020年度）の記載内容を“ある程度達成した”ので、今回新たな内容をたくさん記載しているという認識で良いか。計画策定から10年も経過すれば、社会状況も変化し、計画を立て直す必要があることはもちろん理解しているが、達成できた部分や積み残してきた部分に分からなかった。願わくば、現計画のレビューも新たな基本計画に付加して欲しい。		パブコメ
548	案にはから（空）の出来事を掲載する、やりたいではなく「やるんだ」という決意・評価し、反省・前の積み残しはないか、積み残しは今期案で解決しようという決意が大切。	目指す都市の実現に向け、市民の皆様をはじめ、多くの方々のチャレンジが生まれる契機となるような計画を目指し、具体的な取り組みを記載して関わり方を絞るのではなく、基本的な方向性を示すことを重視いたしました。現行計画の最終年度として各般の事業を鋭意進めるとともに、コロナ禍において、市民の皆さまの安全安心の確保や地域経済の回復に取り組んでまいります。	パブコメ
549	区別計画がよくわからない。自分の住んでいるところがどんなところか知りたかったが、のっぺりしていて特色もなく、これからに期待できない。何を指すのかももっと具体的に示して欲しい。	区ごとの地域づくりの方向性につきましては、区の魅力や未来への想いなどについて話し合う区民参画イベントなどを踏まえ作成しているところでございます。区の成り立ちや人口動向、区をいくつかの地域に分けた特性に、それらを踏まえた地域づくりの方向性をお示ししております。他の項目と同様、10年間の計画ということも踏まえ、基本的な方向性を示すことを重視した内容としておりますが、具体的な事業につきましては、この方向性をもとに、実施計画や毎年度予算編成においてお示ししてまいりたいと考えております。	パブコメ
550	仙台市の高齢化率は24%、太白区は25%に対し、太白地域は44%となっている。地域によってかなり差がある。計画では少子高齢化が挙げられているが、地域の特性を考え特性に合わせたキメの細かい計画となるようお願いしたい。	地域によって人口構成は様々であり、地域の実情に沿った対応が必要だと認識しております。そのような認識のもと、チャレンジプロジェクトにおいて、住民の皆様や市民活動団体、企業など多くの方々の知見や強みなどを課題解決などに活かしていく地域を目指し「地域協働プロジェクト」を掲げたものでございます。また、区ごとの地域づくりの方向性も同様の認識のもと作成しており、各区においても地域の実情を踏まえた対応を図ってまいりたいと考えております。	説明会
551	仙台市5区でそれぞれの課題がある。基本計画では、市民一人ひとりが関心を持つよう市政だよりやニュース、新聞等で多くの情報発信をすることが大切だと思う。	これまでも折を見て、市政だよりや新聞などを通じて、5区で実施した区民参画イベントの開催告知を含め、基本計画策定に係る情報発信を行ってまいりました。「計画の推進」に掲げた通り、計画策定過程のみならず、策定後においても基本計画の共有、進捗状況の情報発信を行いながら、市民の皆様に市政に興味関心を持っていただけるよう努めてまいります。	説明会
552	整備過剰やコロナ禍での廃業もあるので、横丁商店街などの歴史的文化も大事に生かして欲しい。	「都心創生プロジェクト」や「施策一覧 13都市機能」に掲げたとおり、各所に魅力を有している中心部商店街の回遊性向上に取り組んでまいりたいと考えております。	パブコメ
553	このたびの仙台市基本計画中間案は、計画の推進にあたり、計画の内容を市民と幅広く共有するとともに、できるだけ多くの市民に、計画の実現に向けたチャレンジに参加してもらうことを目指している。科学館や博物館、市民センターなど、学び・協働の場としての役割を果たす公的施設のうち特に重要なものについては、上述の目的に資するものとして、施設名やその意義・役割などが計画中に明記されているものと認識している。	ご認識のとおり、計画を幅広く共有することで、様々な協働を生み出したいと考えており、効果的な情報発信に努めてまいります。また、計画の推進において重要な役割を果たす公共施設について明記しているところでございます。	パブコメ
554	このたびの仙台市基本計画中間案は、計画の推進にあたり、計画の内容を市民と幅広く共有するとともに、できるだけ多くの市民に、計画の実現に向けたチャレンジに参加してもらうことを目指している。科学館や博物館、市民センターなど、学び・協働の場としての役割を果たす公的施設のうち特に重要なものについては、上述の目的に資するものとして、施設名やその意義・役割などが計画中に明記されているものと認識している。		パブコメ
555	令和元年9月14日の新総合計画に仙台の女性たちが声を届けるプロジェクトに参加して1年が過ぎた。今回の中間案に声は届いているのか。写真等は使用されているようだが、内容は具体的なものがないと思った。	ご提言いただきました「女性たちの政策提言（2019年12月）」は2020年2月に開催した総合計画審議会の「地域とくらし部会」及び「まちと活力部会」に報告し、審議の参考にしていただきました。10年間の計画であり、変化の大きい社会環境を見据えて、目指す都市の実現に向け、市民の皆様をはじめ、多くの方々のチャレンジが生まれる契機となるような計画を目指し、具体的な取り組みを記載して関わり方を絞るのではなく、基本的な方向性を示すことを重視いたしました。具体的な事業につきましては、概ね3年ごとに定める実施計画において示してまいりますので、その際の参考にもさせていただきます。	説明会
556	令和元12月末に、「新総合計画に仙台の女性たちが声を届けるプロジェクト」参加メンバーの1人として、市長へプロジェクトメンバーがまとめた提言を届けた。令和元年秋に話し合った多くの理想が中間案にも盛り込まれていることに気付いて説明会に参加して良かったと思っている。	ご提言いただきました「女性たちの政策提言（2019年12月）」は2020年2月に開催した総合計画審議会の「地域とくらし部会」及び「まちと活力部会」に報告し、審議の参考にしていただきました。提言いただいた「多様性・共生」をはじめとした7分野で描く都市の姿と重なる部分も多いものと考えております。具体的な事業につきましては、概ね3年ごとに定める実施計画において示してまいりますので、その際の参考にもさせていただきます。	説明会
557	地域の具体的な要望等は、別に意見する場を設けるべきだ。反映する場がないから、この機会にと思っている人が多い気がする。意見を反映させることは良いことだと思うが。	個別の要望等につきましては、平日頃から行っている地域懇談会の場などを活用してお伺いしてまいります。また、今回の基本計画をはじめ、個別の計画において実施するパブリックコメントなどを通じてご意見をいただいた場合におきましても、関係課と共有するなど参考にさせていただいております。	説明会
558	基本計画の推進の実施者は人である。高齢者としては、計画から実施まで「熟年班」を設置し、いきいきはつらつ100歳まで元気に議論させて欲しい。	各区においては、各町内会長をはじめとする地域懇談会などの場を通じて、地域の現状や課題の把握に努めているところであり、それらを踏まえて、区ごとの地域づくりの方向性などの検討を進めております。今後とも、様々な地域の状況についてお伺いしながら、地域づくりに活かしてまいりたいと考えております。	説明会
559	まちづくりは地域の個性を生かしてそこに住む市民が提案してその声が反映され、行政がその声に基づき実行する事を望む。	仙台の都市個性や地域の特徴を活かすことは、本計画においても重視している視点であり、具体的な施策の検討にあたりましても、市民の皆様のお声を伺いする機会の確保に努めてまいりたいと考えております。	パブコメ

560	東北大学教授の苦言「仙台には必要なものはあるが、ドキドキ・ワクワクするものがない」本当に同感である。アンケートに答えるだけでなく、参加したいので仙台市総合計画審議会委員になりたい。多様な人の意見が必要だと思う。病気の人の代表として。 #病気の人の生きづらさ解消と仙台市のワクワクドキドキを具現化してきましょう！！ #スケート都市仙台ONE TOHOKUの活動を応援する。	総合計画審議会委員は、地域で活動する実践者の方を含め様々な有識者の方々や市議会議員で構成しております。計画の策定にあたりましては、区ごとのワークショップをはじめ、様々な市民参画イベントを開催し、立場や世代を超えた様々な方々のご意見を踏まえながら検討を進めてきたところであり、今後とも、政策形成過程等において多様な主体の皆様に参加いただく機会を確保してまいりたいと考えております。	パブコメ
561	これまで何度もいろいろと提案したが、聞き流されるだけだった。市政に関心がありやる気のある人の気持ち下がりが、他県への流出へつながるだろう。参加したくても参加できない。社会問題解決はボランティアだと思わないで欲しい。多様な意見を取り入れるために、有識者だけでなく苦しんでいる当事者もメンバーに入れるようにしてほしい。		イベント
562	このような市民からの意見交流の機会が増えると、大事なことが具体的にになっていて良いのではないかと思った。	計画の策定にあたりましては、区ごとのワークショップをはじめ、様々な市民参画イベントを開催し、ご意見を踏まえながら検討を進めてきたところであり、今後とも、政策形成過程等において多様な主体の皆様に参加いただく機会を確保してまいりたいと考えております。	イベント
563	中間案は、市の現状や課題を受けて今後の可能性を創出するための施策をまとめたものであると思うが、その根拠となるデータに、住民や市・区に携わる人々の意見や生活の実態を意識した内容が不足しているように感じた。「現場の」実情をもとにした施策の立案・実施を期待する。	計画の策定にあたりましては、区ごとのワークショップをはじめ、様々な市民参画イベントを開催し、ご意見を踏まえながら検討を進めてきたところがございます。チャレンジプロジェクトでお示ししている現状は、客観的な統計データやアンケートを中心に記載しております。今後とも、地域の懇談会などを通して住民の皆様の声の伺いながら、政策形成や具体の取り組みを進めてまいりたいと考えております。	説明会
564	コンサルタントに依頼しているのか。市担当とどのような役割分担をしているのかわからないが、このまま進めるのであれば、後日、市と、審議会委員の方々への厳しい意見が生まれることになる。	コンサルタントには依頼せず、有識者や市議会議員で構成する総合計画審議会において協議を行っていただき、それを踏まえ市としても検討を進めております。	パブコメ
565	横文字の理解に時間を要した。	まちづくりの理念「"The Greenest City"Sendai」について丁寧に周知広報するとともに、引き続き、文章表現について検討してまいります。	説明会
566	さまざまな分野の人々が集い、審議されたということで大変良い内容になっていると思うが、横文字が多すぎるような気がする。グローバル化・多文化共生という点からすれば、いろいろな言語が使用されるのは大変良いとは思いますが、基本は日本語だと思う。日本語では回りくどい、印象が薄い表現になってしまうということであれば仕方ないが、もっと日本語を大事にして表現をして欲しいと思う。		説明会
567	行政計画なので仕方ないが、多くの心地よい言葉・キーワードが総花的に散りばめられていて、ポイントが分かりにくかった。		説明会

2 パブリックコメントや中間案説明会、市民参画イベントに対するご意見（22件）

No.	ご意見・ご提案等の概要	本市の考え方	聴取手法
568	チャレンジプロジェクトについて、深く内容を知りたい。	チャレンジプロジェクトに沿った具体の事業につきましては、概ね3年ごとに定める実施計画において示してまいります。	パブコメ
569	説明会での質疑応答の際には、「～取り組みを通じて」「～を図るとする」という起承転結が見えない。	市民の皆さまにとって読みやすい計画にしたいと考えており、文章表現は引き続き検討してまいります。	パブコメ
570	説明会を始める前に、基本計画の位置付けや狙い、続く実施計画との関係を丁寧に説明すれば、質問内容も建設的な意見が出たのではと残念に思った。	説明会の進め方等に関するご指摘をいただき、ありがとうございます。今後の同趣旨の説明会等開催の参考にさせていただきます。	パブコメ
571	「～取り組みを通して」「～を図ることとする」と起承転結が見え、押し図られる展開にしたなら、会場内からの質問内容も意に沿ったものになったのでは。ただし、郡市長の概要説明及び質問者に対する対応はわかりやすくソフトタッチでとてもよかった。		説明会
572	市が考えるまちづくりは長期的であらゆる角度からまちづくりが考えられているが、もっとわかりやすく、簡潔で具体的な例を挙げて提案して欲しい。情報の少ない市民が「仙台市基本計画（中間案）」に対するご意見を言う事は難しい。	中間案の策定後、概要版の作成や中間案説明会の開催のほか、具体の事例紹介などを盛り込んだイベントの開催を行ってまいりました。今後とも、ご指摘を踏まえながら、市政への市民参画機会の確保を図ってまいります。	パブコメ
573	とても短い期間のパブコメで戸惑った。	パブリックコメントは令和2年9月1日から10月9日まで実施しておりました。1カ月以上の期間を設けましたが、中間案説明会の後やイベントの後にパブリックコメントを提出するには短い期間となることもあったと存じます。	パブコメ
574	パブリックコメントで200字というのは少なすぎるのではないかと思う。協働という意味も含めて、意見は受け止めるべきだと思う。	専用はがきと同等の200文字に設定しておりましたが、ご指摘のとおり改善する余地がございます。郵送やEメール、FAXのような応募手段も維持しながら、市民の皆さまのご意見を広くいただけるよう今後も努めてまいります。	パブコメ
575	中学生の発言の場をいただき感謝している。	計画の策定にあたりましては、今般のパブリックコメントや中間案説明会、区ごとのワークショップをはじめ、様々な市民参画の取り組みを実施し、ご意見を踏まえながら検討を進めてまいりました。策定後においても基本計画の共有、進捗状況の情報発信を行うとともに、今後とも政策形成過程等において立場や世代を超えて多様な方々からご意見を伺う機会を設けてまいりたいと考えております。	説明会
576	外国人留学生や労働者からもそれぞれの自国のやり方を参考意見として聞くべき。		パブコメ
577	いろいろな人の考えや自分の意見も話せたので、良い機会となった。		説明会
578	この説明会を機に、自分の住むまちなどについて少しでも興味を持って考えてみたい。		説明会
579	知ることができた。		説明会
580	とても勉強になった。		説明会
581	中間案については、理解できることがあった。今後も説明会があれば良いと思う。		説明会
582	この説明会に参加しなければ、内容が詳しくわからなかったし、関心や興味を持つこともなかった。参加して良かったと思う。今後も仙台市基本計画に興味を持っていきたい。		説明会
583	質疑応答が活発で良い。もっと具体的な応答であれば。	説明会場での質疑やアンケートにおいては、様々なご意見を出していただき、大変感謝しております。基本計画は10年間の計画であり、まちづくりの基本的な方向性を示すことを重視した計画としており、具体の事業につきましては、概ね3年ごとに定める実施計画において示してまいります。	説明会
584	盛りだくさんの課題やニーズの中で丁寧に回答いただいたと思う。		説明会
585	イメージや構想的な説明を中心に構成された説明会だった。今後の具体的な立案と発表を期待したい。		説明会
586	説明会の壇上や市の幹部にも男性だけでなく女性や若い人を登用し、外国人の人や障害のある人など、もっと多様な人が、政策のような説明会の場に来るようにして、本当の意味で、市民のいろんな多様な意見を尊重するような行政の運営をして欲しいと思っている。	市役所全体で申しますと、女性は随分と増えております。管理職も増えてまいりました。また、障害を持っておられる方々の雇用も進んでおります。ご指摘のとおり、年齢、性別、国籍、障害の有無などに関わらず、それぞれの方々が持っている力を発揮できる環境づくりが重要であると考えており、そのような行政運営に努めてまいりたいと存じます。	説明会
587	①～⑧のチャレンジプロジェクトについて、スライドの中では具体事例を紹介したが、基本計画だけ見ても実際にどのような活動が行われているのかわかりにくいと感じた。そのため、実際の活動事例や、代表者の連絡先等が載っていれば、計画を見た市民もどんどん参画しやすいのではと思った。	具体の取り組み事例の紹介などを織り交ぜた今回のイベントのように、市民の皆さまの計画へのご理解を深める機会を設けながら、計画に掲げる目指す都市の姿の実現に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。	イベント
588	概要版を読んだだけではわからないことが、参加してみて良く内容を理解できた。		イベント
589	計画案について広く市民からの意見を集めるこの様な機会を設け、将来に向けた仙台市の強い意気込みを感じた。		イベント

3 具体的な事業へのご要望など、上記に分類が困難なご意見（64件）

個別の事業へのご要望などにつきましては、関係課において共有するとともに、今後の市政運営の参考にさせていただきます。